

令和 5 (2023)年度

シラバス

- 2 年次 -

科目No.	BNS03-2R			授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	医療統計学			担当教員 E-Mail	中谷 勇哉		
基本項目	専 攻	科 目 区 分			単 位 数		履修期間
	理学療法学	自然科学系			必 修	1 単位	前 期 (16h)
	作業療法学						
	言語聴覚学						
教員の実務経験と 授業内容の関連							
授業内容の要約		EBM(根拠にもとづいた医療)を行うため、また卒業研究等を行う前提知識として、統計学の基礎と医療分野での活用法について学習する。このことにより、本学のディプロマ・ポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」を達成する。					
学修目標 到達目標		1. 基礎的な統計手法の意味や意図を理解できる 2. 医療分野における統計を根拠とした議論に対し、その妥当性を検討することができる 3. 医療分野における統計学的知識の重要性と限界について説明できる					
対面授業の 進め方		基本的に座学だが、2 回の演習を行う。高校数学のデータ分析・確率・統計分野を復習しておくことと理解に役立つ。教科書は特に指定しないが、各自で参考文献を参照し予復習すること。特に、仮説検定・推定の基本的な考え方については繰り返し復習しておくこと。					
遠隔授業の 進め方		基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、stream 上に授業動画をアップロードする。					
授業計画				授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. オリエンテーション・研究手法 (講義の目的等について)				復習: EBM の重要性についてまとめること			
2. 統計の基礎 1 (要約統計量、平均、分散、標準偏差)				復習: 統計量の計算に慣れておくこと			
3. 統計の基礎 2 (サンプリング、標本、中心極限定理)				復習: 中心極限定理についてまとめること			
4. 仮説検定 1 (z 検定、t 検定)				復習: z 検定・t 検定の計算に慣れておくこと			
5. 仮説検定 2 (カイ 2 乗検定)				復習: カイ 2 乗検定の計算に慣れておくこと			
6. 仮説検定 3 (演習)				予習: 検定の考え方に慣れておくこと			
7. 推定 (区間推定)				復習: 区間推定の計算に慣れておくこと			
8. 定期試験及びフィードバック				復習: 試験で誤答した部分をまとめること			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト 30 %		□レポート %		□定期試験 70 %	□その他 %
	基準等	講義内で小テストを2 回行い、理解度を評価する。				定期試験において講義内容全般について理解度を問う。	
教科書		著者		タイトル		出版社	発行年
参考図書		五十嵐中ほか		「「医療統計」わかりません!!」		東京図書	2010
		白砂堤津耶		「例題で学ぶ初歩からの統計学」第 2 版		日本評論社	2015
履修要件等							
研究室		1 号館 1 階 非常勤講師控室			オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。	

科目No.	BFL03-2E		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	医療英語		担当教員 E-Mail	岡田 守弘		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	外国語系	選択必修	1 単位	前 期 (16h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
教員の実務経験と 授業内容の関連		米国ミシガン大学医学部で 2 年以上勤務経験のある教員が、医療英語について講義する				
授業内容の要約		本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程における基礎科目であり、これから学ぶ臨床医学、専門科目の基礎となる科目である。 英語は医学の分野においても世界の共通語であり、最新の知見や研究成果は英語で発信されることが一般的である。また、医療現場においても医学用語は英語で表現されることは少なくない。このため、医学英語に精通しておくことは医療人として重要である。本講座では、臨床現場における実践的な英語力を養う。				
学修目標 到達目標		1. 英語で患者さんと基本的な医療面接ができる。 2. 臨床現場で用いられる基本的な医学英語を理解できる。 3. 基本的な英語による医学情報を理解できる。				
対面授業の 進め方		医療現場を想定した場面でのアクティブラーニング型授業を行う。テキストをベースに患者役と医療者役に分かれて英語でロールプレイを行う。このため、リスニングおよびテキストの音読練習による十分な予習が授業参加への前提条件となる。授業には英和辞書（電子辞書も可）を持参すること。				
遠隔授業の 進め方		TEAMS による双方向の授業を行う。				
授業計画			授業時間外に必要な学修			60 分以上
1. Self-introductions (p2～11)			指定された音声データを用いてリスニングと音読練習を行う。			
2. Communicating with patients (p12～21)			指定された音声データを用いてリスニングと音読練習を行う。			
3. Communicating with family (p22～31)			指定された音声データを用いてリスニングと音読練習を行う。			
4. History taking (p32-41)			指定された音声データを用いてリスニングと音読練習を行う。			
5. Basic instructions (p42～51)			指定された音声データを用いてリスニングと音読練習を行う。			
6. Explaining treatment & results (p52～61)			指定された音声データを用いてリスニングと音読練習を行う。			
7. How pain affects the patient (p52～61)			指定された音声データを用いてリスニングと音読練習を行う。			
定期試験（期末レポート）						
8. 総括（フィードバック）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 70 %	■その他 30 %	
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。	授業の参加態度にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	代田浩之	医療学生のためのつたわる英語			南江堂	2022
参考図書	特に指定しない					
履修要件等	英文法、英文購読、一般臨床医学を履修しておくことが望ましい					
研究室	1 号館 5 階 第 15 研究室			オフィスアワー	毎週月曜日 16:20～17:50	

科目No.	FBM11-2E		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	形態・機能学特論解剖領域		担当教員 E-Mail	後藤 隆洋・大箆 友博		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体 の発達		選択必修	1 単位	前 期 (16h)
	作業療法学					
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	本科目は本学のディプロマポリシーである「リハビリテーション領域における基礎知識の養成・思考力の養成」を達成するための科目である。第 1 年次に学習した解剖学座学および生理学など関連科目の知識を基礎として、人体の構造と機能の関連性に注目してさらに深い理解ができるようにする。主に中枢神経系に焦点を当てて、苦手領域を克服する。また循環器や泌尿器などの 3 次元的な理解が必要な領域についても焦点を当てる。臨床で登場する場面の提示や国家試験に対する展望などの工夫をこらし講義する。これら基礎医学の本質的領域の修得は、臨床医学系の専門科目の理解、延いては医療従事者としての社会的貢献への基盤として極めて有用である。なお思考力は、復習プリントや小テストを用いることで、課題の発見と解答の探索・解決能力を身に着けることで養成する。					
学修目標 到達目標	1. 中枢神経のマクロ・ミクロ形態、発生学的な神経系のなりたちを理解する。また、伝導路を正確に理解することができる。さらに反射との違いを理解することができる。 2. 心臓、血管およびリンパ系の構造と機能を理解することができる。 3. 尿の生成と排泄に関する器官の構造とその機能を理解することができる。 4. 栄養の代謝経路や呼吸器の理解を通じて、循環系の機能について理解することができる。					
対面授業の 進め方	臨床解剖学方式で講義する。各器官が目的とする機能を果たすために最適の構造ができあがっているかを関連付ける。そのために、適宜模型や質疑応答を用いたアクティブラーニング手法を積極的に取り入れる。医学用語を確実に理解（書ける、読める）し、基礎知識をしっかりと固めるように努める。講義の中では各回の復習用課題、小テストとして穴埋め式問題や択一式問題を配布・出題し、解答解説も行う。これらは学生が手足を動かして主体的な学習を進めるためのシーズとなる。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、状況により課題の郵送、メールによる配信、Microsoft office365 の Teams や Stream を使用した双方向通信の授業のいずれかあるいは組み合わせで行う。遠隔授業時の出席確認は毎回の課題の提出により行い、質疑応答については課題の提出に併せて上記通信方法のいずれかで行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 大脳基底核（レンズ核、扁桃核、前障、尾状核）と脳室系			前年度の授業内容の復習			
2. 錐体路、錐体外路、運動の制御と反射経路			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
3. 上行性伝導路と固有感覚路			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
4. 神経組織の基本構造・脳神経の機能・神経内分泌			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
5. 血液・リンパ液・髄液の関係、脳および心臓への血液供給と関連血管、リンパ系（リンパ節の構造・機能、胸管の走行と循環、リンパの働きと免疫）			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
6. 消化管の基本構造、胃腺構成細胞の働き、小腸と大腸の構造と作用の違い、肝臓の機能と門脈系、腹膜の構成と配置			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
7. 腎臓の構造（腎小体、尿細管、集合管）と尿生成メカニズム、尿排泄調節（畜尿・排尿メカニズム）			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
定 期 試 験（期 末 レ ポ ー ト）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	□レポート 0%	■定期試験 90%	□その他 %	
	基準等	毎回の授業中に実施する小テストや課題（記述式）を10%加算する。	特段のレポート課題はしない	国試形式の多肢選択や穴埋め、論述などで出題し、その成績を90%換算する。		
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	野村 巖	「標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版」			医学書院	2020
参考図書	寺島俊雄	「神経解剖学講義ノート」			金芳堂	2011
	井出千束	臨床神経解剖学			医歯薬出版	2013
履修要件等	「形態機能学解剖学領域Ⅰ・Ⅱ」を履修済であること					
研究室	後藤：1号館5階 第12研究室 大籠：1号館5階 第8研究室			オフィスアワー	後藤：毎週木曜日 12：10～13：00 大籠：毎週木曜日 12：00～13：00	

科目No.	FCM01-2R, FCM02-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	小児科学		担当教員 E-Mail	末永智浩 他 和歌山県立医科大学 小児科学教室講師		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必 修	1 単位	前 期 (16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学				
教員の実務経験と 授業内容の関連		大学病院で実臨床にあたっている教員がその経験を活かして、小児疾患の病態、疾患への対応や治療・管理について基本的な考え方を講義する。				
授業内容の要約		小児領域においてもリハビリテーションはなくてはならないものであるが、良質のリハビリテーションを提供するためには疾患を有する児への理解が欠かせない。その理解を深めるのが本講義の主たる目的である。				
学修目標 到達目標		1. 小児のこと（身体面、精神面ともに）を理解することができる 2. 小児を学ぶことで成人、老人への理解を深めることができる 3. 発達障害など成人へ移行する諸問題を理解することができる				
対面授業の 進め方						
遠隔授業の 進め方		Microsoft office365 teams を使用した Live 配信授業を行う。				
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 消化器・腎疾患				教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。		
2. 神経・筋・骨系疾患				教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。		
3. 小児の発達				教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。		
4. 心身医学・虐待・重症心身障害児				教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。		
5. 循環器				教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。		
6. 新生児・未熟児				教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。		
7. 血液疾患・腫瘍				教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。		
8. 感染症・感染予防				教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。		
定 期 試 験 (期 末 レ ポ ー ト)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	□定期試験 90 %
	基準等					□その他 10 %
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	富田 豊	小児科学			医学書院	2018 年
参考図書	特に指定しない					
履修要件等						
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室			オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。	

科目No.	FCM02-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	内科学 I		担当教員 E-Mail	岡田 守弘		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必 修	1 単位	前 期 (30h)
	作業療法学					
教員の実務経験と 授業内容の関連	大学付属病院消化器内科・総合診療内科及び急性期総合病院内科で 25 年以上臨床経験のある教員が、内科学について講義する。					
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程における専門基礎科目であり、これから学ぶ臨床医学、専門科目の基礎となる科目である。 理学療法学・作業療法学・言語聴覚学が本学の教育の基本であり、この趣旨に沿い内科学の教育を行う。講義を通して理学療法学・作業療法学における内科学の必要性について知り、内科学の知識が今後の理学療法学・作業療法学の発展に寄与することを期待する。					
学修目標 到達目標	1. 内科学の基本的な概念を修得できる 2. 理学療法学・作業療法学における内科学の必要性を知ることができる 3. 循環器、呼吸器、消化器領域の基本的な画像診断ができる 4. 内科学の知識を臨床現場で応用することができる					
対面授業の 進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。疾患を理解するうえで、解剖学、生理学、病理学の知識が必要である。これらの科目の復習しておくことが望ましい。					
遠隔授業の 進め方	対面授業が困難な場合、TEAMS による遠隔授業を行う。双方向の授業とし、できる限り対質疑応答も行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 内科学総論・症候学①（教科書 p2～54）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
2. 症候学②（教科書 p38～54）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
3. 循環器疾患①（教科書 p55～100）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
4. 循環器疾患②、画像診断（教科書 p55～100）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
5. 循環器疾患③（教科書 p55～100）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
6. 循環器疾患④（教科書 p55～100）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
7. 呼吸器疾患①（教科書 p102～141）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
8. 呼吸器疾患②、画像診断（教科書 p102～141）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
9. 呼吸器疾患③（教科書 p102～141）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
10. 消化器疾患①（教科書 p142～173）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
11. 消化器疾患②、画像診断（教科書 p142～173）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
12. 消化器疾患③（教科書 p142～173）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
13. 肝・胆・膵疾患①（教科書 p174～200）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
14. 肝・胆・膵疾患②（教科書 p174～00）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 80 %		■その他 20 %
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。		授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。

教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	奈良勲ほか	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版		医学書院	2020
参考図書	特に指定しない				
履修要件等	形態・機能学を履修しておくことが望ましい				
研究室	1号館5階 第15研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 16:20～17:50	

科目No.	FCM03-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	内科学（含老年医学）（S T）		担当教員 E-Mail	岡田 守弘		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学		必 修	1 単位	前 期（30h）
教員の実務経験と 授業内容の関連	大学付属病院消化器内科・総合診療内科及び急性期総合病院内科で 25 年以上臨床経験のある教員が、内科学について講義する					
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程における専門基礎科目であり、これから学ぶ臨床医学、専門科目の基礎となる科目である。 理学療法学・作業療法学・言語聴覚学が本学の教育の基本であり、この趣旨に沿い内科学の教育を行う。講義を通して言語聴覚学における内科学の必要性について知り、内科学の知識が今後の言語聴覚学の発展に寄与することを期待する。					
学修目標 到達目標	1. 内科学の基本的な概念を修得できる 2. 言語聴覚学における内科学の必要性を知ることができる 3. 内科学の知識を臨床現場で応用することができる					
対面授業の 進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。疾患を理解するうえで、解剖学、生理学、病理学の知識が必要である。これらの科目の復習しておくことが望ましい。					
遠隔授業の 進め方	TEAMS による遠隔授業を行う。双方向の授業とし、できる限り対質疑応答も行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 内科学総論・症候学（教科書 p1~24）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
2. 循環器疾患①（教科書 p89~166）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
3. 循環器疾患②（教科書 p89~166）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
4. 呼吸器疾患①（教科書 p25~88）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
5. 呼吸器疾患②（教科書 p25~88）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
6. 消化器疾患①（教科書 p167~222）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
7. 消化器疾患②（教科書 p167~222）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
8. 肝・胆・膵疾患（教科書 p223~276）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
9. 血液・造血器疾患（教科書 p471~506）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
10. 代謝疾患（教科書 p277~310）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
11. 内分泌疾患（教科書 p311~346）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
12. 腎・泌尿器疾患（教科書 p347~406）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
13. 膠原病・アレルギー疾患・免疫不全（教科書 p507~548）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
14. 感染症（教科書 p549~580）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
定 期 試 験（期 末 レ ポ ー ト）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 80 %	■その他 20 %	
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。	授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	浅野嘉延	なるほどなっとく内科学 第2版		南山堂		2020

参考図書	特に指定しない			
履修要件等	形態・機能学を履修しておくことが望ましい			
研究室	1号館5階 第15研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 16:20～17:50	

科目No.	FCM03-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	内科学Ⅱ		担当教員 E-Mail	岡田 守弘		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必 修	1 単位	後 期 (30h)
	作業療法学					
教員の実務経験と 授業内容の関連	大学付属病院消化器内科・総合診療内科及び急性期総合病院内科で 25 年以上臨床経験のある教員 が、内科学について講義する					
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と 連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程に おける専門基礎科目であり、これから学ぶ臨床医学、専門科目の基礎となる科目である。 理学療法学・作業療法学・言語聴覚学が本学の教育の基本であり、この趣旨に沿い内科学の教育 を行う。講義を通して理学療法学・作業療法学における内科学の必要性について知り、内科学の知 識が今後の理学療法学・作業療法学の発展に寄与することを期待する。					
学修目標 到達目標	1. 内科学の基本的な概念を修得できる 2. 理学療法学・作業療法学における内科学の必要性を知ることができる 3. 基本的な栄養学の重要性を理解し、臨床現場で活用できる。 4. 内科学の知識を臨床現場で応用することができる					
対面授業の 進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。疾患を理解するうえで、解剖学、生理学、病理学の知識が 必要である。これらの科目の復習しておくことが望ましい。					
遠隔授業の 進め方	TEAMS による遠隔授業を行う。双方向の授業とし、できる限り質疑応答も行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 血液・造血器疾患①（教科書 p201～227）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
2. 血液・造血器疾患②（教科書 p201～227）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
3. 血液・造血器疾患③（教科書 p201～227）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
4. 代謝疾患、栄養学基礎①（教科書 p228～250）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
5. 代謝疾患②（教科書 p228～250）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
6. 内分泌疾患①（教科書 p251～269）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
7. 内分泌疾患②（教科書 p251～269）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
8. 腎・泌尿器疾患①（教科書 p270～296）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
9. 腎・泌尿器疾患②（教科書 p270～296）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
10. 膠原病・アレルギー疾患・免疫不全①（教科書 p297～320）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
11. 膠原病・アレルギー疾患・免疫不全②（教科書 p297～320）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
12. 感染症①（教科書 p321～339）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
13. 感染症②（教科書 p321～339）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
14. 感染症③（教科書 p321～339）				復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）		
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト%	□レポート %	■定期試験 80 %	■その他 20 %	
	基準等			定期試験にて授業内容 全般についての理解度 を評価する。	授業中の質疑応答にて理 解度を評価する。遅刻、 無断退室、講義中の私語 ・スマートフォンの使用 等は減点の対象とする。	

教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	奈良勲ほか	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版		医学書院	2020
参考図書	特に指定しない				
履修要件等					
研究室	1号館5階 第15研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 16:20～17:50	

科目No.	FCM05-2R, FCM09-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	神経内科学		担当教員 E-Mail	出田 淳		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必 修	1 単位	前 期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学				
教員の実務経験と 授業内容の関連	神経内科疾患の診断治療臨床経験 34 年、療法士教育経験 24 年の教員が、実際の臨床現場の神経疾患を講義する。					
授業内容の要約	神経症候学、診断学、多数の神経筋疾患について学び、医療従事者として生涯にわたり、それらの知識を研鑽する姿勢を習得する科目である。					
学修目標 到達目標	1. 神経解剖、神経生理、神経薬理、分子遺伝学を説明できる 2. 神経症候学、診断学を理解し、患者さんの神経所見の評価ができる 3. 各神経疾患につき病因、症候、診断、治療についての系統的に説明できる					
対面授業の 進め方	教科書中心の内容をパワーポイント使用にて授業を行う。 第 1 回より最終講義まで互いに関連した内容であるため、可能な限りの聴講が必須である。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teams を使用した授業の LIVE 配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 総論) 神経疾患とリハビリ・神経解剖学の基礎 (教科書 pp.1－19)			神経疾患とリハビリをノートにまとめる			
2. 総論) 神経整理学の基礎・神経薬理学の基礎 (教科書 pp.19－29)			神経解剖学・薬理学の基礎をノートにまとめる			
3. 総論) 分子遺伝学・神経系の発達と加齢 (教科書 pp.30－55)			左記の内容をノートにまとめる			
4. 神経診断学) 神経診断学とは・意識障害・高次脳機能障害 (教科書 pp.57－74)			意識障害・高次脳機能障害をノートにまとめる			
5. 神経診断学) 脳神経 (教科書 pp.75－85)			1 番から 12 番の脳神経をノートにまとめる			
6. 神経診断学) 運動系・感覚系 (教科書 pp.86－104)			運動・感覚系をノートにまとめる			
7. 神経診断学) 自律神経・反射・検査法 (教科書 pp.105－136)			自律神経・反射・検査法をノートにまとめる			
8. 中間試験 (教科書 pp.1－136)			試験範囲の再確認			
9. 神経診断学) 変性疾患 (パーキンソン病) (教科書 pp.161－180)			錐体外路疾患をノートにまとめる			
10. 神経診断学) 変性疾患 (脊髄小脳変性症と運動ニューロン病) (教科書 pp.181－201)			脊髄小脳変性症と運動ニューロン病をノートにまとめる			
11. 神経診断学) 脱髄疾患・末梢神経障害 (教科書 pp.202－223)			脱髄疾患と末梢神経障害をノートにまとめる			
12. 神経診断学) 筋疾患・神経筋接合部疾患 (重症筋無力症) (教科書 pp.224－243)			筋疾患・神経筋接合部疾患 (重症筋無力症) をノートにまとめる			
13. 神経診断学) 脊髄疾患・神経系感染症・先天異常・脳性麻痺 (教科書 pp.251－297)			脊髄疾患・神経系感染症・先天異常・脳性麻痺をノートにまとめる			
14. 神経診断学) 外傷・自律神経疾患・機能性疾患・認知症 (教科書 pp.298－340)			外傷・自律神経疾患・機能性疾患・認知症をノートにまとめる			
定 期 試 験 (教科書 pp.1 - 136 pp.161 - 243 pp.251 - 340)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)			神経内科学を振り返り、今後の学習計画を立案			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100% □その他 %
	基準等					定期試験 (中間試験・期末試験)
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	江藤 文夫 他	「神経内科学テキスト」改訂第 4 版		南江堂		2017

参考図書	なし			
履修要件等				
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。	

科目No.	FCM06-2R, FCM10-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	臨床神経学		担当教員 E-Mail	新谷 亜紀		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必 修	1 単位	後 期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学				
教員の実務経験と 授業内容の関連	病院で脳神経外科医として臨床勤務経験のある教員がその経験を生かして臨床神経学についての講義を行う。					
授業内容の要約	神経解剖・機能を再理解、再認識し、臨床に応用すべく、諸疾患（その発生要因と症状並びに診断）、諸検査（頭部 CT、MRI 等）、諸治療について学習する。当該科目は教育課程における専門科目でありこれまでに履修した神経内科学での知識を再確認し、脳神経外科学的アプローチでも認知する。					
学修目標 到達目標	1. 脳・脊髄・末梢神経の解剖、生理が確実に理解できる→2.に繋げる。 2. 神経疾患の症状と診断、治療が理解できる→臨床実習等において知識を体得する。 3. セラピストという職に夢と誇りを持つべく、自主的に学習できる					
対面授業の 進め方	パワーポイント中心に説明する。資料は配布するが、自ら考える授業にする。授業内容については自宅でその日のうちに復習し、理解できなかった部分を整理する					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teams を使用した授業の LIVE 配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 神経系の解剖・生理の再理解 1			解剖学・生理学を予復習			
2. 神経系の解剖・生理の再理解 2			同上			
3. 神経系の解剖・生理の再理解 3			同上			
4. 脳血管障害（くも膜下出血）			神経内科学で学んだ症状・診断の予復習			
5. 脳血管障害（脳出血）			くも膜下出血との違いを調べる			
6. 脳血管障害（脳梗塞 1 病型分類と診断）			神経内科学で学んだ症状・診断の予復習			
7. 脳血管障害（脳梗塞 2 治療）			脳梗塞の治療の予復習			
8. 頭部外傷			硬膜外と硬膜下の解剖学的位置関係を復習			
9. 脳腫瘍 1			良性腫瘍と悪性腫瘍の種類を調べる			
10. 脳腫瘍 2			9.で学んだことをしっかり復習する			
11. 神経変性疾患 1			神経内科学で学修したことを復習			
12. 神経変性疾患 2			同上			
13. 神経変性疾患 3			同上			
14. 末梢神経疾患、筋疾患			同上			
定 期 試 験（期 末 レ ポ ー ト）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100 %	□その他 %	
	基準等			授業の内容全般についての理解度を評価する		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特になし	左に同じ		左に同じ		
参考図書	医療情報科学研究所	病気がみえる<vol.7>脳・神経 第2版		メディックメディア		2017
履修要件等						
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FCM07-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	整形外科科学		担当教員 E-Mail	金澤 元宣		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必 修	1 単位	前 期 (30h)
	作業療法学					
教員の実務経験と 授業内容の関連	りんくう総合医療センターにて、整形外科医として診療を行っている。この経験を活かして、必要な知識についての講義を行う。					
授業内容の要約	本講義では運動器の働きを中心となる骨、関節、筋、神経の機能や病態との関係について学び、診断や治療へ結びつける。また、関節リウマチと類似疾患、慢性関節疾患、代謝性骨疾患、先天性骨系統疾患、骨・軟部腫瘍など疾患総論についても学修する。					
学修目標 到達目標	1. 整形外科的診断法および検査法について理解できる 2. 運動器疾患の病態、症状、治療法が理解できる 3. 整形外科分野における全身性疾患について理解できる					
対面授業の 進め方	パワーポイントを中心として参考資料としてプリントを配布する					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teams を使用した授業の LIVE 配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
解剖、整形外科総論			左記授業後、復習をする			
2. 外傷 1			左記授業後、復習をする			
3. 外傷 2			左記授業後、復習をする			
4. 外傷 3			左記授業後、復習をする			
5. 関節疾患 1			左記授業後、復習をする			
6. 関節疾患 2			左記授業後、復習をする			
7. 脊椎疾患 1			左記授業後、復習をする			
8. 脊椎疾患 2			左記授業後、復習をする			
9. リウマチ疾患			左記授業後、復習をする			
10. 小児疾患			左記授業後、復習をする			
11. 感染性疾患			左記授業後、復習をする			
12. 腫瘍性疾患			左記授業後、復習をする			
13. 整形外科各論 1			左記授業後、復習をする			
14. 整形外科各論 2			左記授業後、復習をする			
定 期 試 験 (期 末 レ ポ ー ト)						
15. 整形外科各論 3						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100 %	□その他 %	
	基準等			授業の内容全般についての理解度を評価する		
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	奈良勲	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科科学 第 4 版			医学書院	2017
参考図書	特に指定しない					
履修要件等						
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FCM08-2E		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	整形外科科学特論			担当教員 E-Mail	中川幸洋 前田孝浩 佐々木貴英 原田悌志 玉井英伸	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		選択必修	1 単位	後 期 (16h)
	作業療法学					
教員の実務経験と授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を活かして、整形外科医の立場から講義する。					
授業内容の要約	本講義では、将来臨床の場においてよく関わる疾患を中心に、その病態、診断、治療法について教示する。専門的な理学、作業療法学を学ぶ上での基礎となるので、十分に理解を深めること。臨床で頻度の高い運動器における主要疾患や外傷の発症機序、症状、検査、治療、その臨床成績などについて解説する。					
学修目標 到達目標	1. 脊椎疾患、脊椎・脊髄損傷、末梢神経損傷を理解する 2. 外傷学については、主な骨折の特徴、治療法について説明できる 3. スポーツ傷害の発生機序、治療法を説明できる 4. 足関節、足部の構造や疾患、外傷について説明できる 5. 膝関節・股関節疾患を理解する 6. 骨粗鬆症と骨脆弱骨折について理解し、予防法、治療法、問題点について説明できる					
対面授業の 進め方	パワーポイントを中心に参考資料としてプリントを配布					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teams を使用した授業の LIVE 配信を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 高齢化社会における整形外科疾患、低侵襲手術について				講義内容の復習		
2. 膝関節、股関節の疾患と人工関節について				講義内容の復習		
3. 慢性腰痛、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア、等				講義内容の復習		
4. 骨折治療と術後管理・早期リハ				講義内容の復習		
5. 骨粗鬆症および骨粗鬆症性脆弱性骨折の疫学、診断と治療				講義内容の復習		
6. 頸髄症、脊柱靱帯骨化症、脊椎脊髄損傷、等				講義内容の復習		
7. 下肢、足部疾患 等				講義内容の復習		
定 期 試 験 (期 末 レ ポ ー ト)						
8. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト 20%	□レポート 20%	□定期試験 50%	□その他 10%	
	基準等	講義の後に行い、成績評価に考慮する	定期試験前に行い成績評価に考慮する	講義内容全般についての理解度を評価する	出席および授業態度の評価	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	井樋 栄二ほか	標準整形外科学 第 14 版		医学書院		2020
参考図書	特に指定しない					
履修要件等						
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室			オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。	

科目No.	FCM12-2E, FCM01-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次		
授業科目名	リハビリテーション医学		担当教員 E-Mail	梅本 安則				
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間		
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		選択必修	1 単位	後 期 (16h)		
	作業療法学							
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学		必 修				
教員の実務経験と 授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を活かして、リハビリテーション医の立場から講義する。							
授業内容の要約	リハビリテーション医療が必要とされるさまざまな疾患を中心に、病態、症状、診断、治療について概説する。その理解の上に立って、障害の評価、リハビリテーションプログラムについて学ぶ。							
学修目標 到達目標	1. <u>疾患の病態、症状、診断法が理解できる</u> 2. <u>障害の評価ができる</u> 3. <u>障害に対するリハビリテーションプログラムが立てられる</u>							
対面授業の 進め方	基本は Power Point と配布資料で行う。							
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 teams を使用した Live 配信授業を行う。							
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上			
1. リハビリテーション概論（リハビリテーションの理念、健康と障害の概念、リハビリの流れ、チーム医療・編成）			学修した範囲について復習を必ずすること					
2. リハビリテーションのための基礎知識（解剖学、生理学など）			学修した範囲について復習を必ずすること					
3. 障害の評価（筋力、ROM、呼吸循環、排泄、歩行障害・装具学、ADL、高次脳機能障害、摂食嚥下障害など）			学修した範囲について復習を必ずすること					
4. 領域別；脳卒中（脳血管疾患）、運動器疾患			学修した範囲について復習を必ずすること					
5. 領域別；脊髄損傷、神経筋疾患			学修した範囲について復習を必ずすること					
6. 領域別；内部疾患（循環器・呼吸器疾患・がんなど）			学修した範囲について復習を必ずすること					
7. 領域別；小児・切断・スポーツ医学（障害運動教育）など			学修した範囲について復習を必ずすること					
8. リハビリテーション医療のこれまでとこれから			学修した範囲について復習を必ずすること					
定 期 試 験 （ 期 末 レ ポ ー ト ）								
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%	□その他	%
	基準等					全講義の内容についての理解度を評価する。		
教科書	著者		タイトル			出版社	発行年	
	日本リハビリテーション医学会		リハビリテーション医学・医療コアテキスト			医学書院	2022	
参考図書	特に指定しない							
履修要件等								
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。				

科目No.	FCM13-2E		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	産業医学		担当教員 E-Mail	岡田 守弘		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		選択必修	1 単位	後 期 (16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学		選択必修		
教員の実務経験と 授業内容の関連	民間企業、大学病院、教育機関等で労働者の健康管理に関わる産業医として 10 年以上経験のある教員が、産業医学について講義する。					
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程における専門基礎科目であり、これから学ぶ臨床医学、専門科目の基礎となる科目である。 産業医学とは、労働環境や作業条件と、働く人々の健康との関わりを追求する医学である。近年、労働者の健康対策を行う産業保健分野において、理学療法士の参画が期待されている。本講座では、労働者の健康状態の評価、および職場での健康保持増進のための就業措置、支援、関係法令等について解説する。					
学修目標 到達目標	1. 産業保健スタッフに必要な基本的な関係法令が理解できる。 2. 労働者の健康状態が評価できる。 3. 産業保健スタッフに必要な職場での健康保持増進対策を理解できる。					
対面授業の 進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。					
遠隔授業の 進め方	TEAMS による遠隔授業を行う。双方向の授業とし、できる限り質疑応答も行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 最近の産業保健トピックス (テキスト p4～13)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
2. 職場の労働衛生管理体制 (テキスト p14～30)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
3. 職場における健康障害防止対策の基本 (テキスト p31～61)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
4. 職場における健康障害防止対策の基本 (テキスト p31～61)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
5. 健康の保持増進・健康診断 (テキスト p62～88)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
6. 健康の保持増進・ストレスチェック (テキスト p62～88)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
7. 健康の保持増進・その他 (テキスト p62～88)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
8. 定 期 試 験			学修した範囲について復習を必ずすること			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	□定期試験 80%	□その他 20%	
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。	授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	森 晃爾	改訂 19 版 産業保健ハンドブック (産業保健ハンドブックシリーズ 1)		労働調査会		2021
参考図書	特に指定しない					
履修要件等						
研究室	1 号館 5 階 第 15 研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 16:20～17:50		

科目No.	FCM14-2E		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	薬理学特論		担当教員 E-Mail	池内 治平		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		選択必修	1 単位	前 期 (16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学				
教員の実務経験と授業内容の関連		病院薬剤師の実務経験を基に、薬の効き方と理論的背景を理解し、それに基づく適切な薬物療法と、薬理学全般における基礎知識、疾患の系統別に作用する薬物についての解説と役割を教育する。				
授業内容の要約		病気の治療の一つとして薬物が使用されている。薬物はいろいろな仕組みによって効果を発現し、身体を正常な状態に引きもどす、その一方、副作用として逆に身体に害になる作用をもたらすこともある。この講義では、薬物の働く仕組みだけでなく、その有効な作用を発揮できるかを学ぶ。				
学修目標 到達目標		1. 薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と投与方法（剤形、投与経路）を説明できる。 2. 薬物の主作用と副作用と有害事象の違いについて説明できる。 3. 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。				
対面授業の 進め方		教科書及び配付資料による講義形式 筆記試験を行い、授業内容の理解度を評価し、可否の判定を行う。 ただ暗記するのではなく、体の仕組みと薬理作用の関係、疾患との関係をよく理解しましょう。				
遠隔授業の 進め方		基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teams を使用した授業の LIVE 配信を行う。				
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 総論（1）：薬物治療のめざすもの 使用目的				講義資料および参考書などを用いて復習すると共に、レポート作成を通じて自ら調べることにより授業内容の理解を深めること。		
2. 総論（2）：薬理学の基本的な事項（薬物の主な作用点、薬物の投与経路など）						
3. 総論（3）：薬物の体内動態（薬物の吸収、分布、代謝、排泄）						
4. 総論（4）：薬物に影響する因子（生体の相互作用、薬物相互作用など）						
5. 総論（5）：薬物中毒と法令（薬物の適量、医薬品に関する法令）						
6. 抗炎症薬と化学療法薬： 非ステロイド性抗炎症薬、抗菌薬、抗癌薬などの治療薬について						
7. 免疫・アレルギー薬・消毒薬：アレルギー反応、ステロイド、殺菌、消毒						
定期試験（期末レポート）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100%	□その他 %	
	基準等			授業の内容全般についての理解度を総合評価します。		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	大鹿 英世/吉岡 充 弘井関 健	疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学 第 15 版 系統看護学講座(専門基礎分野)		医学書院		2014
参考図書	特に指定しない					
履修要件等		特にないが、生物学を履修済であることが望ましい。				
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FCM15-2E		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	栄養学特論		担当教員 E-Mail	中野 忠雄		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		選択必修	1 単位	前 期（16h）
	作業療法学					
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学				
教員の実務経験と 授業内容の関連	病院で管理栄養士として臨床経験のある教員が、その経験を活かしてチーム医療における栄養管理の基本的な知識と手法、病態別栄養管理のポイントについて講義を行う。					
授業内容の要約	日本における生活習慣病の誘因となっている背景と栄養状態に関係する問題を理解する。 豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、「関連職種と連携してチーム医療を推進することが できる」を達成する。 栄養管理をチーム医療のもと効率よく行うため、メディカルスタッフとして栄養と身体の関わり、疾 病との関連を理解しそれぞれの業務に活かせるようにする。					
学修目標 到達目標	1. 栄養素の種類と役割及び健康づくりと食生活について理解できる。 2. 栄養状態の評価と病態別の栄養管理のポイントが理解できる。 3. チーム医療の一員として「寄り添う心」をもって、患者に接することのできるコミュニケーショ ン力をつける。 4. 栄養についての知識を自己の日常生活で実践でき、患者の療養支援ができる。					
対面授業の 進め方	教科書、配布資料に沿った対面式授業を行う。					
遠隔授業の 進め方	遠隔での授業開講になる場合は、teams を使用し、音声入りパワーポイントを用いて開講時間に配 信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			
1. 栄養の基礎（栄養素の消化吸収、口腔の働き）（参考資料配布）			予習：授業の教科書範囲を熟読すること			
2. リハビリテーションと栄養、低栄養時の代謝（教科書 p 2～14）			復習：自宅にて 1 時間程度毎回復習すること			
3. 運動栄養学とリハ、リハ栄養チームにおける PT・OT・ST の役割			3.は（教科書 p 15～30）			
4. リハ栄養ケアプロセスとは（p 32～37）・小テスト						
5. リハ栄養アセスメント・診断推論（p 38～57）						
6. リハ栄養診断、リハ栄養ゴールの設定（p 58～70）・小テスト						
7. リハ栄養介入、リハ栄養モニタリング（p 71～78）						
定 期 試 験						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）及び国試対策						
成績評価方法	項目	■小テスト 20%	□レポート %	■定期試験 70%	□その他 10%	
	基準等	授業内に2回小テストを実施し、授業内容についての理解度を評価する。		授業内容についての定期試験を実施し、理解度を評価する	授業態度（授業への意欲、質問、発表態度など）を評価する。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	若林秀隆	PT・OT・ST のためのリハビリテーション栄養（第3版）			医歯薬出版	2020
	配布資料					
参考図書	脊山洋右	コンパクト栄養学（改訂第4版）			南江堂	2017
履修要件等						
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FCM16-2E		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	画像診断学特論		担当教員 E-Mail	岡田 守弘		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		選択必修	1 単位	後 期 (16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学				
教員の実務経験と 授業内容の関連	大学病院および急性期総合病院で勤務経験のある内科、脳神経外科、整形外科の各教員が、画像診断学について講義する。					
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程における専門基礎科目であり、臨床医学、専門科目の基礎となる科目である。 医療現場では、X 線、超音波、CT、MRI などの画像診断は頻繁に用いられ、PT、OT、ST にとってもこれらの各種画像の概要を理解することは重要である。本講座では、内科、脳神経外科、整形外科の各専門医が、それぞれの専門領域の画像診断について解説する。					
学修目標 到達目標	1. X 線検査 (=レントゲン検査)、X 線 CT 検査による画像診断法を理解する 2. MRI 画像検査法の理論と実際を理解する 3. 超音波検査の方法と応用、内視鏡、核医学検査を理解する					
対面授業の 進め方	授業を通じて、画像の紹介と読影実習を行い、理解を深めていく 画像の紹介と読影実習については、質疑応答を行いながら進める					
遠隔授業の 進め方	TEAMS による遠隔授業を行う。双方向の授業とし、できる限り対質疑応答も行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 画像診断法 (X 線、CT、MRI、超音波検査の理論)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
2. 画像解剖 (頭部)・画像診断 (頭部疾患)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
3. 画像解剖 (頭部)・画像診断 (頭部疾患)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
4. 画像解剖 (脊椎)・画像診断 (脊椎・脊髄)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
5. 画像解剖 (上肢・下肢)・画像診断 (四肢)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
6. 画像解剖 (胸部)・画像診断 (胸部)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
7. 画像解剖 (腹部)・画像診断 (腹部・消化管)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
8. 定 期 試 験 (期 末 レ ポ ー ト)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	□定期試験 80 %	□その他 20 %	
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。	授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	水間正澄・川手信行	リハビリテーション医療に活かす画像のみかた			南江堂	2019
参考図書						
履修要件等	特になし					
研究室	1 号館 1 階		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	SRP03-2E, SRO04-2E, SRM03-2E		授業形態	演習	開講年次	2 年次
授業科目名	地域支援フィールドワーク		担当教員 E-Mail	久利 彩子 ・ 田崎 文江		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション		選択必修	1 単位	前 期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
教員の実務経験と 授業内容の関連	障がい者を有する患者の地域生活における支援に携わった経験と専門知識を持つものが、地域支援の基礎について、フィールドワークを通じて指導する。					
授業内容の要約	当該授業は、「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」人材育成に重点を置く。学外の組織と連携し、当該組織の主に地域における移動についての問題解決に主体的に関与する。学外の組織と連携し、情報生産者として価値のある情報を収集・分析に加えてアウトプットするまでの一連の過程を経験する。					
学修目標 到達目標	1. 地域生活に重要な視点について、障がい者の視点から考えることができるようになる。 2. 世代間や異職種間の交流を通じ、問題解決能力とコミュニケーション能力を育む。 3. 関与した事象に関する情報発信スキルを育む。					
対面授業の 進め方	当該授業は、ディスカッションや本学地域周辺でのフィールドワークを行う。また、得られた情報を集約して、第三者に伝える資料も作成する。学外の組織と連携し、当該組織の問題解決に主体的に関与する。通常授業時間以外（土曜日）に開講予定。					
遠隔授業の 進め方	当該授業は、office365teams 等、「非接触・非対面」型のコミュニケーションツールを通じ、主に本学地域周辺における移動その他の問題に主体的に関与する。また、得られた情報を集約して、第三者に伝える資料も作成する。学外の組織と連携し、通常授業時間以外に開講。 ※2023 年度開講日：2023 年、5/27（土）、6/3（土）、6/10（土）いずれも 1～5 限。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30 分以上	
(第 1 日目)				授業中の自らの行動を振り返り、次の授業のためにどのようにしたらより良い内容となるか、しっかり考えること。		
1. オリエンテーションと学内演習 1（地域生活と車いすについて）						
2. グループディスカッション 1（フィールドワークコース選択、等のフィールドワーク 1,2 の計画立案）						
3. フィールドワーク 1（各グループによるフィールドワーク 1）						
4. フィールドワーク 2（各グループによるフィールドワーク 2）						
5. 学内演習 2（フィールドワーク 1、2 のまとめ）						
(第 2 日目)						
6. 学内演習 3（学内演習 2 のプレゼンテーションと、フィールドワーク 3,4 の計画立案）						
7. フィールドワーク 3（各グループによるフィールドワーク 3）						
8. フィールドワーク 4（各グループによるフィールドワーク 4）						
9. 学内演習 4（フィールドワーク 3,4 のまとめ）						

10. 学内演習 5 (フィールドワーク 3,4 のまとめ)					
(第 3 日目)					
11. 学内演習 6 (学内演習 4,5 のプレゼンテーションと、フィールドワーク 5,6 の計画立案)					
12. フィールドワーク 5 (各グループによるフィールドワーク 5)					
13. フィールドワーク 6 (各グループによるフィールドワーク 6)					
14. 学内演習 7 (フィールドワーク 5,6 のまとめ)					
15. 授業のまとめ					
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト %	☐ レポート %	☐ 定期試験 %	☐ その他 100 %
	基準等				各個人に割り当てられたテーマに関するプレゼンテーションおよび、授業への参加状況や取り組み姿勢などを総合的に評価する。
教科書	著者	タイトル			出版社
	特に指定しない				
参考図書	特に指定しない				
履修要件等	フィールドワークを主軸とする授業のため、天候によっては内容を変更する場合があります。学外の組織と協調して授業を実施しますので、世代間交流や異職種間交流があります。気配り目配り心配りはとても重要です。物事への探究心も必須です。フィールドワーク交通費の一部は大学が支援します。履修人数に上限を設けています (15 名程度)。情報誌は、パワーポイントを使用して作成しますので、各自ノート PC を持参して下さい。				
研究室	久利：1 号館 5 階 第 9 研究室 田崎：1 号館 5 階 第 2 共同研究室	オフィスアワー		久利：毎週火曜日 12：20～12：50 田崎：毎週火曜日 12：00～13：00	

科目No.	SRP05-2E, SRO06-2E, SRM07-2E		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	認知症ケア学		担当教員 E-Mail	嶋野 広一		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション		選択必修	1 単位	前 期 (16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
教員の実務経験と 授業内容の関連	医療機関や地域でのケアサービスに従事した臨床経験のある教員が、その経験を生かして認知症に関する病態やケアについて講義する					
授業内容の要約	認知症ケアの基本理念「尊厳の保持」「生活主体」「その人らしさ」「エンパワメント」をふまえた、基本的知識を理解する。また、認知症の病態に応じたケアの仕方を学ぶ、					
学修目標 到達目標	1. 認知症ケアの基本理念を理解し、説明することができる 2. 認知症の基本的な症状と特徴を理解し、説明することができる 3. 病態に応じた介入及び、ケアの仕方を学ぶ					
対面授業の 進め方	講義、演習、課題により、認知症ケアについての理解を進めていく 個々の生活を構成している要素を体験させ、想像・考えることができるように進める					
遠隔授業の 進め方	Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。課題配信の有無については、各担当教員からの連絡があります。出席確認の方法は授業開始時行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30 分以上	
1. 認知症ケアの概念とは				教科書を読了しておく		
2. 認知症の症状と特徴を知る① 病態の鑑別と症状				前回授業内容の理解を深めておく		
3. 認知症の症状と特徴を知る② 中核症状・行動心理症状：BPSD				前回授業内容の理解を深めておく		
4. 尊厳の保持を考える パーソンセンタードケア アドボケイド宣言				前回授業内容の理解を深めておく		
5. 非薬物的療法 回想法 リアリティオリエンテーション バリデーション				前回授業内容の理解を深めておく		
6. 認知症サポーター研修の受講				前回授業内容の理解を深めておく		
7. 認知症の病態に基づいたケアの実践（グループワーク）				前回授業内容の理解を深めておく		
定 期 試 験（期 末 レ ポ ー ト）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	■レポート 10%	■定期試験 70%	■その他 10%	
	基準等	適宜、課題の提出を指示する	担当教員から課題の内容を指示する	授業内容全般の理解度を評価する	授業態度：受講の積極性や理解度等を総合的に判断する	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	日本認知症予防学会編	認知症予防フレンドテキストブック		徳間書店	2018	
参考図書	講義内で担当教員から適宜紹介する					
履修要件等	教科書・配布資料を必ず持参すること					
研究室	1 号館 2 階 第 24 研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 10：40～12：10		

科目No.	SPT20-2E, SOT17-2E, SRM05-2E		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	スポーツリハビリテーション概論		担当教員 E-Mail	久保 峰鳴・村上 達典		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	1 単位	後 期 (16h)
	作業療法学	作業療法治療学				
	言語聴覚学	地域・予防医学的リハビリテーション				
教員の実務経験と授業内容の関連	スポーツリハビリテーション概論について、臨床およびスポーツ現場における選手のサポート経験がある教員にて講義と実技を行う。					
授業内容の要約	スポーツ活動を行うすべての選手に対する安全で有効なサポート方法について学習し、臨床場面や各種スポーツ大会などにおいて、選手に健康的なサポートができる基本的な知識を身につける。					
学修目標 到達目標	1. スポーツにおけるインテグリティを理解する 2. スポーツ選手に多い一般的な病態を説明できる 3. 障がい者スポーツの重要性を理解する 4. スポーツ傷害の疾患に応じた評価方法を説明できる 5. 基本的な安全管理について理解できる					
対面授業の 進め方	講義は、講義内で配布する資料を中心に解説する。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業の場合、Teams によるオンライン形式で行う。講義形式の授業はスライド等にて説明する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. スポーツ傷害の病態運動学			運動学（力学）を復習しておくこと。			
2. スポーツ傷害の測定と評価			授業内容を復習し理解する			
3. 競技復帰のためのエクササイズとテクニック			授業内容を復習し理解する			
4. 競技復帰のためのプログラムデザイン			授業内容を復習し理解する			
5. スポーツのインテグリティと指導者に求められる素質			授業内容を復習し理解する			
6. 障がい者スポーツの意義と理念			授業内容を復習し理解する			
7. 安全管理			授業内容を復習し理解する			
定期試験（期末レポート）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 50%	■レポート 50%	□定期試験 %	■その他 %	
	基準等	必要に応じて小テストを実施する	スポーツリハビリテーションに関する課題を提示する。講義や実技内容と絡めてどのように考察しているか、またその独自性や完成度で配点を行う。			
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	日本スポーツ医学 検定機構	スポーツ医学検定 公式テキスト 2 級・3 級 改訂版				2020
参考図書	松本秀夫 編集	スポーツ整形外科学			文光堂	2020
履修要件等						
研究室	1 号館 5 階 第 3 共同研究室		オフィスアワー	久保：毎週月曜日 12：10～13：00 村上：毎週金曜日 13：00～14：30		

科目No.	SPT22-2E, SOT19-2R, FHW08-2E		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	園芸療法		担当教員 E-Mail	田崎 史江		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	2 単位	後期 (30h)
	作業療法学	作業療法治療学		必 修		
	言語聴覚学	保健医療福祉とリハビリの理念		選択必修		
教員の実務経験と 授業内容の関連	園芸療法士として 25 年の経験を持つ教員が、実践経験を生かし講義する。					
授業内容の要約	園芸療法の基礎的な知識を学ぶ。園芸療法の対象者となるクライアントのニーズや課題、必要なサポート等をとらえ、園芸療法を通じたアプローチ方法を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 園芸療法の対象者のニーズや課題が理解できる 2. 園芸療法の効果や方法を説明できる 3. 園芸療法を系統立てて考えられる					
対面授業の 進め方	基本的に授業は講義形式で行う。授業後の復習課題を出すので、それにより習熟度を確認する。					
遠隔授業の 進め方	毎回の資料をメールにて送付する。授業は teams を使用して行う。授業後に復習課題の期限内提出により出席確認とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. オリエンテーション、学生アセスメント調査、資格取得について			復習：園芸療法と園芸の違いをまとめる			
2. 園芸療法（HT）とは：園芸療法の「定義」「歴史」「代替療法」			復習：植物を使った療法を調べ、比較しまとめる			
3. HT 目的と手技 1：「高齢者」「認知症」高齢者施設での実践紹介			復習：高齢者の加齢による身体の変化をまとめる			
4. HT 目的と手技 2：「知的障害い・発達障害」 「特別支援学校」「就労支援」「農福連携」			復習：作業学習の目的をまとめる			
5. HT 目的と手技 3：「身体障害」身体機能へのアプローチ			復習：園芸活動が身体領域でどう生かせるか			
6. HT 目的と手技 4：「精神障害」精神心理機能へのアプローチ			復習：精神領域で行う園芸についてまとめる			
7. HT 目的と手技 5：「子ども」「地域活動」「園芸福祉」			復習：地域で園芸をどう生かせるかまとめる			
8. HT の進め方 1：園芸療法の進め方			復習：リハビリテーションの進め方をまとめる			
9. HT の進め方 2：園芸療法の評価・情報収集			復習：対象者のための園芸活動についてまとめる			
10. HT の進め方 3：症例検討			復習：園芸療法実践のための症例検討をする			
11. HT 場面のリスクマネジメント			復習：園芸療法のリスクについてまとめる			
12. 園芸療法を始めるための準備 環境設定（庭・畑） 園芸療法現場の問題と解決法			復習：周囲にある気になる植物について振り返る			
13. 園芸療法関連 研究報告紹介			復習：緑に関する情報を検索してまとめ・考察			
14. 授業の総復習と試験のための準備						
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）			試験内容の振り返り、理解と知識の修正を行う			
成績評価方法	項目	■ 課題 30 %	■ レポート %	■ 定期試験 70 %	■ その他 %	
	基準等	授業の課題の実施・内容を評価する。		定期試験を実施し、授業内容の理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	特に指定しない。各回において講義資料を配布する。					
参考図書	山根寛 ほか	「園芸リハビリテーション」			医歯薬出版株式会社	2003
	山根寛	「ひとと植物・環境 療法として園芸を使う」			青海社	2009

履修要件等	「園芸論」「ガーデニング」と合わせて3科目を履修すること。 園芸療法士の資格認定を受けようとする受講生は、「園芸論」「園芸療法」「ガーデニング」「園芸療法実習Ⅰ」「園芸療法実習Ⅱ」の単位を取得することが必要となる。		
研究室	1号館5階 第2共同研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:00～13:00

科目No.	SPT24-2E, SOT21-2E, FHW10-2E		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	園芸論		担当教員 E-Mail	田崎 史江		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	2 単位	後期（30h）
	作業療法学	作業療法治療学				
	言語聴覚学	保健医療福祉とリハビリの理念				
教員の実務経験と 授業内容の関連	園芸療法士として 25 年の経験を持つ教員が、実践経験を生かし講義する。					
授業内容の要約	園芸とは何かを理解し、園芸療法で用いる植物全般に関する知識の習得を目指す。植物の特性や暦を学ぶことで、季節に応じた植物の利活用、人と植物の関わりなどの理解を深める。					
学修目標 到達目標	1. 植物の名前や生態を調べて活用できる 2. 園芸療法の目的に沿い、クライアントに適した植物を選択できる 3. 暦を通して、季節に応じた植物の利活用ができる					
対面授業の 進め方	資料を適宜配布し、講義と実習で進めていく。後半には園芸療法で行うプログラムを体験する。					
遠隔授業の 進め方	毎回の資料をメールにて送付し、授業は teams を使用した講義で進めていく。授業後、期限内に提出された課題と、teams の出席とを合わせて課題の評価とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. オリエンテーション 植物の基礎知識 1：植物の分類			復習：植物の分類を覚える			
2. 植物の基礎知識 2：花卉（一二年草、宿根草、球根植物）			復習：花と野菜の名前を覚える			
3. 植物の基礎知識 3：野菜			予習：暦とは何か調べる			
4. 植物の基礎知識 4：樹木・果樹			復習：9 月・10 月の暦の用語を覚える			
5. 植物の基礎知識 5：観葉植物、緑の重要性と効果			復習：樹木・果樹の名前や分類を覚える			
6. 植物の基礎知識 6：ハーブ、ハーブの効用・利活用			予習：ハーブについて調べる			
7. 植栽計画：花壇計画（花と野菜の栽培計画）、庭のデザイン計画			復習：ハーブの名前や効能をまとめる			
8. 植物の基礎知識 7： 有毒植物・危険な生き物、対策と応急処置			予習：有毒植物を調べる			
9. 植物の利活用 1：フラワーアレンジメントの活動分析			復習：対策と応急処置をまとめる			
10. 植物の利活用 2：クリスマスリースづくり			復習：植物の機能をまとめる			
11. 植物の利活用 3：門松づくり			復習：11 月～2 月の暦の用語を覚える			
12. 日本の暦について			復習：植物を使ったクリスマス飾りを調べる			
13. 植物名テスト			復習：お正月飾りについて調べる			
14. 授業の総復習と試験のための準備			復習：試験に向けて復習する			
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）			試験内容の振り返り、理解と知識の修正を行う			
成績評価方法	項目	■ 課題 30 %	□ レポート %	■ 定期試験 70 %	□ その他 %	
	基準等	植物名テスト 提出課題内容		定期試験を実施する。 授業の内容全般についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特に教科書は指定しない。各回において講義資料を配布する。					
参考図書						
履修要件等	「園芸療法」「ガーデニング」と合わせて 3 科目を履修すること。 園芸療法士の資格認定を受けようとする受講生は、「園芸論」「園芸療法」「ガーデニング」「園芸療法実習Ⅰ」「園芸療法実習Ⅱ」の単位を取得することが必要となる。					
研究室	1 号館 5 階 第 2 共同研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:00～13:00		

科目No.	SPT23-2E, SOT20-2E, FHW09-2E		授業形態	演習	開講年次	2 年次
授業科目名	ガーデニング		担当教員 E-Mail	田崎 史江		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	2 単位	後 期 (30h)
	作業療法学	作業療法治療学				
	言語聴覚学	保健医療福祉とリハビリの理念				
教員の実務経験と 授業内容の関連	園芸療法士として 25 年の経験を持つ教員が、実践経験を生かし講義する。					
授業内容の要約	園芸療法を行うために、植物の栽培・管理などの基礎的園芸作業の理解と技術を習得する。季節に応じた植物の選択と育て方、栽培計画、収穫物の利活用を体験し学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 園芸植物の栽培・管理・収穫物の利活用ができる 2. 園芸植物の栽培記録を毎回書くことで変化に気付き、必要な手入れができる 3. 園芸植物の栽培に必要な情報を収集・整理し、年間の野菜栽培計画ができる					
対面授業の 進め方	主に畑を使った園芸実習の授業とする。天候により内容が変更となる場合もある。教科書に沿って講義と実習で進めていく。受講者は作業に適した服装（初回講義時に連絡）で参加すること。					
遠隔授業の 進め方	毎回の授業課題や資料はメールにて送る。実習に関する講義用動画を使う場合は、講義時間に合わせて流す。期限内の課題提出により質疑応答・出席確認を行う。 ハイブリッド授業になる場合は、学生の登校スケジュールに合わせて授業を組み、なるべく演習形態がとれるようにする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. オリエンテーション			予習：冬野菜の名前を調べる			
2. 野菜栽培 1： 道具、土づくり、畝たて、冬野菜の選択			予習：次回に向けて野菜の育て方を調べる			
3. 野菜栽培 2： 冬野菜の播種、苗の定植、灌水、栽培記録			課題：冬野菜別播種方法をまとめる			
4. 野菜栽培 3： 野菜につく害虫、その予防と対策			課題：自分の野菜の害虫対策を考える			
5. 野菜栽培 4： 基本の管理作業（追肥、除草）			課題：野菜の栽培記録をつける			
6. 野菜栽培 5： 基本の管理作業（間引き、中耕、土寄せ）			課題：野菜の栽培記録をつける			
7. 野菜栽培 6： 野菜の病気、その予防と対策			課題：野菜の栽培記録をつける			
8. 野菜栽培 7： 年間栽培計画			課題：年間野菜栽培計画書を作る			
9. 野菜栽培 8： 収穫、活用			課題：自分の野菜の調理法を考える			
10. 野菜の収穫、栽培記録のまとめ			課題：野菜の栽培記録をまとめる			
11. 野菜の収穫、栽培記録のまとめ			課題：野菜の栽培記録をまとめる			
12. 野菜の収穫、栽培記録のまとめ			課題：野菜の栽培記録をまとめる			
13. 野菜の収穫、畑の片づけ			課題：野菜の栽培記録をまとめる			
14. 野菜の収穫、畑の片づけ			課題：野菜の栽培記録を提出する			
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）、栽培計画書返却			試験内容の振り返り、理解と知識の修正を行う			
成績評価方法	項目	□課題	%	■レポート	30 %	■定期試験 70 % □その他 %
	基準等			栽培記録をレポートとし、内容を評価する		定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	北条 雅章	はじめての野菜づくり図鑑 110 種			新星出版社	2020
		「園芸店で買った花」をすぐ枯らさない知恵とコツ			主婦の友社	2013
参考図書						

履修要件等	「園芸療法」「園芸論」と合わせて３科目を履修することが望ましい。 園芸療法士の資格認定を受けようとする受講生は「ガーデニング」「園芸療法」「園芸論」「園芸療法実習Ⅰ」「園芸療法実習Ⅱ」の単位を取得することが必要となる。		
研究室	1号館5階 第2共同研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:00～13:00

科目No.	SRP01-2R, SRO01-2R, SRM01-2E		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	生活環境学		担当教員 E-Mail	古井 透		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション		必 修	2 単位	後 期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学			選択必修		
教員の実務経験と 授業内容の関連	担当教員は介護保険施行 10 年前から地方行政職の理学療法士として実務経験があり、福祉住環境 コーディネーター資格 1 回目の合格者で、初期の福祉用具プランナー資格養成講習の講師などを歴 任するなど領域への豊富な経験から、福祉住環境コーディネーター2 級レベルの問題解決力を育成 するノウハウを持ち、セラピストが福祉住環境整備を進めるエトスを伝える事ができる。					
授業内容の要約	人は環境との相互作用の中で生きる。時として環境が生活者を蝕んだり困らせたりする。障がいと折 り合いをつけながら生きる人にとってバリアにはどんなものがあるのか深く追求し、福祉住環境コ ーディネーター 2 級の資格試験にセラピストの卵として挑めるような学修姿勢を確立する。					
学修目標 到達目標	1. 障がい特性に応じた生活への理解を深め、合理的配慮やそれに基づく環境整備をプランできる 2. 福祉住環境コーディネーターにもとめられる倫理・規範にもとづく振る舞いができる 3. 福祉住環境コーディネーター2 級に合格 (70 点以上) できる					
対面授業の 進め方	授業前の準備が欠かせないので TEXT のページをあらかじめ示す。初回を除き、授業範囲の教科書 を授業までに最低 1 回は通読しておくこと。授業前にカワリハドリル 1 の該当箇所に答えた人は、 試験の際に成績に反映させ優遇する場合がある。授業は TEXT 範囲の講義を中心にを行い、授業後 には全員必ずカワリハドリル 1 の授業範囲の該当箇所に取り組む。授業前の予習からカワリハドリル 1 の回答までで 1 回分の出席とする。中間試験等での全体の理解度を見て授業進度は適宜調節する。					
遠隔授業の 進め方	授業動画を DL し視聴後、その範囲のカワリハドリル 1 に回答する。回答したら、たとえ正解でも 必ずその場で解説をクリックして内容を確認し、復習を積み重ねる。クイズの答えっぱなしは、中 間・期末試験や資格試験では残念な結果をまねくと考えてほしい。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1.5 章.福祉住環境整備の基本技術				教科書 p 248-278 を通読しておく		
2. 5 章生活行為別福祉住環境整備				教科書 p279-328 を通読し、前回の復習		
3. 5 章.建築基礎知識と演習				教科書 p 329-356 を通読し通読し、前回の復 習		
4. 6 章.在宅生活における福祉用具 (起居)				教科書 p 358-376 を通読し、前回の復習		
5. 6 章.在宅生活における福祉用具 (移動、排泄、入浴、自助具、 義肢装具)				教科書 p 377-413 を通読し、前回の復習		
6. 定 期 試 験 (中 間 試 験)				教科書 p 248-413		
7. 1 章.介護保険制度と住環境				教科書 p2-52 を通読しておく		
8. 1 章. 障害者施策、コーディネーターの役割				教科書 p53-86 を通読し、前回の復習		
9. 2 章. ICF とインクルージョン				教科書 p88-122 を、前回の復習		
10. 3 章.高齢者に多い疾患別の福祉住環境整備 (CVA 廃用症候 群・骨折・認知症・リウマチ・パーキンソン・心筋梗塞・シック ハウス・)				教科書 p124-158 通読、前回の復習		
11. 3 章.障害別の福祉住環境整備 (脊髄損傷・脊髄小脳変性症・ ALS・筋ジス・脳性麻痺・内部障害・視聴覚障害・認知行動障害・ 切断)				教科書 p159-202 通読し、前回の復習		
12. 4 章.相談援助と福祉住環境整備の進め方				教科書 p204-245 を通読し、前回の復習		
13. 総まとめ 1				教科書 p2-245 を通読し、総復習		

14. 総まとめ 2 事例集			教科書 p416-457 を通読し、総復習	
定期試験 (期末試験)			教科書 p2-245, p416-457	
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)				
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 40% □レポート 0%	■定期試験 60%	■その他 %
	基準等	中間試験 1-5回授業範囲で福祉住環境コーディネーター2級試験と同等レベルの難易度の問題	7-12回までの範囲で 2021年福祉住環境コーディネーター2級試験と同等レベルの難易度の問題	福祉住環境コーディネーター2級合格者は公式試験得点 (70 点以上) をそのまま評価する。
教科書 (いずれか)	著者	タイトル	出版社	発行年
	東京商工会議所	福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級公式テキスト改定 6 版	東京商工会議所	2022
	ユーキャン	ユーキャンの福祉住環境コーディネーター2級 速習テキスト【公式テキスト改訂 6 版対応】【IBT 試験、CBT 試験対策】	ユーキャン	2022
参考図書	ユーキャン	ユーキャンの福祉住環境コーディネーター2級 重要過去問&予想模試	ユーキャン	2022
	ユーキャン	ユーキャンの福祉住環境コーディネーター2級 ○×一問一答ベスト 800!【公式テキスト改訂 6 版対応】【IBT 試験、CBT 試験対策】	ユーキャン	2022
	HIPS 合格対策プロジェクト	福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級過去問題集 2023 年版	ハウジングエージェンシー	2023
履修要件等	日常生活活動系・および義肢装具系科目の履修済みが望ましい。			
研究室	1 号館 5 階 第 20 研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 12:10~12:50	

科目No.	FHW02-2E, FHW05-2E		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	社会福祉援助技術論 (含ケースワーク論)		担当教員 E-Mail	野村 和樹		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	保健医療福祉とリハビリの理念		選択必修	1 単位	後 期 (16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
教員の実務経験と 授業内容の関連	児童養護施設 指導員 (嘱託) 事例検討と面接において実際の臨床場面を題材に用いて教える					
授業内容の要約	本講義は、“対人支援”に関わる講義である。したがって、講義に用いる事例は、登場人物の人生と切り離して考えられるものではない。単に知識の習得に止まらず、共感と理解を目指すものとした。まずは基本となるところの面接のあり方を理論的に明らかにする。社会福祉援助活動の意義・形態・方法を通して、ソーシャルワーク実践のために必要な知識と方法論を教授する。 援助技術を学ぶことにより、専門職として他者とのコ豊かなコミュニケーションが図れ、必要とされる情報の収集が可能になり多職種との連携が円滑にできる。 他者とのコミュニケーションにおいても、社会福祉の理念が反映していることが確認できる。					
学修目標 到達目標	1. ケースワークに関わる理論について説明でき、それぞれの方法や活動の目的や役割を理解できる 2. 社会福祉の専門的援助について理解を深め、展開場面ごとに意義と方法について説明できる 3. 対人支援の臨床現場において、ラポールの形成等援助技術を活用できる					
対面授業の 進め方	基本的な知識を講義した上で、事例を基にグループディスカッションやロールプレイを行い、その結果をプレゼンテーションする。教科書は用いずレジュメを配布し授業を進めるので、A4 版のファイルを用意すること					
遠隔授業の 進め方	時間割にある対面授業の時間に、ライブにて遠隔授業を行う。グループディスカッションについては、レポートで対応する。通信障害、正当な理由により、その時間に受講できなかった場合は、録画されたものを視聴しレポート提出を持って出席とする。したがって、原則授業の進め方は対面授業に同じ。レジュメについては、原則として登校日に配付。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. ソーシャルワーカーとは イギリスのソーシャルワーカー			ソーシャルワーカーについての意見をまとめること			
2. 社会福祉援助技術の体系			社会福祉援助技術の体系をまとめること			
3. ソーシャルワークの展開過程			ソーシャルワークの過程をまとめること			
4. 面接技法Ⅰ (初回面接、ラポールの形成)			ラポールの形成についてまとめること			
5. 面接技法Ⅱ (面接に関わる理論と技法)			面接に関わる理論をまとめること			
6. 援助技術の実践 事例検討			事例を検討しまとめる			
7. 専門職			専門職である PT, OT,ST の根拠をまとめる			
定期試験 (期 末 レ ポ ー ト)						
8. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	■課題 10%	□レポート %	■定期試験 70%		■その他 20%
	基準等	事例検討		社会福祉援助技術の知識を問う		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	各項目に応じてレジュメを配布する。					
参考図書	講義内で適宜紹介する。					

履修要件等	「社会学」、「社会福祉学」、「社会保障制度」を履修されていることが望ましい。		
研究室	1号館4階第1研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 12:00～13:00

科目No.	FBM07-2E		授業形態	実習	開講年次	2 年次
授業科目名	解剖学実習（S T）		担当教員 E-Mail	大竈 友博		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	基礎医学		選択必修	1 単位	前 期（30h）
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	本科目は本学のディプロマポリシーである「リハビリテーション領域における基礎知識の養成・思考力の養成・協調性の養成」を達成するための科目である。1 年次の解剖学での講義の知識を基として人体の構造をさらに詳しく理解を進める。各種標本を使って三次元的な構築を総合的に理解する。本実習では、系統的な学習よりも局所（臨床）的な立場に立って器官の構成・配置を理解する。神経と脈管を中心にネットワーク構築を学ぶ。思考力は、学修プリントを用いることで、課題の発見と解答の探索・解決能力を身に着けてゆく。協調性は、Team Based Learning (TBL) 形式の実習によって協調性やコミュニケーション能力を身に着けてゆく。					
学修目標 到達目標	1. 人体を構成する基礎となる骨格についての構造と解剖学用語を理解することができる 2. 呼吸器系の構造を理解し、呼吸運動について説明することができる 3. 内分泌系の特徴と機能を理解することができる 4. 頭頸部に関する神経系の構成について理解することができる 5. ST 専攻ではあまり扱うことが無い全身の骨格についても知識を付ける					
対面授業の 進め方	教員による一方的な講義ではなく、学生が自ら体を動かして学ぶ実習（アクティブラーニング）を原則とする。学生を 3～4 人 1 グループに編成し、模型を利用しながら座学で扱った内容の復習を通じて、国家試験の問題が解けるように慣れてゆく。実習の効率を上げ、理解度を高めるために教科書や関連する解剖関連の図譜を参考にして予習をすることが望ましい。					
遠隔授業の 進め方	遠隔の場合、穴埋め課題をメールで配信する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 脳神経と頭蓋を通過する孔			前期実習内容の復習			
2. 上行性伝導路			前回実習内容の復習と予習			
3. 下行性伝導路Ⅰ、錐体路			前回実習内容の復習と予習			
4. 下行性伝導路Ⅱ、錐体外路			前回実習内容の復習と予習			
5. 小脳路（遠心性と求心性）と脳幹網様体			前回実習内容の復習と予習			
6. 大脳の外観と内部構造（水平断）、ブロードマンの脳地図			前回実習内容の復習と予習			
7. 間脳（視床と視床下部、脳下垂体、脳脊髄関門 BBB）			前回実習内容の復習と予習			
8. 中脳の構造、断面と内部構造と機能			前回実習内容の復習と予習			
9. 橋、延髄の構造、断面と内部構造と機能			前回実習内容の復習と予習			
10. 感覚器（視覚器、聴覚器）			前回実習内容の復習と予習			
11. 実践問題演習 1			前回実習内容の復習と予習			
12. 実践問題演習 2			前回実習内容の復習と予習			
13. 実践問題演習 3			前回実習内容の復習と予習			
14. まとめテスト			前回実習内容の復習と予習			
定 期 試 験（期 末 レ ポ ー ト）						
15. まとめテストの解説・全身の骨格と関節						

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 80%	□レポート %	■定期試験 20%	□その他 0%
	基準等	毎回の授業中に穴埋め課題を与え、模型を利用しながら座学講義の復習を実施し、国家試験の過去問題が解けるように訓練していく。	特段のレポート課題はしない	実習で扱った内容に即した国家試験準拠の問題を実施し、点数を20%換算する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	野村 嶧	「標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版」		医学書院	2020
参考図書	坂井建雄	「プロメテウス解剖学アトラス 第3版 頭頸部・神経解剖」		医学書院	2019
	寺島俊雄	カラー図解 神経解剖学講義ノート		金芳堂	2011
履修要件等	「解剖学Ⅰ」および「解剖学Ⅱ」を履修済であることが望ましいが、特段制限は設けない。				
研究室	1号館5階 第8研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 12：00～13：00	

科目No.	FPS03-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	臨床心理学 I (ST)		担当教員 E-Mail	堺 景子		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	心理学		必 修	1 単位	後 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	臨床心理学の成り立ちや基本概念、代表的な理論を習得する。心理に関する支援を要する人々に対しての代表的な介入方法を習得する。					
学修目標 到達目標	1 臨床心理学の歴史、代表的な理論体系や介入方法を説明することができる。 2 本講義で学ぶ代表的な基礎理論に基づき、心理に関する支援を要する人々に対して、適切な支援法を判断することができる。 3 心理に関する支援を要する人々との信頼関係を構築するにあたり、支援者にはどのような態度や姿勢が求められるのかについて主体的に考えることができる。					
対面授業の 進め方	講義形式で行う。毎回講義スライドをプリントとして配布するので、適宜加筆すること。授業時間内に毎回小テストを行う。					
遠隔授業の 進め方	やむを得ず遠隔授業になった場合は、Microsoft office 365 の stream を使用して動画を配信する。動画配信後、課題を配布する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 臨床心理学とは			授業内容・小テストの復習			
2. パーソナリティ理論			授業内容・小テストの復習			
3. 発達理論			授業内容・小テストの復習			
4. 学習理論			授業内容・小テストの復習			
5. 心理アセスメント			授業内容・小テストの復習			
6. 心理検査① (質問紙法)			授業内容・小テストの復習			
7. 心理検査② (投影法)			授業内容・小テストの復習			
8. 心理検査③ (知能検査、発達検査、神経心理学的検査)			授業内容・小テストの復習			
9. 心理的介入① (精神分析的アプローチ)			授業内容・小テストの復習			
10. 心理的介入② (行動療法／認知行動療法的アプローチ)			授業内容・小テストの復習			
11. 心理的介入③ (パーソンセンタードアプローチ)			授業内容・小テストの復習			
12. 心理的介入④ (遊戯療法、箱庭療法、芸術療法)			授業内容・小テストの復習			
13. 心理的介入⑤ (家族療法、日本固有の心理療法)			授業内容・小テストの復習			
14. 心理臨床活動の実践			授業内容・小テストの復習			
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100% □その他 %
	基準等					定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特に指定しない					
参考図書						
履修要件等						
研究室	研究科棟 4 階 146 研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12 : 30～13 : 30		

科目No.	SBP04-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	機能運動学 I		担当教員 E-Mail	村西 壽祥		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	基礎理学療法学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	理学療法士として病院での臨床経験がある教員が講義を行う。					
授業内容の要約	当該科目は教育課程における専門科目であり、本学カリキュラムポリシーである専門的な知識・技術を深め療法士としての素地を作る科目である。解剖学および運動学の知識を基に、下肢の運動および機能、病態について学修する。さらに、運動療法や基本的日常生活動作に必要な下肢運動および協調的な運動連鎖を導くために必要な知識を学修する。					
学修目標 到達目標	1. 下肢関節を構成する構造および機能的な役割を説明できる。 2. 主要な下肢関節の関節運動が説明できる。 3. 下肢の各関節に生じる病態とその影響について説明できる。					
対面授業の 進め方	講義は教科書および板書を中心に進める。 講義は解剖学、基礎運動学を理解している前提で進める。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、対面授業内容のオンデマンド配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 機能運動学総論。股関節の構造と機能① 骨・関節の構造			復習：股関節の解剖学的特徴			
2. 股関節の構造と機能② 関節包・靱帯の機能			復習：股関節を構成する組織の役割			
3. 股関節の構造と機能③ 筋機能			復習：股関節周囲筋の機能			
4. 股関節の構造と機能④ 運動学			復習：股関節のバイオメカニクス			
5. 股関節の構造と機能⑤ 病態運動学			復習：股関節の病態運動学			
6. 膝関節の構造と機能① 骨・関節の構造			復習：膝関節の解剖学的特徴			
7. 膝関節の構造と機能② 関節包・半月・靱帯の機能			復習：膝関節を構成する組織の役割			
8. 膝関節の構造と機能③ 筋機能			復習：膝関節周囲筋の機能			
9. 膝関節の構造と機能④ 運動学			復習：膝関節のバイオメカニクス			
10. 膝関節の構造と機能⑤ 病態運動学			復習：膝関節の病態運動学			
11. 足関節の構造と機能① 骨・関節の構造			復習：足関節の解剖学的特徴			
12. 足関節の構造と機能② 靱帯の機能			復習：足関節を構成する組織の役割			
13. 足関節の構造と機能③ 筋機能			復習：足関節周囲筋の機能とバイオメカニクス			
14. 足関節の構造と機能④ 歩行、病態運動学			復習：足関節の病態運動学			
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 70%		□その他 %
	基準等	毎回、授業内で行う小テストの平均点を定期試験の点数に加算する		記述試験のみ（記号問題、選択問題は実施しない）、解答は説明することを求める		
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	Donald A Neuman	「筋骨格系のキネジオロジー原著第 3 版」			医歯薬出版	2018
参考図書	特に指定しない					
履修要件等	形態・機能学解剖領域Ⅰ・Ⅱ、解剖学実習Ⅰ・Ⅱ、基礎運動学，基礎運動学実習					
研究室	1 号館 5 階 第 21 研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12：10～13：00		

科目No.	SBP05-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	機能運動学Ⅱ		担当教員 E-Mail	村西 壽祥		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	基礎理学療法学		必 修	1 単位	後 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	理学療法士として病院での臨床経験がある教員が講義を行う。					
授業内容の要約	該科目は教育課程における専門科目であり、本学カリキュラムポリシーである専門的な知識・技術を深め療法士としての素地を作る科目である。機能運動学Ⅰに引き続き、解剖学および基礎運動学の知識を基に、上肢・体幹の運動および機能、病態について学修する。さらに、運動療法や基本的日常生活動作に必要な上肢・体幹運動および協調的な運動連鎖を導くために必要な知識を学修する。					
学修目標 到達目標	1. 上肢関節と体幹の構造と機能的な役割を説明できる。 2. 主要な上肢関節と体幹の関節運動が説明できる。 3. 上肢関節・体幹に生じる病態とその影響について説明できる。					
対面授業の 進め方	講義は教科書および板書を中心に進める。 講義は解剖学，基礎運動学を理解している前提で進める。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、対面授業内容のオンデマンド配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 肩関節・肩甲帯の構造と機能① 骨・関節の構造			復習：肩関節の解剖学的特徴			
2. 肩関節・肩甲帯の構造と機能② 関節包・靱帯の機能			復習：肩関節を構成する組織の役割			
3. 肩関節・肩甲帯の構造と機能③ 筋機能			復習：肩関節周囲筋の機能			
4. 肩関節・肩甲帯の構造と機能④ 運動学			復習：肩関節のバイオメカニクス			
5. 肩関節・肩甲帯の構造と機能⑤ 病態運動学			復習：肩関節の病態運動学			
6. 肘・前腕の構造と機能① 骨・関節の構造			復習：肘・前腕の解剖学的特徴			
7. 肘・前腕の構造と機能② 靱帯の機能			復習：肘・前腕を構成する組織の役割			
8. 肘・前腕の構造と機能③ 筋機能と運動学			復習：肘・前腕周囲筋の機能とバイオメカニクス			
9. 肘・前腕の構造と機能④ 病態運動学			復習：肘・前腕の病態運動学			
10. 体幹の構造と機能① 骨・関節の構造			復習：脊柱の解剖学的特徴と組織の役割			
11. 体幹の構造と機能② 靱帯・椎間板の機能			復習：脊柱をこう制する組織の役割			
12. 体幹の構造と機能③ 筋機能			復習：体幹筋の機能			
13. 体幹の構造と機能④ 運動学			復習：体幹のバイオメカニクス			
14. 体幹の構造と機能⑤ 病態運動学			復習：体幹の病態運動学			
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 70%		□その他 %
	基準等	毎回、授業内で行う小テストの平均点を定期試験の点数に加算する		記述試験のみ（記号問題，選択問題は実施しない），解答は説明することを求める		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	Donald A Neuman	「筋骨格系のキネジオロジー原著第3版」		医歯薬出版		2018
参考図書	特に指定しない					
履修要件等	形態・機能学解剖学領域Ⅰ・Ⅱ、解剖学実習Ⅰ・Ⅱ、基礎運動学，基礎運動学実習					
研究室	1 号館 5 階 第 21 研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12：10～13：00		

科目No.	SPE02-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	筋骨格系触察法		担当教員 E-Mail	今井 亮太・久保 峰鳴		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法評価学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	本科目は評価や理学療法の土台となる触察技術の実習であり、臨床経験が 10 年以上を有する教員が担当する。					
授業内容の要約	骨や骨格筋などの触察は関節運動の誘導や運動療法を実施するために必要な技術である。解剖学の講義で学習した骨や骨格筋について実際に人体に触れることで理解を深める。また、骨格筋がどのように関節運動を誘導するか理解する。					
学修目標 到達目標	1. 代表的な骨指標の触察ができる 2. 代表的な骨格筋の触察ができる 3. 筋の起始・停止、神経支配を説明できる 4. 骨格筋の機能について説明できる					
対面授業の 進め方	・教科書を使用し、実技中心に授業を進める。 ・触察を行なうので、Tシャツ、短パンなど上下肢を露出しやすい服装で授業に参加すること。 ・学生が学んだ筋の触察の知識を実技を含めて説明するプレゼンテーションを実施する。 ・本講義に先立って、解剖学の基礎知識を習得しておくこと。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office356 の Teams を使用して、双方向に通信の授業を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. オリエンテーション, 触察の基本			P4～19, 418～422 予習と復習			
2. 骨指標, 筋の触察と機能の理解 (股関節に関わる筋)			P140～159 予習と復習			
3. 骨指標, 筋の触察と機能の理解 (股関節に関わる筋)			P160～179 予習と復習			
4. 骨指標, 筋の触察と機能の理解 (膝関節に関わる筋)			P180～204 予習と復習			
5. 骨指標, 筋の触察と機能の理解 (膝関節に関わる筋)			P205～226 予習と復習			
6. 骨指標, 筋の触察と機能の理解 (足関節に関わる筋)			P227～253 予習と復習			
7. 骨指標, 筋の触察と機能の理解 (足関節に関わる筋)			P254～267 予習と復習			
8. 骨指標, 筋の触察と機能の理解 (肩甲上腕関節に関わる筋)			P154～176 予習と復習			
9. 骨指標, 筋の触察と機能の理解 (肩関上腕関節に関わる筋)			P177～201 予習と復習			
10. 骨指標, 筋の触察と機能の理解 (肩甲胸郭関節に関わる筋)			P202～222 予習と復習			
11. 骨指標, 筋の触察と機能の理解 (肘関節に関わる筋)			P223～247 予習と復習			
12. 骨指標, 筋の触察と機能の理解 (肘関節に関わる筋)			P248～260 予習と復習			
13. 骨指標, 筋の触察と機能の理解 (手関節および手指に関わる筋)			P261～316 予習と復習			
14. 骨指標, 筋の触察と機能の理解 (胸郭・脊柱に関わる筋)			P268～311 予習と復習			
定 期 試 験 (期 末 レ ポ ー ト)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 60 %		■その他 40 %
	基準等			定期試験にて理解度を問う		触察法に関する実技を行う。
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	林典雄	改訂第 2 版 運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス (上肢)			メジカルビュー社	2022
	林典雄	改訂第 2 版 運動療法のための機能解剖学的触診技術動画プラス (下肢・体幹)			メジカルビュー社	2022

履修要件等	解剖学を履修済みであることが望ましい		
研究室	今井：研究科棟 4 階 第 145 研究室 久保：1 号館 5 階 第 3 共同研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 12:10～13:00

科目No.	SPE03-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	理学療法評価学 I		担当教員 E-Mail	畑中 良太		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法評価学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を生かして、理学療法評価の基本的な知識と手法、理学療法評価の考え方について評価する。					
授業内容の要約	本学のディプロマ・ポリシーである「 本学のディプロマ・ポリシーである「 本学のディプロマ・ポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」を達成するための科目である。教育課程における専門科目であり、「理学療法評価学実習Ⅱ」における実習のための基礎知識であり、「神経系理学療法学」や「神経系理学療法学実習」における治療計画を作成するための評価を学習する内容となっている。対象者の問題点の抽出および治療プログラム作成変更のために無くてはならない科目である。一連の理学療法評価系の授業を受講することによって、理学療法評価を円滑に実施できるようにする。本講座は評価の総論および神経学的検査測定技術について学習する。					
学修目標 到達目標	1. 理学療法評価の基本的概念を理解することができる 2. 神経学的検査の測定方法を理解することができる 3. 基本的な神経学的検査の測定ができる					
対面授業の 進め方	概要を講義形式にて行い、演習、実習を交えた体験学習を行う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office 365 の teams、form、stream を使用し、双方向通信の授業を行う。 オンデマンド配信、課題配信を組み合わせで行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 評価総論、医用画像の評価（教科書 pp18-78）			復習：医療面接・情報収集について			
2. 意識障害、脳神経の検査（教科書 pp79-101）			復習：意識の分類・JCS について			
3. 認知症スクリーニング検査（教科書 pp102-133）			復習：HDS-R、MMSE について			
4. 感覚検査（総論、表在検査）（教科書 pp177-194）			復習：感覚伝導路、感覚障害のパターン			
5. 感覚検査（深部検査）（教科書 pp177-194）			復習：感覚検査の方法			
6. 反射検査（腱反射）（教科書 pp203-208）			復習：反射弓の理解			
7. 反射検査（表在反射、病的反射）（教科書 pp 209-212）			復習：反射検査の方法			
8. 片麻痺機能検査（ブルンストローム・ステージ）（教科書 pp447）			復習：BRST の方法			
9. 協調性検査（教科書 pp 308-309）			復習：協調運動障害の種類			
10. 筋緊張検査（教科書 pp 213-217）			復習：筋緊張とは何か			
11. 姿勢バランス検査（教科書 pp 279-307）			復習：バランス検査の方法			
12. 注意・遂行機能障害の検査（教科書 pp 105-133）			復習：注意障害と遂行機能障害について			
13. 高次脳機能検査（教科書 pp105-133）			復習：失行、失認について			
14. ロールプレイ			復習：講義内容全般の実技			
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 50%	■その他 50%	
	基準等			筆記試験を行う。授業内容全般の理解度を評価する。	実技試験を行う。 各検査における実施手順等の確認を行い、評価する。	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	潮見泰蔵ほか	「リハビリテーション基礎評価学 第2版」	羊土社	2020
	鈴木則宏	「神経診察クローズアップ 改訂第3版」	メジカルビュー	2020
参考図書	吉尾雅春ほか	「神経理学療法学第2版」	医学書院	2018
	伊藤俊一ほか	「片麻痺機能検査 協調性検査」	三輪書店	2015
履修要件等	解剖学および生理学関係の教科が履修済みであることが望ましい。			
研究室	研究科棟 4 階 142 研究室	オフィスアワー	毎週金曜日 12:00～13:00	

科目No.	SPE04-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	理学療法評価学Ⅱ		担当教員 E-Mail	久利 彩子		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法評価学		必 修	1 単位	後 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	障がいをもつ患者の理学療法と理学療法評価に携わった経験と専門知識を持つものが、理学療法評価の動作観察および動作分析の基礎について、講義する。					
授業内容の要約	患者の「動作観察」「動作分析」は、適切な理学療法実施に重要である。当該科目では、基本動作の動作観察とメカニズム、正常から逸脱した動作における動作観察と動作分析、機能障害（impairment）の推論を学ぶ。理学療法士にとって必要な「障害」における専門的な知識や基礎的学力を修得する。					
学修目標 到達目標	1. 基本動作の動作観察とメカニズムを理解する。 2. 正常から逸脱した動作観察と動作分析、impairment の推論を理解する。					
対面授業の 進め方	授業は、基本的に講義形式で行うが、アクティブラーニング（グループワーク、ディスカッション）による演習も行う。講義では、基本動作や正常から逸脱した動作について静止画と動画の画像情報を利用して、実践的な場面に非常に近い状況で講義を展開する。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合、office365teams、forms、stream を用いる予定である。課題は随時配信する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30 分以上	
1. オリエンテーション、 寝返りの動作観察とメカニズム (教科書 pp30-49)				予習:教科書の該当箇所について予習をすること。 復習:配布資料と教科書の該当箇所について、復習をすること。		
2. 寝返りの動作観察と動作分析 Impairment と現象 (動作) (資料配布)						
3. 寝返りの動作観察と動作分析 Impairment の推論 (教科書 pp50-58)						
4. 起き上がりの動作観察とメカニズム (教科書 pp82-97)						
5. 起き上がりの動作観察と動作分析 Impairment と現象 (動作) (資料配布)						
6. 起き上がりの動作観察と動作分析 Impairment の推論 (教科書 pp98-107)						
7. 起立・着座動作の動作観察とメカニズム (教科書 pp122-137)						
8. 起立・着座動作の動作観察と動作分析 Impairment と現象 (動作) (資料配布)						
9. 起立・着座動作の動作観察と動作分析 Impairment の推論 (教科書 pp138-148)						
10. 歩行の動作観察とメカニズム 1 (教科書 pp168-178)						
11. 歩行の動作観察とメカニズム 2 (教科書 pp179-190)						

12. 歩行の動作観察と動作分析 Impairment と現象（動作）1 （資料配布）									
13. 歩行の動作観察と動作分析 Impairment と現象（動作）2 （資料配布）									
14. 歩行の動作観察と動作分析 Impairment と現象（動作）3 （資料配布）									
定期試験（期末レポート）									
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					復習：解説をノートにまとめること。				
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト	%	☐ レポート	%	☒ 定期試験	100 %	☐ その他	%
	基準等					筆記試験を実施する。 授業の内容全般についての理解度を評価する。			
教科書		著者	タイトル			出版社		発行年	
		石井慎一郎	動作分析臨床活用講座			メジカルビュー		2013	
参考図書		中村隆一 他	基礎運動学			医歯薬出版		2003	
履修要件等									
研究室		1号館5階 第9研究室			オフィスアワー		毎週火曜日 12：20～12：50		

科目No.	SPE05-2R		授業形態	実習	開講年次	2 年次
授業科目名	理学療法評価学実習 I		担当教員 E-Mail	岡 健司 久保 峰鳴		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法評価学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	理学療法士有資格教員が臨床での経験を活かし、筋力検査等に関する実技実習を行う。					
授業内容の要約	理学療法に必要な検査・測定技術と評価法のうち、徒手筋力検査法（MMT）の習熟を主たる目標として実習を行う。また、痛み、バイタルサイン、脳神経の検査について学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 徒手筋力検査法（MMT）の意義を理解し、正確に実施できる 2. 代表的な痛みの検査の実施方法を理解し、聴診法による血圧測定を正確に実施できる					
対面授業の 進め方	実技実習を中心に行うので、大学指定ジャージのような動きやすい服装で出席すること。 実技に関する知識・技術は学習者自身の自発的行動によって習熟するものであると理解すること。 授業の進め方はシラバスと異なることがある。					
遠隔授業の 進め方						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. MMT：概要説明、肩関節の検査（1）			予習：上肢の解剖学、復習：実技練習			
2. MMT：肩関節の検査（2）			予習：上肢の解剖学、復習：実技練習			
3. MMT：肩甲帯の検査			予習：上肢の解剖学、復習：実技練習			
4. MMT：肘関節・前腕・手関節の検査			予習：上肢の解剖学、復習：実技練習			
5. MMT：頭頸部の検査、体幹の検査（1）			予習：頭頸部・体幹の解剖学、復習：実技練習			
6. MMT：体幹の検査（2）			予習：体幹の解剖学、復習：実技練習			
7. 中間実技テスト（上肢・体幹の MMT）			予習：MMT の実技練習			
8. 痛みの検査、バイタルサインの測定			復習：概要の確認と実技練習			
9. 脳神経の検査、脳神経支配筋の MMT			予習・復習：脳神経の機能解剖学			
10. MMT：股関節の検査（1）			予習：下肢の解剖学、復習：実技練習			
11. MMT：股関節の検査（2）			予習：下肢の解剖学、復習：実技練習			
12. MMT：膝関節・足関節の検査			予習：下肢の解剖学、復習：実技練習			
13. MMT：足部の検査、手指・足趾の検査			予習：下肢の解剖学、復習：実技練習			
14. これまでの MMT のまとめ			予習：実技練習、復習：実技練習			
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック						
成績評価方法	項目	☑課題・小テスト 30%	□レポート 0 %	☑定期試験 70 %	□その他 0 %	
	基準等	授業内課題の遂行状況 及び中間実技テスト		筆記試験および実技試験		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	Hislop, Avers, Brown	新・徒手筋力検査法 原著第 10 版		共同医学出版社	2020	
	潮見・下田監修	リハビリテーション基礎評価学第 2 版		羊土社	2019	
参考図書						
履修要件等						
研究室	岡：1 号館 4 階 第 2 研究室 久保：1 号館 5 階 第 3 共同研究室		オフィスアワー	岡：毎週火曜日 12:10～13:00 久保：毎週月曜日 12:10～13:00		

科目No.	SPE06-2R		授業形態	実習	開講年次	2 年次
授業科目名	理学療法評価学実習Ⅱ		担当教員 E-Mail	畑中 良太 / 理学療法学専攻教員		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法評価学		必 修	1 単位	後 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	理学療法士として実務経験のある教員が指導にあたる。					
授業内容の要約	理学療法計測法、理学療法評価学Ⅰ・同実習を基にした障害毎の理学療法検査・測定とその評価について学内にて全体授業と少人数教育による実習を行う					
学修目標 到達目標	1. 理学評価の流れについて理解する 2. 少人数の学内実習にて、実際に評価を実習し修得する 3. 検査結果を統合と解釈することで障害構造を把握し、治療計画に繋げる					
対面授業の 進め方	本学のディプロマ・ポリシーである「 本学のディプロマ・ポリシーである「 本学のディプロマ・ポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」を達成するための科目である。教育課程における専門科目であり、「理学療法計測法」「筋骨格系触察法」「理学療法評価学Ⅰ」「理学療法評価学実習Ⅰ」の知識を基礎とした総合的な実習科目である。学内にての紙面上の患者および模擬患者に対して評価における実習を中心に行う。全体は 1 症例を提示しながら初期評価の作成過程を理解していく。SGL は小グループごとに担当教員と医療面接、バイタル測定、姿勢・動作観察から評価プランを立てる実習を行う。SGL に関してデイリーノートを作成しておく。なお、コロナ禍のため健康管理に気を付けて、感染対策を徹底してください。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業は理学療法学専攻 2 年の Teams にて対応予定である。SGL においては、担当教員ごとの Teams を新たに作成し対応する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 全体：理学療法評価学実習Ⅱ オリエンテーション スタンダード プリコーション・健康管理 次回 SGL 説明				実際に手洗い、うがいを習慣化する。次回の SGL の準備をする		
2. SGL：医療面接（各担当教員が模擬患者①）計画・実施・事後練習				事前に医療面接するシナリオを作成しておく。 事後に不十分な点をノートに記載する		
3. 全体：初期評価の流れの理解 次回 SGL 説明				配布された次回の資料を熟読する。		
4. SGL：バイタルサイン計測（各担当教員が模擬患者②）計画・実施・事後練習				事前に脈拍・血圧測定の手順と進め方を予習しておく。事後に不十分な点をノートに記載する。		
5. 全体：記録と報告の書き方 次回 SGL 説明				配布された資料から個別に障害を想起する。		
6. SGL：姿勢観察から障害を想起（各担当教員が模擬患者③または静止画）				グループで想起した障害を評価する検査・測定をリストアップしておく。		
7. 全体：初期評価の事例 演習その 1 検査項目 次回の SGL 説明				必要と思われる検査測定の手順を確認しておく。		
8. SGL：想起した障害に対する検査・測定項目の取捨選択と意義づけ・練習				SGL で実技のフィードバックを受けたことをノートに整理しておく。		
9. 全体：初期評価の事例 演習その 2 統合と解釈 次回の SGL の説明				事例の統合と解釈のロジックツリーを完成させる。配布された資料から個別に予想される障害とその検査・測定項目を考えておく。		
10. SGL：動作観察から障害を想起（各担当教員が模擬患者④または動画）				事前に動画を検査測定の目的を確認し、実技練習できるように準備する。事後に不十分な点をノートに記載する		
11. 全体：初期評価の事例 演習その 3 統合と解釈 障害構造				プレ実習の症例のロジックツリーを作成する。		
12. SGL：想起した障害に対する検査・測定項目の取捨選択と意義づけ・練習				SGL で実技のフィードバックを受けたことを整理しておく。		

13. 3 年次実習症例報告会への参加				3 年生実習に向けての情報をもらう。		
14. 全体：初期評価の事例 演習その 4 ICF の作成				プレ実習の症例の ICF を作成する。		
期末試験						
15. 全体：統括およびフィードバック（定期試験の講評・解説）				再度、初期評価の流れを確認しておく。		
成績評価方法	項目	課題・小テスト 0%	レポート 0%	定期試験 80%	その他 20%	
	基準等		初期評価個人レポート	筆記試験	SGL の取組状況	
教科書		著者	タイトル		出版社	発行年
		斉藤栄一 監修	PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第 2 版改訂版		金原出版	2020
参考図書		潮見泰蔵ほか	「リハビリテーション基礎評価学 第 2 版」		羊土社	2019
		豊田輝 監修	理学療法臨床推論		羊土社	2021
履修要件等		実習要件 2)を満たしていること				
研究室		研究科棟 4 階 142 研究室		オフィスアワー	毎週金曜日 12:00～13:00	

科目No.	SPT02-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	物理療法学		担当教員 E-Mail	肥田 光正		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を生かして、物理療法に関する知識と手法について講義する。					
授業内容の要約	理学療法の治療手段である物理療法について、その歴史と定義をふまえ、各物理療法手段における生理学的作用・目的・対象・適応・禁忌などを学習し、実際の治療にどのように適応していくことができるのかを学習する。本講義で学んだ知識を後期に開講される物理療法学実習で実践することを常に意識し、実践的な知識を教授する。					
学修目標 到達目標	1. 物理療法の歴史と定義を学習し、理学療法での位置付けを学習する 2. 各物理療法手段の生理学的作用を理解する 3. 各物理療法手段の目的・対象・適応・禁忌などを理解する					
対面授業の 進め方	講義中心に授業をすすめ、必要時には、適宜、資料を配布する。毎回の授業開始時には、前回の復習を目的とした小テストを実施する。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合は、office365 teams、stream を用いて講義を実施する。講義中の質問などはチャット機能などを用いて対応する。出席は、講義時間中に取り組む課題の提出の有無により確認する。講義後質疑には、office365 teams やメール、電話などで対応する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		45 分以上	
1. 物理療法学総論① 物理療法の種類、物理療法の歴史や役割			小テストを実施するため、各授業後には必ず復習をしておくこと			
2. 物理療法の対象となる病態 ①-1 関節可動域制限のメカニズム						
3. 物理療法の対象となる病態 ①-2 関節可動域制限の評価						
4. 物理療法の対象となる病態 ②-1 疼痛 急性痛とそのメカニズム						
5. 物理療法の対象となる病態 ②-2 疼痛 慢性痛とそのメカニズム						
6. 物理療法の対象となる病態 ③炎症、筋緊張						
7. 温熱療法総論						
8. 温熱療法各論 表在性温熱療法						
9. 温熱療法各論 深達性温熱療法 ①極超短波療法						
10. 温熱療法各論 深達性温熱療法 ②超音波療法						
10. 寒冷療法と水治療法						
11. 電気刺激療法総論						
12. 電気刺激療法 TENS と NMES, バイオフィードバック療法						
14. 圧迫療法、牽引療法						
定 期 試 験 (期 末 レ ポ ー ト)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 15%	□レポート %	■定期試験 80%	■その他 5%	
	基準等	授業開始時に小テストを実施する。		授業で教授した範囲から出題する。	授業態度、授業参加の積極性を総合して評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	庄本康二ほか	エビデンスから身につける物理療法		羊土社		2017
参考図書	松澤 正ほか	「物理療法学」改訂第3版		金原出版		2012

履修要件等	特になし		
研究室	研究科棟 4 階 141 研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 13:00 ～ 14:30

科目No.	SPT03-2R		授業形態	実習	開講年次	2 年次	
授業科目名	物理療法学実習		担当教員 E-Mail	肥田 光正・今岡 真和			
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間	
	理学療法学	理学療法治療学		必 修	1 単位	後 期 (30h)	
教員の実務経験と 授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を生かして、物理療法の基本的な知識と手法、適切な物理療法を適用するためのクリニカルリーズニングについて講義する。						
授業内容の要約	2 年生前期で学習した物理療法の使用手順を実践する。物理療法機器の操作と被験者体験を通し、治療場面における対象者への配慮、オリエンテーション、方法の工夫等、実施上の理解を深める。 2 年生以降の臨床実習では物理療法を患者様へ適用する機会があるため、常に臨床を意識した実習とする。						
学修目標 到達目標	1. 健常者に対して、正しい手順で各種物理療法を実践することができる 2. 各種物理療法の適応、禁忌事項を説明できる 3. 臨床場面で遭遇することの多い症状に対して適切な物理療法を選択できる						
対面授業の 進め方	少人数グループに分かれ、各種物理療法を正しい手順でグループワークの形式で実践する。教科書の手順を熟読しながら物理用法を実践し、毎回の授業後には実施レポートの提出を求める。授業の後半では、実際の症例の問題点を呈示し、解決するために必要な物理療法についてのプレゼンテーションを実施する機会を設ける。						
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合は、office365 teams、stream を用いて講義を実施する。実技の習得には学生自身の学修が重要であるため、学生にも練習風景を動画で撮影してもらい、適宜教員が指導を行う。出席は、講義時間中に取り組む課題の提出の有無により確認する。質疑には、office365 teams やメール、電話などで対応する。						
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上	
1. 理学療法の進め方について							
2. 実習前オリエンテーション (授業概要説明とレポート課題の提示)							
3. 各機器構造と取り扱い方法・手順の説明							
4. 物理刺激と生体反応 ① 温熱療法 ホットパック、パラフィン浴			①に対するレポート課題				
5. 物理刺激と生体反応 ② 高周波療法 極超短波			②に対するレポート課題				
6. 物理刺激と生体反応 ③ 高周波療法 超音波			③に対するレポート課題				
7. 物理刺激と生体反応 ④ 寒冷療法 コールドパック、クリッカー			④に対するレポート課題				
8. 物理刺激と生体反応 ⑤ 水治療法 全身浴、部分浴			⑤に対するレポート課題				
9. 物理刺激と生体反応 ⑥ 電気療法 低周波療法 (TENS)			⑥に対するレポート課題				
10. 物理刺激と生体反応 ⑦ 電気療法 低周波療法 (EMS)			⑦に対するレポート課題				
11. 物理刺激と生体反応 ⑧ 牽引療法 腰椎、頸椎牽引			⑧に対するレポート課題				
12. スポーツ障害に対する物理療法適応の考え方			スポーツ障害の復習				
13. 各種運動器疾患に対する物理療法適応の考え方			各種運動器疾患の復習				
14. 各種中枢神経疾患に対する物理療法適応の考え方			各種中枢神経疾患の復習				
定期試験 (期 末 レ ポ ー ト)							
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	20%	■定期試験 70%	■その他 10%
	基準等			各レポートの提出状況と内容を吟味する。		授業中に教授した範囲から出題する。	授業態度、実習参加の積極性を吟味する。

教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	庄本康二ほか	エビデンスから身につける物理療法		羊土社	2017
参考図書	松澤 正ほか	「物理療法学 第3版」		金原出版	2012
履修要件等	物理療法学を履修済みであることが望ましい。				
研究室	肥田：研究科棟4階 141 研究室	オフィスアワー	肥田：毎週月曜日	13:00 ～ 14:30	
	今岡：研究科棟4階 143 研究室		今岡：毎週水曜日	12:00 ～ 13:00	

科目No.	SPT05-2R		授業形態	実習	開講年次	2 年次
授業科目名	運動療法学実習		担当教員 E-Mail	峰久 京子・佐伯 純弥		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	病院で理学療法士として 23 年の臨床経験がある教員がその経験を活かして、運動療法で用いる基本的な知識と手法について講義と実技を通して指導する。					
授業内容の要約	当該科目は教育課程における専門科目であり、1 年次で履修した「運動療法学総論」をさらに発展させた科目である。理学療法の中心的で基本的な技術である運動療法について、理論と手技を併せて学習する。					
学修目標 到達目標	1. 運動療法の目的や基本原理を理解することができる 2. 基本的な運動療法を説明、実施ができる 3. 基本的な運動療法を実施するにあたっての注意、禁忌の理解ができる					
対面授業の 進め方	講義ならびにデモンストレーションで説明を行った後、ペア・グループを組んで実技を行う。1 年次で履修した「運動療法学総論」を基本に進めていくため、授業ノートを持参し、復習をしてください。なお、本学指定の感染対策を遵守したうえで、実技が可能な服装・整容での出席を求める。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業の場合、Teams オンライン形式と forms オンデマンド形式で行う。講義形式の授業はスライド等にて説明し、実技は動画や模倣にて説明する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 運動療法総論の総復習と関節可動性障害について				運動療法学総論の復習と学んだ授業の復習		
2. 関節可動性の運動療法 (ROM.Ex 下肢) 講義と実技①				運動療法学総論の復習と学んだ授業の復習		
3. 関節可動性の運動療法 (ROM.Ex 下肢) 講義と実技②				運動療法学総論の復習と学んだ授業の復習		
4. 関節可動性の運動療法 (ROM.Ex 上肢・体幹) 講義と実技①				運動療法学総論の復習と学んだ授業の復習		
5. 関節可動性の運動療法 (ROM.Ex 上肢・体幹) 講義と実技②				運動療法学総論の復習と学んだ授業の復習		
6. ストレッチング (下肢) 講義と実技				運動療法学総論の復習と学んだ授業の復習		
7. ストレッチング (上肢・体幹) 講義と実技				運動療法学総論の復習と学んだ授業の復習		
8. 2～7 までのまとめと実技の確認テスト				運動療法学総論の復習と学んだ授業の復習		
9. 筋機能障害の運動療法 (筋収縮様式別トレーニングと筋力トレーニングの種類) について				運動療法学総論の復習と学んだ授業の復習		
10. 筋機能障害の運動療法 (OKC トレーニング) 講義と実技				運動療法学総論の復習と学んだ授業の復習		
11. 筋機能障害の運動療法 (CKC トレーニング) 講義と実技				運動療法学総論の復習と学んだ授業の復習		
12. 機能向上運動Ⅰ (協調運動障害・バランス機能障害の運動療法)				運動療法学総論の復習と学んだ授業の復習		
13. 機能向上運動Ⅱ (基本動作の運動療法) ①				運動療法学総論の復習と学んだ授業の復習		
14. 機能向上運動Ⅱ (基本動作の運動療法) ②				運動療法学総論の復習と学んだ授業の復習		
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)				全授業の復習		
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート %	■定期試験 80%	□その他 %	
	基準等	授業内にて中間試験 (実技) を実施する		筆記・実技試験を実施し、理解度を評価する		
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	対馬栄輝 編集	Crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学			メジカルビュー社	2020
参考図書						

履修要件等	「運動療法学総論」が履修済みであることが望ましい。実技を行うため、適切な身だしなみ（服装、頭髪、爪など）にて参加してください。		
研究室	峰久：1号館5階 第7研究室 佐伯：1号館5階 第3共同研究室	オフィスアワー	峰久：毎週木曜日 12：10～12：50 佐伯：毎週月曜日 12：10～13：00

科目No.	SPT06-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	日常生活活動学		担当教員 E-Mail	久利 彩子		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	障がい有する患者の日常生活活動に着目した理学療法に携わった経験と専門知識を持つものが、日常生活活動の基礎について、講義する。					
授業内容の要約	適切な理学療法を実施するためには、患者様の日常生活活動（ADL）を理解することが必須である。当該授業では、ADL の概念、日常生活活動の評価の考え方と方法、基本動作とセルフケア、生活環境整備、身体活動量、代表的な疾患・障害における日常生活活動について、学習する。理学療法士にとって必要な「ADL」における専門的な知識や基礎的学力を修得する。					
学修目標 到達目標	1. 日常生活活動（ADL）の概念や日常生活活動の評価の考え方と方法を述べることができる。 2. 日常生活活動における基本動作やセルフケア、代表的な疾患・障害における日常生活活動の概要を述べることができる。 3. 生活環境整備や身体活動量について述べることができる。 4. 代表的な疾患・障害における日常生活活動について述べることができる。					
対面授業の 進め方	授業は、基本的に講義形式で行う。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合、office365teams、forms、stream を用いる予定である。課題は随時配信する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. オリエンテーション、日常生活活動の概念 (教科書 pp1-20)			予習:教科書の該当箇所について予習をすること。 復習:配布資料と教科書の該当箇所について、復習をすること。			
2. 日常生活活動の評価① 日常生活活動評価の概要 (教科書 pp21-43)						
3. 日常生活活動の評価② BI (教科書 pp44-47)						
4. 日常生活活動の評価③ FIM (教科書 pp47-72)						
5. 基本動作とセルフケア① 起居動作 (教科書 pp73-93)						
6. 基本動作とセルフケア② 移乗動作 (教科書 pp94-106)						
7. 基本動作とセルフケア③ 移動動作・歩行 (教科書 pp107-118)						
8. 基本動作とセルフケア④ 安全な介助方法 (教科書 pp119-126)						
9. 基本動作とセルフケア⑤ セルフケアと IADL (教科書 pp135-134)						
10. 生活環境整備① 義肢装具と歩行補助具 (教科書 pp139-161)						

11. 生活環境整備② 車いす・座位保持装置・日常生活用具・自助具・住宅改修と家庭環境の整備 (教科書 pp162-194)									
12. 身体活動の増進 (教科書 pp195-220)									
13. 代表的な疾患・障害における日常生活活動① 片麻痺・脊損・脊椎・脊髄疾患・関節リウマチ・変形性関節症・切断 (教科書 pp221-296)									
14. 代表的な疾患・障害における日常生活活動② 脳性麻痺・呼吸器疾患・循環器疾患・神経筋疾患・高次脳機能障害・認知症 (教科書 pp297-350)									
定期試験 (期 末 レ ポ ー ト)									
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)									
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	☑定期試験 100 %	%	□その他	%
	基準等					筆記試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。			
教科書		著者	タイトル		出版社		発行年		
		編集 臼田 滋	Crosslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学		MEDICAL VIEW				
参考図書		編集 細田多穂	「日常生活活動学テキスト」		南江堂				
履修要件等									
研究室		1 号館 5 階 第 9 研究室			オフィスアワー	毎週火曜日 12 : 20～12 : 50			

科目No.	SPT07-2R		授業形態	実習	開講年次	2 年次
授業科目名	日常生活活動学実習		担当教員 E-Mail	久利 彩子		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必 修	1 単位	後 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	障がいをもつ患者の日常生活活動に着目した理学療法に携わった経験と専門知識を持つものが、日常生活活動の基礎について、実習指導する。					
授業内容の要約	適切な理学療法を実施するためには、患者さんの日常生活活動（ADL）を理解することが必須である。当該授業では、ADL 動作能力維持改善のための介助と練習・指導の実技を行う。さらに、ADL を支援する機器の実物を手に取り、概要を学ぶ。理学療法士にとって必要な「ADL 障害へのかかわり」における専門的な知識や基礎的学力を修得する。					
学修目標 到達目標	1. ADL 動作練習の基本的な考え方や基本的な練習・指導方法が実施できるようになる。 2. ADL を支援する基本的な機器が説明できるようになる。					
対面授業の 進め方	授業は、基本的に実習形式で行う。アクティブラーニング（グループワーク、ディスカッション）の手法を用いる。授業中、介助や練習・指導の実技についての到達度を確認する。屋外での実習を予定しているため、天候によっては授業内容の変更を行う。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合、office365teams、forms、stream を用いる予定である。課題は随時配信する。					
授業計画					授業時間外に必要な学修	30 分以上
1. オリエンテーション Active learning-01 必要な歩行スピード計測と動作練習の立案					復習：配布資料と授業中のメモを、ノートにまとめること。	
2. Active learning-02 起き上がりに必要な身体各部位の最大関節可動域						
3. Active learning-03 段差昇降・またぎ動作に必要な身体各部位の最大関節可動域						
4. ロービジョン体験と動作練習・指導						
5. 車いす						
6. 車いす体験と動作練習・指導						
7. 歩行補助具と動作練習・指導						
8. 福祉用具の適応とその代償機能						
9. 寝返り 動作介助・練習・指導						
10. 起き上がり 動作介助・練習・指導						
11. 起立・着座 動作介助・練習・指導						
12. 移乗動作 介助・練習・指導						
13. 姿勢と基底面圧分布						
14. 疾患別動作練習と指導						
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	☑定期試験 100 %	□その他 %	
	基準等			筆記・実技試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。	授業中、介助や練習・指導の実技についての到達度を確認する。	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	編集 臼田 滋	Crosslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学	MEDICAL VIEW	
参考図書	編集 細田多穂	「日常生活活動学テキスト」	南江堂	
履修要件等				
研究室	1号館5階 第9研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:20～12:50	

科目No.	SPT08-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	義肢装具学		担当教員 E-Mail	村西 壽祥		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必 修	1 単位	後 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	理学療法士として病院で義肢装具の実務経験のある教員が指導にあたる。					
授業内容の要約	当該科目は教育課程における専門科目であり、本学カリキュラムポリシーである専門的な知識・技術を深め療法士としての素地を作る科目である。リハビリテーション医療や福祉分野で取り扱う義肢装具を中心に、その目的や構造・機能・種類や特徴について学修する。また、臨床で理学療法の対象となる一般的な義肢装具の処方、適応、適合判定などの基本について学修する。					
学修目標 到達目標	1. 義肢装具の目的・構造の概略について説明できる 2. 義肢装具の機能・種類の概略について説明できる 3. 義肢装具の適応・適合判定項目について説明できる					
対面授業の 進め方	講義および実際の装具の名称や構造を確認し、適合判定を行う。実習では、グループごとに各課題についてディスカッションし、課題発表を行う。なお、「義肢装具学」では装具を中心とし、「義肢装具学実習」では義肢を中心に学修する。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業は対面授業同様にパワーポイントにて、教科書に沿った解説を行い、授業ノートを作成する。装具の実物やその調整については、デモンストレーションを中心に行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 装具学総論			定義、分類について復習する			
2. 下肢装具の部品とその機能			部品の名称と機能を復習する			
3. 短下肢装具			AFO の種類と特徴について復習する			
4. 長下肢装具			KAFO の種類と適応について復習する			
5. 股装具・膝装具			各装具の目的と適応を復習する			
6. 靴型装具			靴型装具の種類と適応を復習する			
7. 体幹装具			体幹装具の種類と適応を復習する			
8. 上肢装具			上肢装具の種類と適応を復習する			
9. 実習 各種装具の名称と構造の確認			KAFO の各名称を復習する			
10. 実習 膝継手・足継手の調整			膝継手と足継ぎ手の調節方法を復習する			
11. 車椅子			車いすの各名称と適合判定を復習する			
12. 下肢装具のチェックアウト			チェックアウトの内容を復習する			
13. 実習 長下肢装具の調整とチェックアウト			チェックアウトの流れを復習する			
14. 実習 川村義肢による陰性モデル作成			装具作成過程を復習する			
定 期 試 験 (期 末 レ ポ ー ト)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	☑定期試験 70%		□その他 %
	基準等			筆記試験にて授業の内容全般について理解度を評価する		
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	石川朗他編	「15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 装具学 第2版」			中山書店	2020

参考図書	細田多穂監修	「シンプル理学療法学シリーズ 義肢装具学テキスト 改訂第3版」	南江堂	2017
履修要件等	解剖学・生理学・運動学・整形外科・内科学が履修済みであることが望ましい			
研究室	1号館5階 第21研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10～13:00	

科目No.	SPT09-2R		授業形態	実習	開講年次	2 年次
授業科目名	義肢装具学実習		担当教員 E-Mail	村西 壽祥		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必 修	1 単位	後 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	理学療法士として病院で義肢装具の実務経験のある教員が講義を行う。					
授業内容の要約	当該科目は教育課程における専門科目であり、本学カリキュラムポリシーである専門的な知識・技術を深め療法士としての素地を作る科目である。臨床で理学療法の対象となる切断および義肢装具についての基礎知識を習得し、切断者に対する評価および理学療法の基本について学修する。					
学修目標 到達目標	1. 下肢切断について、その対象となる疾患や病態について説明できる 2. 義足について、構造および機能的役割を説明できる 3. 義足に関する基本的な理学療法評価および理学療法を実践できる					
対面授業の 進め方	講義は教科書と板書を中心に進める。 切断原因となる疾患と切断者の特性を理解することが重要となる。 切断による身体への影響について、解剖学的理解が重要となる。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、対面授業内容のオンデマンド配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 総論，切断の原因			復習：切断原因となる疾患の特徴			
2. 切断部位と切断術			復習：切断部位毎の特徴，切断による影響			
3. 大腿切断と大腿義足①（膝継手：立脚制御）			復習：膝継手の役割と立脚相の制御因子			
4. 大腿切断と大腿義足②（膝継手：遊脚制御）			復習：膝継手の役割と遊脚相の制御因子			
5. 大腿切断と大腿義足③（大腿ソケット）			復習：大腿ソケットの種類と構造			
6. 下腿切断と下腿義足①（下腿ソケット）			復習：下腿ソケットの種類と構造			
7. 下腿切断と下腿義足②（足部）			復習：足部・足継手の種類と役割			
8. 切断者に対する評価①（全体評価）			復習：切断者に対する理学療法評価方法			
9. 切断者に対する評価②（断端評価）			復習：断端の評価方法			
10. 切断のリハビリテーション①（断端管理）			復習：断端の管理方法，弾性包帯について			
11. 切断のリハビリテーション②（立位・歩行練習）			復習：立位・歩行練習の進め方			
12. 義足の異常歩行①（下腿義足）			復習：下腿義足の異常歩行の種類と原因			
13. 義足の異常歩行②（大腿義足）			復習：大腿義足の異常歩行の種類と原因			
14. 特別講義（川村義肢より講師派遣）						
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 70%	□その他 %	
	基準等	毎回，授業内で行う小テストの平均点を定期試験テストに加算する.		記述試験のみ（記号問題，選択問題は実施しない），解答は説明することを求める		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	細田多穂ほか	「シンプル理学療法学シリーズ 義肢装具学テキスト 改訂第3版」		南江堂		2017
参考図書	伊藤利之	「義肢装具のチェックポイント9版」		医学書院		2021

履修要件等	形態・機能学解剖学領域Ⅰ・Ⅱ，解剖学実習Ⅰ・Ⅱ，機能運動学Ⅰ		
研究室	1号館5階 第21研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12：10～13：00

科目No.	SPT12-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	運動器系理学療法学		担当教員 E-Mail	峰久 京子		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必 修	1 単位	後 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	病院で理学療法士として 23 年の臨床経験がある教員がその経験を活かして、運動器系の疾患・障害の概要とその評価・治療について指導する。					
授業内容の要約	当該科目は教育課程における専門科目であり、臨床理学療法において頻繁にその対象となる代表的な運動器系の疾患・障害の概要について学習する 代表的な運動器系の疾患・障害を理解し、理学療法の評価・治療について学習する					
学修目標 到達目標	1. 代表的な運動器系疾患・障害の概要を説明できる 2. 代表的な運動器系の疾患・障害に対する理学療法評価を説明できる 3. 代表的な運動器系の疾患・障害に対する理学療法治療を説明できる					
対面授業の 進め方	教科書を中心とした講義形式で行い、理解の程度を確認するために中間試験を実施する。 事前に教科書を読み、疑問を持って授業に取り組むこと。ワークブックとして使用できるレジュメを配布するため受講しながら課題を完成させ、さらに復習としてノート整理を行ってください。					
遠隔授業の 進め方	Microsoftoffice365のteamsを使用し、双方向通信の授業を行う。 遠隔授業時の出席確認は、teams に紐づけられた Class Notebook に授業のまとめを作成することと、確認テストの提出をもって行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. オリエンテーション、総論① 運動器障害理学療法とは・組織修復・治癒過程 (教科書 p2～39)			予習：教科書 p2～39 を読む 復習：ノート整理、運動器障害の基礎的知識、基本的な考え方を学習する。組織修復・治癒過程についてまとめる。			
2. 総論② 骨折・脱臼総論 (教科書 p40～58)			予習：教科書 p40～58 を読む 復習：ノート整理、骨折、脱臼の定義、分類、症状、治療についてまとめる。			
3. 各論① 上肢の骨折：疾患の概要・評価と治療 (教科書 p60～103)			予習：教科書 p60～103 を読む 復習：ノート整理、上肢骨折の概要、評価、治療についてまとめる。			
4. 各論② 大腿骨骨折 (1)：大腿骨近位部骨折の概要・理学療法評価と治療 (教科書 p104～166)			予習：教科書 p104～166 を読む 復習：ノート整理、大腿骨近位部骨折の概要、評価、治療についてまとめる。			
5. 各論③ 大腿骨骨折 (2)：大腿骨骨折の概要・理学療法評価と治療 (教科書 p104～166)			予習：教科書 p104～166 を読む 復習：ノート整理、大腿骨骨折の概要、評価、治療についてまとめる。			
6. 各論④ 膝・下腿骨骨折：膝・下腿骨折の概要・理学療法評価と治療 (教科書 p168～189)			予習：p168～189 を読む 復習：ノート整理、膝・下腿骨骨折の概要・評価と治療についてまとめる。			
7. 中間試験 総論③ 変形性関節症総論 (教科書 p190～204, p 240～253)			予習：教科書 p190～204, p 240～253 を読む 復習：ノート整理、変形性関節症の定義、分類、症状、治療についてまとめる。			
8. 各論⑤ 変形性股関節症：疾患の概要、保存療法と観血的療法、理学療法評価と治療 (教科書 p190～239)			予習：p190～239 を読む 復習：ノート整理、変形性股関節症の概要、評価、治療についてまとめる。			

9. 各論⑥ 変形性膝関節症：疾患の概要、保存療法と観血的療法、理学療法評価と治療（教科書 p240～275）				予習：教科書 p240～275 を読む 復習：ノート整理、変形性膝関節症の概要、評価、治療についてまとめる。		
10. 各論⑦ 肩関節疾患①肩関節周囲炎：疾患の概要、理学療法評価と治療（教科書 p276～311）				予習：教科書 p276～311 を読む 復習：ノート整理、肩関節周囲炎の概要、評価、治療についてまとめる		
11. 各論⑧ 肩関節疾患②肩板断裂・非外傷性不安定症：疾患の概要、理学療法評価と治療（教科書 p312～369）				予習：教科書 p312～369 を読む 復習：ノート整理、腱板断裂・非外傷性不安定症の概要、評価、治療についてまとめる。		
12. 各論⑨ 腰部・脊椎疾患：疾患の概要、理学療法評価と治療（教科書 p370～437）				予習：教科書 p370～437 を読む 復習：ノート整理、腰部・脊椎疾患の概要、評価、治療についてまとめる。		
13. 各論⑩ 膝靱帯・半月板損傷：疾患の概要、理学療法評価と治療（教科書 p438～469）				予習：教科書 p438～469 を読む 復習：ノート整理、膝靱帯・半月板損傷の概要、評価、治療についてまとめる。		
14. 各論⑪ 関節リウマチ：疾患の概要、理学療法評価と治療（教科書 p542～575）				予習：教科書 p542～575 を読む 復習：ノート整理、関節リウマチの概要、評価、治療についてまとめる。		
定期試験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	☑課題・小テスト 20 %	□レポート %	☑定期試験 70 %	☑その他 10 %	
	基準等	授業内に中間テストを実施し、授業内容についての理解度を評価する。		定期試験（全範囲）を実施し、授業の内容全般についての理解度を評価する。	学習を進めるノート（配布レジュメを含んでよい）を評価する	
教科書		著者	タイトル		出版社	発行年
		加藤 浩 編集	Crosslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学		メジカルビュー社	2020
参考図書		島田洋一、高橋仁美 編	「整形外科 術後理学療法プログラム」 第3版		メジカルビュー社	2020
		細田 多穂 監修	シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト		南江堂	2021
履修要件等		「運動療法学総論」「運動療法学実習」「機能運動学」「機能運動学実習」が履修済であることが望ましい。				
研究室		1号館5階 第7研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 12:10～12:50	

科目No.	SCP02-2R		授業形態	演習	開講年次	2 年次
授業科目名	臨床ゼミⅡ（PT）		担当教員 E-Mail	久利 彩子・古井 透・大筆 友博・岡 健司		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	臨床実習		必 修	1 単位	前 期（30h）
教員の実務経験と 授業内容の関連	障がいをもつ患者の理学療法に携わった経験と専門知識を持つものが、理学療法の基礎について、演習を通じて指導する。					
授業内容の要約	理学療法士に必要な知識、臨床的思考を深め、解剖学・生理学・運動学の知識および検査測定技術を再学習し、理学療法士としての素地を作る。学生生活に関する情報共有の場としても活用する。					
学修目標 到達目標	1. 臨床検査・測定実習の基盤となる知識、技術、臨床的思考を身につける。 2. 運動や動作を理解するために必要な、解剖学・生理学・運動学の知識を固める。					
対面授業の 進め方	課題（知識・技術）を中心に行う。また、学生生活に関する情報共有の場として、学生主体に展開する時間帯もある。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合、office365teams、forms、stream を用いる予定である。課題は随時配信する。					
授業計画					授業時間外に必要な学修	30 分以
1. オリエンテーション					課題範囲についてしっかり予習し、授業中に実施する内容を振り返り、知識技術を補うこと。	
2. 前期履修科目・スケジュールの確認（個別面談）						
3. 検査・測定の基盤知識(骨・関節)（p3～21）						
4. 検査・測定の基盤知識(運動学:筋)（p22～50）						
5. 検査・測定の基盤知識(運動学:関節（上肢）)(p51～90)						
6. 検査・測定の基盤知識(運動学:関節（下肢・体幹）、筋の作用)（p91～137）						
7. 検査・測定の基盤知識(運動学:姿勢と歩行とバイメカ)（p138～192）						
8. 検査・測定の基盤知識(神経と感覚：神経の興奮伝導・中枢神経系)（p203～249）						
9. 検査・測定の基盤知識(神経と感覚:末梢神経・反射と筋活動・感覚)（p251～317）						
10. 検査・測定の基盤知識(神経と感覚:呼吸と循環（呼吸）)（p325～352）						
11. 検査・測定の基盤知識（ROM 上肢）知識						
12. 検査・測定の基盤知識（RM 上肢）実技						
13. 検査・測定の基盤知識（ROM 下肢）知識						
14. 検査・測定の基盤知識（ROM 下肢）実技						
定期試験						
15. フィードバック						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %		□レポート %		☑定期試験・その他 100%
	基準等					
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
		リハビリテーション基礎評価学			羊土社	
参考図書		基礎固めヒント式トレーニング基礎医学編			南江堂	
履修要件等						
研究室	各担当教員 研究室			オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー	

科目No.	SCP04-2R		授業形態	演習	開講年次	2 年次
授業科目名	臨床実習指導Ⅱ（P T）		担当教員 E-Mail	久利 彩子・古井 透・大簗 友博・岡 健司		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	臨床実習		必 修	1 単位	後 期（30h）
教員の実務経験と授業内容の関連	障がい有する患者の理学療法に携わった経験と専門知識を持つものが、理学療法の基礎について、演習を通じて指導する。					
授業内容の要約	臨床検査・測定実習に向けて、事務手続きを行うとともに、理学療法士に必要な知識、臨床的思考を深め、検査測定の知識・技術を再学習し、理学療法士としての素地を作る。学生生活に関する情報共有の場としても活用する。					
学修目標 到達目標	1. 臨床検査・測定実習の基盤となる知識、技術を身につける 2. 臨床検査・測定実習の事務手続きを確実にを行う					
対面授業の 進め方	基本的に授業は演習形式で行う。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合、office365teams、forms、stream を用いる予定である。課題は随時配信する。					
授業計画					授業時間外に必要な 学修	30 分以上
1. オリエンテーション（シラバス説明）、実習アンケート、ワクチン接種アンケート、面談、他					授業で実施した内容を振り返り、知識技術を補うこと。実習事務手続きは、責任を持って確実に実施すること。	
2. 夏休み宿題テスト 臨床検査・測定実習説明① 概要説明（1 年次配布済みの実習手引き持参）、他						
3. 臨床検査・測定実習説明② 概要説明（新規配布の実習手引き）、他						
4. 臨床検査・測定実習説明③ 感染対策、他						
5. 臨床検査・測定実習説明④ 各種手続き（新規配布の備忘録）、他						
6. 臨床検査・測定実習説明⑤ 誓約書、学生紹介書、実習前報告、他						
7. 臨床検査・測定実習説明⑥ レジューメ、他						
8. 臨床検査・測定実習説明⑦ 実習地、実習定期、他						
9. 臨床検査・測定実習説明⑧ 手続き、他						
10. 臨床検査・測定実習説明⑨ 手続き、記述・実技						
11. 臨床検査・測定実習説明⑩ 手続き、記述・実技						
12. 臨床検査・測定実習説明⑪ 手続き・記述・実技練習						
13. 解剖実習見学						
14. 臨床検査・測定実習説明⑫ 手続き						
定期試験						
15. フィードバック						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	☑ 定期試験・その他 100%		
	基準等			各種提出物、定期試験・等で評価する。		

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
		実習のてびき		
参考図書	野村 巖、編	「標準理学・作業療法学 解剖学第4版」	医学書院	
	潮見泰蔵、他	「リハビリテーション基礎評価学」	羊土社	
	Hislop ら	「新徒手筋力検査法 原著第9版」	協同医書	
履修要件等	臨床検査・測定実習に参加見込みであること アンケート記入や記述練習はノート PC を用いて実施する。			
研究室	各担当教員 研究室	オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー	

科目No.	SCP07-2R		授業形態	実習	開講年次	2 年次
授業科目名	臨床検査・測定実習（P T）		担当教員 E-Mail	久利 彩子・古井 透・大竈 友博・岡 健司		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	臨床実習		必 修	3 単位	後 期 (135h) 3 週間
教員の実務経験と 授業内容の関連	理学療法士として実務経験のある教員と実習指導者が指導にあたる。					
授業内容の要約	診療参加型臨床実習をとおして、理学療法士の業務内容、役割、位置づけ、社会的責任等の理解を深める。さらに、臨床場面において検査・測定の意義および目的を理解し、基本的な技術を経験し、症例に応じた検査・測定の適応や方法を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 理学療法における検査・測定の意義および目的を理解し、基本的な検査・測定（手順や方法）を実施することができる。 2. 検査・測定結果と障害との関連性を国際機能分類に準じてまとめ、その内容を説明できる。					
対面授業の 進め方	実地体験学習。実習の手引きをよく確認すること。臨床実習ですので自ら学ぶ姿勢で実習に取り組んでいただきたい。なお、実習後セミナーである各グループの実習報告会にて実習の成果を発表し、積極的にディスカッションしていただきたい。					
遠隔授業の 進め方	学内代替実習になった場合は、実習担当教員が Teams のクラスノートブックを活用して、日々の課題の提出と添削をおこなう。また、オンラインにて双方向の実習指導を個別および少人数にておこなう。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分程度
実習前評価として、筆記試験と実技試験を行う。 3 週にわたり医療提供施設等で検査・測定実習を行う。 実習後評価として、筆記試験およびレジュメ発表会を行う。			毎日の実習体験をデイリーノートにまとめる。 実習報告会用のレジュメを A3 用紙 1 枚にまとめる。 不十分な基礎知識を自己学習する。			
成績評価方法	項目	☑課題・小テスト 10%	□レポート %	□定期試験 %	☑その他 90%	
	基準等	筆記試験（実習後評価分）			実習目標達成状況（実習中の取り組み・臨床実習成果記録・レジュメ発表）を総合的に評価する。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
		「臨床実習の手引き 第 5 版」				
		「臨床実習の手引き 理学療法学専攻 2022 年度版」				
参考図書	特に指定しない					
履修要件等	実習要件 2) を満たしていること					
研究室	各担当教員 研究室		オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー		

科目No.	SBO03-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	作業療法運動学		担当教員 E-Mail	白岩 圭悟		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	基礎作業療法学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	作業療法士として実務経験のある教員が講義を行う					
授業内容の要約	身体障害分野の作業療法に必要な身体運動の基礎を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 身体運動の基礎を深めることができることを目指す 2. 作業療法に必要な身体運動機能の分析力を身につけることを目指す					
対面授業の 進め方	身体運動を捉えて作業療法の実践に関する根拠となる、身体構造を学んでいく。 日常生活から身体の運動の視点をもっておくこと。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 運動学の基礎			復習：運動学の基礎を理解する			
2. バイオメカニクス			復習：バイオメカニクスを理解する			
3. 上肢帯の運動			復習：上肢帯の筋と関節の相互作用を理解する			
4. 肩関節の運動			復習：肩関節の筋と関節の相互作用を理解する			
5. 肘関節の運動			復習：肘関節の相互作用を理解する			
6. 手関節と手の運動			復習：肩複合体の周囲の骨と筋を理解する			
7. 股関節の運動			復習：股関節の筋と関節の相互作用を理解する			
8. 膝関節の運動			復習：膝関節の筋と関節の相互作用を理解する			
9. 足関節と足の運動			復習：足関節の筋と関節の相互作用を理解する			
10. 体幹の運動			復習：体幹の筋と関節の相互作用を理解する			
11. 胸椎と胸郭の運動			復習：胸椎の筋と関節の相互作用を理解する			
12. 腰椎の運動			復習：腰椎の筋と関節の相互作用を理解する			
13. 運動学習			復習：運動学習を理解する			
14. 運動の中枢神経系機構			復習：運動の中枢神経系機構を理解する			
定 期 試 験 (期 末 レ ポ ー ト)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	■レポート	■定期試験 60%	■その他 10%	
	基準等	各授業に関する課題があり、その取り組む姿勢や提出物の内容を評価する。	各授業に関するレポートがあり、提出物の内容を評価する。	定期試験は筆記試験で実施する。	授業への参加度、定期試験の受験資格を失わない出席が必要である。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	島田智明 (翻訳)	筋骨格系のキネシオロジー		医歯薬出版		2012
参考図書	中村隆一 他	基礎運動学 第 6 版補訂		医歯薬出版		2012
履修要件等						
研究室	1 号館 5 階 共同研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:10～13:00		

科目No.	SBO04-2R		授業形態	演習	開講年次	2 年次	
授業科目名	作業療法運動学演習		担当教員 E-Mail	白岩 圭悟			
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間	
	作業療法学	基礎作業療法学		必 修	1 単位	後 期 (16h)	
教員の実務経験と 授業内容の関連	作業療法士として実務経験のある教員が講義を行う						
授業内容の要約	日常生活の基礎となる正常動作の分析の基礎を学ぶ。						
学修目標 到達目標	1. 正常運動の基礎を深めることを目指す。 2. 作業療法に必要な動作分析力を身につけることを目指す。						
対面授業の 進め方	正常運動の基礎を捉えて作業療法の実践に関する根拠となる動作を学ぶ。 日常生活から正常運動に関する視点をもっておくと授業に参加しやすい。 また、動作分析を促すために学生同士でグループワークを取り入れて学ぶ。						
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。第 1 回～ 7 回は遠隔で授業を行い、第 8 回はセクションの まとめとして対面授業を行う。遠隔授業時の出席確認は、授業終盤に配信する課題の提出をもって行う。						
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 歩行の運動学的分析				復習：歩行の運動学的分析について理解する			
2. 歩行の運動力学的分析				復習：歩行の運動学的分析について理解する			
3. 歩行時の筋活動				復習：歩行時の筋活動について理解する			
4. 寝返りの動作分析				復習：寝返りの動作分析について理解する			
5. 起き上がりの動作分析				復習：起き上がりの動作分析について理解する			
6. 起立・着座の動作分析				復習：起立・着座の動作分析について理解する			
7. 姿勢分析				復習：姿勢分析について理解する			
定期試験（期末レポート）							
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	30%	■定期試験 60% ■その他 10%	
	基準等			各授業に関するレポートがあり、提出物の内容を評価する。		定期試験は筆記試験で実施する。	授業への参加度、定期試験の受験資格を失わない出席が必要である。
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年
	石井真一郎（編著）	動作分析臨床活用講座			メディカルビュー		2013
参考図書	島田智明（翻訳）	筋骨格系のキネシオロジー			医歯薬出版		2012
履修要件等							
研究室	1 号館 5 階 共同研究室			オフィスアワー	毎週火曜日 12:10～13:00		

科目No.	SBO07-2R	授業形態	実習	開講年次	2 年次
授業科目名	応用作業分析学実習	担当教員 E-Mail	武井 麻喜・中越 雄也		
基本項目	専 攻	科 目 区 分	単 位 数		履修期間
	作業療法学	基礎作業療法学	必 修	1 単位	前 期 (45h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	病院・施設での臨床経験が 10 年以上ある教員が、その経験を活かして、作業分析の基本的な知識と手法について指導する。				
授業内容の要約	作業療法における作業と作業分析の位置づけを確認し、分析する各項目の考え方を整理したうえで実際に活動し分析を進めていく。治療として作業活動を用いるための基礎を学修する。				
学修目標 到達目標	1. 作業分析の臨床的な意義について理解し説明ができる 2. 適切な手順にしたがって作業分析ができる 3. 作業分析から作業の特徴を捉え、作業の治療的应用について考察することができる				
対面授業の 進め方	講義後に作業活動実習と分析、グループ討論、発表を行う。 「楽しく真剣に」取り組むこと。				
遠隔授業の 進め方					
授業計画			授業時間外に必要な学修		60 分以上
1. 作業分析とは、作業工程分析 講義・実習・分析 めりえ			グループ討論をもとに講義、実習内容・分析結果をレポートにまとめること		
2. 作業分析の実際（基礎項目分析）講義・実習・分析 めりえ			グループ討論をもとに講義、実習内容・分析結果をレポートにまとめること		
3. 作業分析の実際（運動機能の分析）講義					
4. 作業分析の実際（運動機能の分析）実習・分析 折り紙			グループ討論をもとに講義、実習内容・分析結果をレポートにまとめること		
5. 作業分析の実際（感覚知覚認知機能分析）講義					
6. 作業分析の実際（感覚知覚認知機能分析）実習・分析 切り絵			グループ討論をもとに講義、実習内容・分析結果をレポートにまとめること		
7. 作業分析の実際（作業過程・作品の分析）講義					
8. 作業分析の実際（作業過程・作品の分析）実習・分析 貼り絵			グループ討論をもとに講義、実習内容・分析結果をレポートにまとめること		
9. 作業分析の実際（コミュニケーション分析）講義					
10. 作業分析の実際（コミュニケーション分析）実習・分析 トランプ			グループ討論をもとに講義、実習内容・分析結果をレポートにまとめること		
11. 作業分析の実際（リスクの分析）講義					
12. 作業分析の実際（リスクの分析）実習・分析 散歩			グループ討論をもとに講義、実習内容・分析結果をレポートにまとめること		
13. 作業分析の実際（包括的作業分析）実習 カラオケ・百人一首・将棋					
14. 作業分析の実際（包括的作業分析）分析 カラオケ・百人一首・将棋			グループ討論をもとに実習内容・分析結果をレポートにまとめること		
15. 作業分析の実際（包括的作業分析）実習 編み物 1					
16. 作業分析の実際（包括的作業分析）実習 編み物 2			実習内容を復習し、技法を習得すること		
17. 作業分析の実際（包括的作業分析）実習 編み物 3					

18. 作業分析の実際（包括的作業分析）分析 編み物		グループ討論をもとに実習内容・分析結果をレポートにまとめること			
19. 作業分析の実際（包括的作業分析）実習 調理 1					
20. 作業分析の実際（包括的作業分析）分析 調理 1		グループ討論をもとに実習内容・分析結果をレポートにまとめること			
21. 作業分析の実際（包括的作業分析）実習 調理 2					
22. 作業分析の実際（包括的作業分析）分析 調理 2		グループ討論をもとに実習内容・分析結果をレポートにまとめること			
23. 作業分析の実際（包括的作業分析）総括					
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	90%
	基準等			毎回レポートを課し評価する。	
		□定期試験		%	■その他 10%
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
参考図書	山根寛	「ひとと作業・作業活動 新版」		三輪書店	2017
	浅沼辰志	「作業療法学 ゴールドマスター・テキスト 作業学 第3版」		メジカルビュー社	2021
	日本作業療法士協会	作業—その治療的応用 改訂第2版		協同医書出版社	2003
履修要件等		「基礎作業学」「基礎作業分析学実習」を履修済であることが望ましい。			
研究室	武井：1号館5階 第18研究室	オフィスアワー	武井：毎週月曜日 12：10～13：00		
	中越：1号館5階 第2共同研究室		中越：毎週火曜日 12：10～13：00		

科目No.	SOE02-2R		授業形態	実習	開講年次	2 年次
授業科目名	作業療法評価学実習		担当教員 E-Mail	岸村 厚志 / 作業療法学専攻教員		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必 修	1 単位	後 期 (45h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	「臨床検査測定実習」が実施される前段階の科目（プレ実習）で、臨床現場の実務体験を基に学生が臨床で担当ケースに医用画像の評価を用いた上で作業療法の評価（検査・測定）の実技体験を指導・振り返りを指導する。さらに身につけた実技技術を試験（客観的臨床能力試験＝OSCE）にて測り、臨床実習に臨めるように指導する。					
授業内容の要約	関連施設において身体障害分野、精神障害分野、または高齢期障害分野で評価学実習を実施する					
学修目標 到達目標	1. 対象者やスタッフに対して責任感のある行動・態度を身につけることができる 2. 医用画像を活用し、作業療法評価に活かすことができる 3. 作業療法士として必要な評価技術を体験し、臨床実践への応用力を培うことができる					
対面授業の 進め方	実習にふさわしい服装で臨むこと。特に、ケーシーや実習靴、施設側から指示された服装とする。臨床実習に準じたマナーや社会性が求められるため医療従事者として責任感のある行動・態度に気を配ること。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信にて学内代替実習を行う。課題配信（症例の評価から治療計画の立案）の提示については、各担当教員からの連絡・指示があります。出席確認の方法は通信開始時に行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 学内指導 1						
2. 学内指導 2			評価技術を計画的に実施できるように事前準備すること			
3. 関連施設にて評価実習						
4. 関連施設にて評価実習						
5. 学内指導（FB）3						
6. 学内指導（FB）4			評価技術を計画的に実施できるように事前準備すること			
7. 関連施設にて評価実習						
8. 関連施設にて評価実習						
9. 学内指導（FB）5						
10. 学内指導（FB）6			評価技術を計画的に実施できるように事前準備すること			
11. 関連施設にて評価実習						
12. 関連施設にて評価実習						
13. 学内指導（FB）7						
14. 学内指導（FB）8			評価技術を計画的に実施できるように事前準備すること			
15. 関連施設にて評価実習						
16. 関連施設にて評価実習						
17. 学内指導（FB）9						
18. 学内指導（FB）10			評価技術を計画的に実施できるように事前準備すること			
19. OSCE への事前準備			評価技術を計画的に実施できるように事前準備すること			
20. OSCE の試験						
21. OSCE の FB						
22. プレ実習・OSCE の FB						

23. 総括及びフィードバック（評価学実習全般の総括）									
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	□定期試験	%	■その他	100 %
	基準等							関連施設でのプレ評価実習（実習評定表、出席日数、実習レポート、実習態度等）、及びOSCEの成績結果から総合的に評価する。	
教科書	著者	タイトル			出版社			発行年	
		特になし							
参考図書		適宜配布する							
履修要件等	専門基礎科目系、基礎作業療法学系、作業療法評価学系の各科目を履修済みであることが望ましい								
研究室	各実習担当教員研究室				オフィスアワー		各実習担当教員オフィスアワー参照		

科目No.	SOE03-2R		授業形態	演習	開講年次	2 年次
授業科目名	身体機能作業療法評価学		担当教員 E-Mail	嶋野 広一		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必 修	1 単位	前 期 (16h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	身体障害領域で勤務経験のある教員がその経験を生かして、身体障害の作業療法評価についての講義を行う。					
授業内容の要約	身体障害分野での主な疾患の作業療法評価を学ぶ。具体的には中枢性疾患、整形疾患等が原因の身体障害の特性を理解し、適切な評価技法(検査・測定など)を選択することができるようになる。					
学修目標 到達目標	1. 身体障害系の評価の定義と流れや目的・意義を理解し説明ができる 2. 対象者を考慮した評価を進めることができる 3. 疾患によって適切な評価技法を選択することができる					
対面授業の 進め方	講義形式で実施する。授業は復習しながら進めていきますが、各自でも復習すること。また1年次の専門基礎分野も復習しておくこと。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業ではパワーポイントを使い、対面授業での板書形式に対応します。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		60 分以上	
1. ガイダンス、作業療法と評価について<教科書 pp3～35>			復習：作業療法評価についてまとめること			
2. 動作分析(起き上がり、立ち上がり)<教科書 pp82～166>			復習：動作分析についてまとめること			
3. 脳血管障害、頭部外傷の評価①<教科書 pp274～313>			復習：脳血管障害、頭部外傷の評価①についてまとめること			
4. 脳血管障害、頭部外傷の評価②<教科書 pp274～313>			復習：脳血管障害、頭部外傷の評価②についてまとめること			
5. 脊髄損傷、末梢神経損傷の評価<教科書 pp314～348>			復習：脊髄損傷、末梢神経損傷の評価についてまとめること			
6. 関節リウマチやその類似疾患の評価<教科書 pp349～377>			復習：関節リウマチやその類似疾患の評価についてまとめること			
7. その他の神経疾患、神経・筋疾患の評価<教科書 pp378～439>			復習：その他の神経疾患、神経・筋疾患の評価についてまとめること			
定 期 試 験 (実技試験)						
15. 総括及びフィードバック (試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 30 %	■定期試験 70 %	□その他 %	
	基準等	なし	作業療法の身体障害領域のレポートを課す。	定期試験にて講義の理解度を評価する。	なし	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	岩崎テル子他	「標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第3版」		医学書院		2017
参考図書	佐竹勝 編	「ゴールド・マスター・テキスト3 作業療法評価学 改訂第2版」		メジカルビュー社		2015
	石井真一郎 (編著)	「動作分析臨床活用講座」		メジカルビュー社		2013
履修要件等	特になし。					
研究室	1 号館 2 階 第 24 研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 10:40～12:10		

科目No.	SOE04-2R		授業形態	演習	開講年次	2 年次
授業科目名	身体機能作業療法評価学演習		担当教員 E-Mail	武井 麻喜・水野 貴子・中越 雄也		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院・施設での臨床経験が 20 年以上ある教員が、その経験を活かして、検査測定技術の実習を指導する。					
授業内容の要約	身体障害作業療法の臨床現場で実践されている種々の検査のうち、徒手筋力検査法 (MMT) や、神経学的検査測定技術について学修する。					
学修目標 到達目標	1. 代表的な作業療法の検査・測定の目的・意義・実施方法などが理解できる 2. 健常者を対象に各種検査・測定が実施できる 3. 臨床実習で対象者と接する前段階において、実習生としての知識、技術、態度を修得する					
対面授業の 進め方	予習に基づく実技を中心に行う。2 年次年度末の「臨床検査・測定実習」に直結する内容なので、積極的に取り組むこと。身軽な服装 (学校指定のジャージ上下・T シャツ・タンクトップ・短パンなど) で実技に臨むこと。感染予防のために、(大学で準備する) 手袋と、(自ら持参する) アイシールド (だてメガネ) とマスクを着用すること。					
遠隔授業の 進め方						
授業計画				授業時間外に必要な学修		60 分以上
1. ガイダンス、MMT1：目的・意義・判断基準について <評価学 pp104～120>、肩甲帯 <目で見える MMT pp46～66>				予習：教科書 (評価学) pp104～120、教科書 (目で見える MMT) pp46～66 を予め読んでおくこと		
2. MMT2：肩関節 <目で見える MMT pp67～98>				予習：教科書 (目で見える MMT) pp67～98 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること		
3. MMT3：肘関節・前腕・手関節 <目で見える MMTpp99～121>				予習：教科書 (目で見える MMT) pp99～121 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること		
4. MMT4：手指・体幹・股関節 1 <目で見える MMT pp27～43、pp123～155>				予習：教科書 (目で見える MMT)、 pp27～43、pp123～155 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること		
5. MMT5：股関節 2・膝関節 1 <目で見える MMTpp157～179>				予習：教科書 (目で見える MMT) pp157～179 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること		
6. MMT6：膝関節 2・足関節・足部 <目で見える MMTpp181～199>				予習：教科書 (目で見える MMT) pp181～199 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること		
7. 片麻痺機能テスト 1：上肢 <評価学 pp283～290>				予習：教科書 (評価学) pp283～290 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること		
8. 片麻痺機能テスト 2：下肢 <評価学 pp291～292>				予習：教科書 (評価学) pp291～292 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること		

9. 片麻痺機能テスト3：手指　＜評価学 pp293～295＞・筋緊張検査 ＜ベッドサイド pp35～38＞				予習：教科書（評価学） pp293～295、教科書（ベ ッドサイド pp35～38）を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること					
10. 感覚・知覚検査　＜評価学 pp114～129、ベッドサイド pp93～ 103＞				予習：教科書（評価学） pp114～129、教科書（ベ ッドサイド） pp93～103 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること					
11. 協調性検査　＜評価学 pp160～167＞				予習：教科書（評価学） pp160～167、pp204～ 206 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること					
12. STEF　＜評価学 pp204～206＞				予習：教科書（評価学） pp204～206 を予め読ん でおくこと 復習：実技の復習をすること					
13. 反射・姿勢反射検査　＜評価学 pp130～150、ベツトサイド pp67 ～93＞				予習：教科書（評価学） pp130～150、教科書（ベ ッドサイド） pp67～93 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること					
14. 期末テストについて、総復習									
定 期 試 験 （実技試験）									
15. 総括及びフィードバック（実技試験結果の発表と解説）									
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験	100%	□その他	%
	基準等					定期試験は実技試験を実 施する。詳細な評価基準 は授業内で知らせる。			
教科書		著者	タイトル			出版社		発行年	
		岩崎テル子　他	「標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第3版」			医学書院		2017	
		田崎義昭 他編	「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」			南山堂		2017	
		佐藤三矢　監修	「新版　目で見える MMT」			医歯薬出版		2017	
参考図書		Hislop　他	「新・徒手筋力検査法 原著第10版」			協同医書出版社		2020	
		青木主税　他	「臨床で役立つ徒手筋力検査法　MMT ナビ」			ラウンドフラット		2017	
		伊藤俊一　監修	「PT・OT のための測定評価 DVD Series 3 MMT－頭部・頸部・上肢　第2版」			三輪書店		2016	
		伊藤俊一　監修	「PT・OT のための測定評価 DVD Series 4 MMT－体幹・下肢　第2版」			三輪書店		2016	
履修要件等		「解剖学」「生理学」「運動学」「作業療法評価学」を履修していることが望ましい。							
研究室		武井：1号館5階　第18研究室 水野：1号館4階　第5研究室 中越：1号館5階　第2共同研究室			オフィスアワー		武井：毎週月曜日　12：10～13：00 水野：毎週水曜日　12：10～12：50 中越：毎週火曜日　12：10～13：00		

科目No.	SOE05-2R		授業形態	演習	開講年次	2 年次
授業科目名	高次脳機能評価学		担当教員 E-Mail	水野 貴子		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	病院や施設で 20 年の臨床経験のある教員がその経験を活かして、高次脳機能障害の知識と評価技法を講義し、対象者への対応について指導する。					
授業内容の要約	脳損傷によって障害されるのは運動や感覚だけではない。記憶や言語、物や空間の認知、目的を持った行動などの高次脳機能も障害され、日常生活に大きな支障をきたす。本講義では、様々な高次脳機能障害について学習し、講義と検査実施と症例を通して、高次脳機能の評価の目的を理解し、日常生活の症状について推測できるようにする。					
学修目標 到達目標	1. 高次脳機能障害について具体的特徴をあげながら説明でき、日常生活を推測できる 2. 評価の目的を理解し、妥当性のある検査を選択できる 3. 検査を適切に実施・解釈でき、呈した日常生活の症状について説明することができる					
対面授業の 進め方	講義（講義資料を随時配布、パワーポイント使用） アクティブラーニング（机上検査の実施、映像による症例検討） 解剖学（脳）を復習しておくこと。					
遠隔授業の 進め方	講義では Microsoft office365 の Teams を使用し双方向通信の授業を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 高次脳機能障害総論（脳の構造など） （教科書 pp3-5、10-11、27-31、31-37）			復習：高次脳機能障害の病巣部位を覚える			
2. 注意障害の症状とその評価 1【TMT-J の実施】 （教科書 pp47-52、128-136）			復習：注意障害と TMT-J の実施方法を覚える			
3. 注意障害の症状とその評価 2 【かなひろいテストの実施、症例検討】			復習：かなひろいテストの実施方法を覚える			
4. 半側空間無視などの症状とその評価 1 （教科書 pp112-121）			復習：半側空間無視の症状を覚える			
5. 半側空間無視などの症状とその評価 2【BIT の実施】			復習：BIT の実施方法を覚える			
6. 半側空間無視などの症状とその評価 3【症例検討】			復習：症例を通した評価方法などを考える			
7. 記憶障害の概念と評価 1（教科書 pp56-62）			復習：記憶の概念と記憶障害を覚える			
8. 記憶障害の概念と評価 2【三宅式記銘力検査の実施】			復習：三宅式記銘力検査の実施方法を覚える			
9. 認知症の症状とその評価 1（教科書 pp155-165）			復習：認知症の症状を覚える			
10. 認知症の症状とその評価 2【HDS-R、MMSE-J の実施】			復習：HDS-R、MMSE-J の実施方法を覚える			
11. 失語症のタイプと症状（教科書 pp68-78）			復習：失語症の症状を覚える			
12. 失行の症状とその評価（教科書 pp81-90）			復習：失行の症状と評価を覚える			
13. 失認の症状とその評価（教科書 pp97-106）			復習：失認の症状と評価を覚える			
14. 脳 CT・MRI 画像の見方と外傷性脳損傷の特徴 （教科書 pp15-23）			復習：脳 CT・MRI 画像の見方と外傷性脳損傷の特徴を覚える			
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						

成績評価方法	項目	■小テスト 10%		■定期試験 90%	
	基準等	復習のための小テスト（14回）を実施し、授業の内容についての理解度を評価する。		授業の内容全般についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行
	能登真一	「標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学 第2版」		医学書院	2019
参考図書	石合純夫	「高次脳機能障害学 第3版」		医歯薬出版	2022
	藤田郁代ほか	「標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版」		医学書院	2021
	本田哲三	「高次脳機能障害のリハビリテーションー実践的アプローチ第3版」		医学書院	2016
	渕雅子	「作業療法学全書 第8巻 高次脳機能障害 改訂第3版」		協同医書出版	2011
履修要件等	「形態・機能学解剖領域Ⅰ・Ⅱ」が履修済であることが望ましい。				
研究室	1号館4階 第5研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12:10～12:50	

科目No.	SOE06-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	精神機能作業療法評価学			担当教員 E-Mail	白岩 圭悟	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必 修	1 単位	前 期 (16h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	医療機関での 14 年の臨床勤務経験のある教員がその経験を活かして、精神障害者を支援するために必要な評価方法について、実践的な視点を中心に指導する。					
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「対象者の心理的、社会的背景にも配慮ができ、課題の発見・解決に向けて、不断の努力ができる」を達成するための科目である。対象者を総合的に評価するための知識を習得する。また、医療従事者として望ましい態度を習得する。精神障害を持つ対象者を支援するために必要な評価法の基礎的知識について習得する。					
学修目標 到達目標	1. 精神障害領域の作業療法について概論を理解できる 2. 精神障害領域における評価の目的と意義について説明できる 3. 精神障害領域における評価法の種類と適用について説明しできる 4. 精神障害領域における評価結果を適切に記録することができる					
対面授業の 進め方	教科書および資料を用いて、精神障害領域における評価について学習する。学習のする上で、意見交換の場を設定し、アクティブラーニングを行う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 精神障害作業療法の治療・援助構造と治療機序 1 (教科書①p85～p121)				復習：講義で配布した資料を再度復習し,ポイントを整理しノートにまとめておくこと		
2. 精神障害作業療法の治療・援助構造と治療機序 2 (教科書①p122～p154)				復習：講義で配布した資料を再度復習し,ポイントを整理しノートにまとめておくこと		
3. 精神障害領域における情報収集 (教科書①p156～172)				予習：教科書①p156～172 を読んでおく		
4. 精神障害領域における観察評価 (教科書①p374～p383)				予習：教科書①p374～p383 を熟読しておく		
5. 精神障害領域における面接評価 (教科書①p173～186、p374～p383)				予習：教科書①p173～186 を読んでおく		
6. 精神障害領域における検査測定① (精神症状評価尺度) 精神障害領域における検査測定② (社会機能評価尺度)				復習：配布された資料をもとに知識整理を行う 教科書②p1707 を読んでおく		
7. 精神障害領域における検査測定① (機能評価尺度、心理検査尺度)				復習：配布された資料をもとに知識整理を行う		
定 期 試 験						
8. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)				これまでの全範囲を復習しておく		
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 20 %	■定期試験 70 %		■その他 10 %
	基準等		授業期間中に課し、 授業期間終了に提出	授業 (資料含む)・演習 を行った範囲から出題		授業に臨む姿勢、積極性 などを総合的に判断する
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	山根寛	「精神障害と作業療法 新版」		三輪書店		2017
参考図書	能登真一 ほか	「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版」		医学書院		2017
履修要件等	作業療法概論 (1 年次前期科目) を履修していることが望ましい。					
研究室	1 号館 5 階 第 2 共同研究室			オフィスアワー	毎週火曜日 12 : 10～13 : 00	

科目No.	SOE07-2R		授業形態	実習	開講年次	2 年次
授業科目名	精神機能 作業療法評価学実習		担当教員 E-Mail	白岩 圭悟		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必 修	1 単位	後 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	医療機関での 11 年の臨床勤務経験のある教員がその経験を活かして、精神障害者を支援するために必要な評価方法について、実践的な視点を中心に指導する。					
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「対象者の心理的、社会的背景にも配慮ができ、課題の発見・解決に向けて、不断の努力ができる」を達成するための科目である。対象者を総合的に評価するための知識及び技能を習得する。また、医療従事者として望ましい態度を習得する。					
学修目標 到達目標	1. 精神障害者を対象とした作業療法評価の基本的なプロセスを理解し、説明することができる 2. 対象となる人や疾患と障害、及び環境や目的に応じて適切な評価方法を選択できる 3. 評価した結果について、第三者に適切に説明することができる 4. 自己を客観的に理解し、医療従事者として望ましい態度をとることができる					
対面授業の 進め方	教科書および配布資料を用いて講義および実習を行う。実習では検査者および被験者を体験し、意見交換することで自己を客観的に知る機会とする。また小グループで、症例を用いたアクティブラーニングを行い、適切な評価方法・手段の選択や実施、評価結果を統合・解釈できる能力を養う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 精神科医療保健福祉領域の現状、作業療法の治療構造			予習:精神機能作業療法評価学の復習をしておく			
2. 作業療法評価項目、情報収集、評価結果の記録（実習を含む） ※記録に関するレポート作成			予習：教科書①p166-173,②p3-10 を読む			
3. 観察（実習を含む） ※観察結果のレポート作成			予習：教科書①p187-195,②p478-482 を読む			
4. 作業面接（実習を含む） ※作業面接結果のレポート作成			予習：教科書①p179-186,②p481-482 を読む			
5. 面接（実技を含む）、「箱づくり法」概説			予習：教科書①p173-179,②p482-485 を読む			
6. 「箱づくり法」実習 ※箱づくり法のレポート作成			予習：教科書①p179-186,②p496 を読む			
7. 検査・測定①（精神症状評価尺度：BPRS,PANSS,HAM-D など） （実習を含む）			予習：教科書②p486-497 を読む			
8. 検査・測定②（生活機能評価尺度：LASMI,Rehab,GAF など）（実習を含む）			同上			
9. 検査・測定③（作業検査:UBOM など,パーソナリティ検査:Rorschach test など）（実習を含む）			同上			
10. 検査・測定④（神経認知機能評価:BACS）（実習を含む） ※BACS 評価体験のレポート作成			予習：教科書②p489-490 を読む			
11. 集団の評価（実習を含む） ※集団評価結果のレポート作成			予習：教科書①p122-138,②p498-513 を読む			
12. 臨床における評価の実際、事例の探索的評価（実習を含む） ※探索的評価のレポート作成			予習：教科書②p509-518 を読んでおく			
13. 事例の分析的評価（実習を含む） ※分析的評価のレポート作成			同上			
14. 精神科領域における認知症に関する評価 ※事例のレポート作成			予習：教科書②p603-629 を読んでおく			
定 期 試 験 （ 期 末 レ ポ ー ト ）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						

成績評価方法	項目	□課題・小テスト	30 %	■レポート	30 %	■定期試験	60 %	■その他	10 %
	基準等			授業内で示されるレポート課題の内容を評価する		授業内容の範囲で出題する		授業に臨む姿勢、積極性などを総合的に判断する	
教科書		著者	タイトル				出版社	発行年	
		山根 寛	「精神障害と作業療法 新版」				三輪書店	2017	
		能登 真一ほか	「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版」				医学書院	2017	
参考図書		富岡詔子ほか	「作業療法学全書 改訂第3版第5巻 作業治療学2 精神障害」				協同医書出版社	2010	
履修要件等		精神機能作業療法評価学（2年次前期科目）を履修していることが望ましい							
研究室		1号館5階 第2共同研究室			オフィスアワー	毎週火曜日 12：10～13：00			

科目No.	SOT04-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	生活環境・行為学		担当教員 E-Mail	岸村 厚志 / 作業療法学専攻教員		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必 修	1 単位	前 期 (16h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を生かして生活環境や生活行為に関する基本的知識と手法について講義する					
授業内容の要約	リハビリテーションは人間の障害構造を心身機能と構造, 活動, 社会活動の階層で分け, それぞれの健康を維持する技術を概念的に有している。本講義では生活を構成している動作, 行為の分析について知識・体験を通して学び、生活行為がイメージできることを目標とする。					
学修目標 到達目標	1. 動作、活動、行為の概念を理解し、生活の概念を説明することができる 2. ADL・APDL の概念を理解し、説明することができる 3. 生活行為に関する医学用語を理解し、文章の中で用いることができる					
対面授業の 進め方	講義, 演習, 課題により、生活についての理解を進めていく 個々の生活を構成している要素を体験させ、想像・考えることができるように進める					
遠隔授業の 進め方	Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。課題配信の有無については、各担当教員からの連絡があります。出席確認の方法は授業開始時行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 生活環境・行為学とは (生活サイクル)			【田崎】	教科書を読了しておく		
2. 生活行為の基礎生活行為向上に必要な機能及び環境			【武井】	前回授業内容の理解を深めておく		
3. 生活行為に関する用具 (自助具製作)			【嶋野】	前回授業内容の理解を深めておく		
4. ADL を構成する要素 (1)			【白岩】	前回授業内容の理解を深めておく		
5. ADL を構成する要素 (2)			【白岩】	前回授業内容の理解を深めておく		
6. ADL、APDL の評価の流れと支援の実際(1)			【岸村】	前回授業内容の理解を深めておく		
7. ADL、APDL の評価の流れと支援の実際(2)			【岸村】	前回授業内容の理解を深めておく		
定 期 試 験			期末試験勉強			
8. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)			【岸村】			
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	■レポート 10%	■定期試験 70%	■その他 10%	
	基準等	適宜、課題提出を指示する	その都度、担当教員から課題の内容、提出期限等を指示する	授業内容全般の理解度を評価する	授業態度 授業への積極性や理解度等を総合的に判断する	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	濱口豊太	「日常生活活動・社会生活行為学」		医学書院		2014
参考図書	講義内で担当教員から適宜紹介する					
履修要件等	教科書・資料を必ず持参すること					
研究室	各講義の担当教員		オフィスアワー	授業終了後、随時、質問を受け付ける		

科目No.	SOT05-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	生活環境・行為分析学		担当教員 E-Mail	岸村 厚志		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必 修	1 単位	後 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を生かして生活環境や行為の分析に必要な知識と手法について講義する					
授業内容の要約	様々な動作・行為から成り立つ日常生活自立にむけた支援策を理解する。また、動作制限がある場合その原因を探り、可能性のある機能障害を推論し、特定するための知識手法を身につける。					
学修目標 到達目標	1. 行為の概念を理解し構成要素を抽出することができる 2. 行為を分析するなかで心身機能との関連をみつけだすことができる 3. 生活行為の視点で・テクニカルエイドの選び方使い方ができる 4. 住宅の状況や用具の使用といった環境因子の影響を予測することができる					
対面授業の 進め方	講義、演習、グループワーク課題 等により、座学と実技の双方により理解を深める。					
遠隔授業の 進め方	Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。課題配信の有無については、各担当教員からの連絡があります。出席確認の方法は授業開始時行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 生活行為のみかた①ADL 基礎 作業療法の本質 生活行為動作シークエンス 構成要素 p 4-28			予習として授業計画に記載している教科書の次回予定頁の読了を求めます			
2. " ②ADL の評価 p 29-47			教科書の読了 /構成要素のプリント課題			
3. " ③ADL の治療理論 p 48-61			予習として授業計画に記載している教科書の次回予定頁の読了を求めます。 毎時間小テストを実施するので、前回授業範囲の復習をしておくこと。			
4. 基本的日常生活動作の構成要素①起居動作 p 62-82						
5. " ②食事動作 p 83～103						
6. " ③整容動作 p 104-120						
7. " ④更衣動作 p 121-138						
8. " ⑤排泄動作 p 139-157						
9. " ⑥入浴動作 p 158-170						
10. " ⑦睡眠・栄養・炊事 p 171-194						
11. " ⑧掃除・買い物・経済管理 p 195-227						
12. 生活を援助する工夫			ADL 室にて自助具を調べておく			
13. 福祉用具の種類と使い方 p 292～300			学内トイレを参考に改修の工夫を考えておく			
14. 生活環境の概念と改修の考え方 p 301～306			期末試験勉強			
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30% ■レポート 20%		■定期試験 50%		■その他 %
	基準等	前回講義分の小テストか課題を実施する。各10点配点で30%分に案分する。		第14回に住環境に関するレポートを課す		筆記試験
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	濱口豊太	「日常生活活動・社会生活行為学」			医学書院	2014

参考図書	編集委員会	テクニカルエイド生活視点で役立つ選び方使い方	三輪書店	2014
		他 授業内で配布した参考資料		
履修要件等	生活環境・行為学が履修済であることが望ましい			
研究室	1号館1階 作業療法学専攻長室	オフィスアワー	毎週月曜日 16:20～17:00	

科目No.	SOT09-2R		授業形態	演習	開講年次	2 年次
授業科目名	高齢期作業療法学		担当教員 E-Mail	嶋野 広一		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	介護老人保健施設に勤務した担当教員が高齢者との関りを通して、実際の臨床場面での経験を踏まえながら講義を進めます。					
授業内容の要約	高齢者に作業療法が援助できることは多い。健康な人はなるべく健康状態を保ち、障害を抱えた人は障害の影響を抑えて、意義ある人生を送れることが高齢期のあるべき姿である。この講義では障害をもった高齢者のみではなく、健康高齢者にも焦点をあてる。					
学修目標 到達目標	1. 高齢期の特徴について具体的に述べることができる。 2. 高齢者について理解し、アプローチする手段を述べることができる。					
対面授業の 進め方	高齢者について少しでも理解してもらいたい。教科書に記載されている具体例を参考に臨床場面での実例を交えながら講義を進めていきます。 板書を使った授業を行います。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業ではパワーポイントを使い、対面授業での板書形式に対応します。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 高齢社会と高齢期の課題(「高齢期作業療法学」 PP 8～28)			復習：高齢化についてまとめる			
2. 高齢者を取り巻く社会制度と作業療法(「高齢期作業療法学」 PP29～38)			復習：社会制度についてまとめる			
3. 高齢期の特徴と疾患(「高齢期作業療法学」 PP39～63)			復習：高齢期の疾患についてまとめる			
4. 認知症(「高齢期作業療法学」 PP64～75)			復習：認知症についてまとめる			
5. 高齢期の作業療法評価①(「作業療法評価学」 PP602～629)			復習：高齢期の作業療法評価についてまとめる			
6. 高齢期の作業療法評価②(「高齢期作業療法学」 PP81～94)			復習：高齢期の作業療法評価についてまとめる			
7. 高齢期の作業療法の援助の違い(病期や場所の違い)(「高齢期作業療法学」 PP95～116)			復習：高齢期の作業療法の援助の違いについてまとめる			
8. 一般高齢者や介護予防の作業療法(「高齢期作業療法学」 PP117～129)			復習：介護予防についてまとめる			
9. 認知症高齢者の作業療法(「高齢期作業療法学」 PP130～147)			復習：認知症についてまとめる			
10. 高齢期作業療法の実践①(健康高齢者・要支援高齢者)(「高齢期作業療法学」 PP150～161)			復習：健康高齢者・要支援高齢者へのアプローチについてまとめる			
11. 高齢期作業療法の実践②(要介護者)(「高齢期作業療法学」 PP162～176)			復習：要介護者へのアプローチについてまとめる			
12. 高齢期の作業療法の実践③(軽度認知症者)(「高齢期の作業療法」 PP177～185)			復習：軽度認知症者へのアプローチについてまとめる			
13. 高齢期の作業療法の実践④(中等度・重度認知症者)(「高齢期の作業療法」 PP186～207)			復習：中等度・重度認知症者へのアプローチについてまとめる			
14. 高齢期の作業療法の実践④(終末期)(「高齢期の作業療法」 PP208～214)			復習：終末期へのアプローチについてまとめる			
14 . 授業のまとめと定期試験のポイント説明			復習：前期試験対策			
定 期 試 験 (期 末 レ ポ ー ト)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)						

成績評価方法	項目	□課題・小テスト %		■レポート 30%		■定期試験 70%		□その他 %	
	基準等			高齢者についてのレポートを課す。		授業内容全般の理解度を定期試験にて評価する			
教科書		著者		タイトル			出版社		発行年
		松房利憲 他		「高齢期作業療法学」第3版			医学書院		2016
		能登真一 他		「作業療法評価学」第3版			医学書院		2017
参考図書		特に指定しない							
履修要件等									
研究室		1号館2階 第24 研究室				オフィスアワー		毎週火曜日 10：40～12：10	

科目No.	SOT11-2R		授業形態	演習	開講年次	2 年次
授業科目名	発達過程作業療法学		担当教員 E-Mail	中村 愛子		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	療育施設で臨床経験がある教員が、実践してきた内容を講義内容に取り入れながら学生がイメージできるように講義を行う。					
授業内容の要約	発達過程に障害のある子どもたちの疾病についての知識を深めるとともに、作業療法プログラムの立案に必要な評価計画及び治療の立案ができることを目的とする。					
学修目標 到達目標	1. 発達障害の子どもたちの関わりに必要な基礎的知識を学習する 2. 疾病の特徴を学ぶとともに必要な評価方法を学習する 3. 評価結果から問題点を抽出しプログラム立案をすることができる					
対面授業の 進め方	講義を中心に進める。理解を深めるために適宜、ディスカッションを行ったり、視聴覚教材を用いる。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teams を使用した授業の LIVE 配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 小児の作業療法過程について、情報収集の意味			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
2. 胎児期、乳児期前半の発達について			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
3 乳児期後半の発達について			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
4. 日常生活の発達について①（食事、更衣）			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
5. 日常生活の発達について②（遊び、排泄）			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
6. 小児の作業療法過程で使用される評価バッテリー			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
7. 脳性麻痺の評価と治療について（概論）			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
8. 脳性麻痺の評価と治療について（痙直型両麻痺）			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
9. 脳性麻痺の評価と治療について（痙直型四肢麻痺）			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
10. 脳性麻痺の評価と治療について（痙直型片麻痺）			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
11. 脳性麻痺の評価と治療について（アテトーゼ）			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
12. 知的障害の作業療法評価と治療について①			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
13. 知的障害の作業療法評価と治療について②			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
14. 発達障害の作業療法評価について（自閉スペクトラム症、LD、ADHD）			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100%	□その他 %	
	基準等			成績は定期試験のみで評価する。		
教科書	著者		タイトル		出版社	発行年
	上杉 雅之（監修） 辛島千恵子（編集）		「イラストでわかる発達障害の作業療法」		医歯薬出版	2016
参考図書	楠本泰士（編集） 友利幸之介（編集協力）		小児リハ評価ガイド		MEDICAL VIEW	2019

履修要件等			
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける

科目No.	SCP02-2R		授業形態	演習	開講年次	2 年次
授業科目名	臨床ゼミⅡ（OT）		担当教員 E-Mail	田崎 史江		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	臨床実習		必 修	1 単位	前 期（30h）
教員の実務経験と授業内容の関連	10 年以上作業療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かして臨症的な作業療法評価に必要な知識と手法について講義・指導する。					
授業内容の要約	作業療法の流れを知り、対象者に適した評価計画を立て、検査・測定の実践をしながら学ぶ。また、臨床見学実習で得られた自己課題の解決策を考える。					
学修目標 到達目標	1. 検査・測定方法の実践を学ぶ 2. 自己課題を解決するための方法論を見つける 3. 作業療法評価学実習（プレ実習）に向けた準備ができる					
対面授業の 進め方	講義と演習（検査・測定の実施、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど）を行う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し双方向通信の授業を行う。遠隔授業を行う場合は予め授業内で通知する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. オリエンテーション			臨床見学実習の振り返り、自己課題の整理			
2. クラス活動（仮 体育祭の準備、話し合い）			学生間での話し合い調整			
3. クラス活動（仮 体育祭を通じた学生間連携・チームワーク）			学生間での話し合い調整			
4. 今年度実習について ガイダンス			実習の手引き予習			
5、作業療法の流れについて（今年度実習に向けての流れの理解）						
6. 1 年次の実技の復習 検査・測定（脈拍・血圧測定等）			実技の復習、教科書「作業療法評価学」持参			
7. 1 年次の実技の復習 検査・測定（ROM 等）			実技の復習、教科書「作業療法評価学」持参			
8. 観察の仕方、練習						
9. 面接の仕方、練習						
10. 評価計画の考え方						
11. 評価計画の実践（身障）			課題の提出			
12. 評価計画の実践（精神）			課題の提出			
13. 作業療法評価学実習（プレ実習）のガイダンス 1			プレ実習の手引きを熟読しておく			
14. 作業療法評価学実習（プレ実習）のガイダンス 2			プレ実習の手引きを熟読しておく			
15. 総括						
成績評価方法	項目	□ 試験 0%	■ 課題・レポート 60%	□ 定期試験 %	■ その他 40%	
	基準等		課題の実施状況、提出期限厳守		授業への参加 臨む姿勢・態度・積極性、出欠・遅刻状況	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	授業計画の内容により「作業療法評価学」の教科書を使用する。					
参考図書	臨床実習の手引き 第 5 版、作業療法学専攻 臨床実習の手引き 2 年次版（別冊子）					
	授業内配布資料（プレ実習の手引きなど）					
履修要件等	「臨床実習指導Ⅰ」の履修済みであること					
研究室	1 号館 5 階 第 2 共同研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:00～13:00		

科目No.	SCP04-2R		授業形態	演習	開講年次	2 年次			
授業科目名	臨床実習指導Ⅱ（OT）		担当教員 E-Mail	田崎 史江・中越 雄也					
基本項目	専 攻	科 目 区 分		履修期間		履修期間			
	作業療法学	臨床実習		必 修	1 単位	後 期（30h）			
教員の実務経験と 授業内容の関連	10 年以上作業療法士として臨床経験のある教員が、その経験を生かして臨床的な作業療法評価に必要な知識と手法について講義・指導する								
授業内容の要約	生活行為を中心とした評価の実践手順を経験し、課題を抽出するまでを学ぶ。作業療法での具体的なリスク管理に関する情報の収集や方法を学ぶ。								
学修目標 到達目標	1. 生活行為を中心とした評価及び、課題抽出の重要性を理解できる 2. リスク管理が適切に行える 3. 臨床検査・測定実習に向けた準備ができる								
対面授業の 進め方	講義と演習（症例検討、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど）を行う。								
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し双方向通信の授業を行う。遠隔授業を行う場合は予め授業内で通知する。								
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上			
1. オリエンテーション									
2. 評価計画の書き方 1				配布資料等を予め熟読しておく					
3. 評価計画の書き方 2				復習					
4. SOAP とプロセスレコードの書き方 1				配布資料等を予め熟読しておく					
5. SOAP とプロセスレコードの書き方 2				復習					
6. レジユメの書き方 1				配布資料等を予め熟読しておく					
7. レジユメの書き方 2				復習					
8. レジユメの書き方 3				復習					
9. OSCE ガイダンス 1				配布資料等を予め熟読しておく					
10. OSCE ガイダンス 2				復習					
11. 臨床検査・測定実習前準備（社会人としての心得、個人情報の取り扱い、施設規定の順守 対象者への接し方等）				臨床実習の手引きを予め熟読しておく					
12. 臨床検査・測定実習前準備（書類の作成方法、緊急時の対応、実習施設発表等）				臨床実習の手引きを予め熟読しておく					
13. 人体解剖学実習見学に関するオリエンテーション				配布資料等を予め熟読しておく					
14. 人体解剖学実習見学の実施				復習					
15. 臨床検査・測定実習前準備（壮行会、関係書類の作成）				臨床実習の手引きを予め熟読しておく					
成績評価方法	項目	□ 小テスト	%	■ 課題・レポート	60%	□ 定期試験	%	■ その他	40%
	基準等	課題の実施状況 レポート書類等の提出期限 厳守					授業への参加 臨む姿勢・態度・積極性		
教科書		著者	タイトル			出版社		発行年	
		臨床実習の手引き 第 5 版、作業療法学専攻 臨床実習の手引き 2 年次版（別冊子）							
参考図書		授業内配布資料（プレ実習の手引きなど）							
履修要件等		「臨床ゼミⅡ」が履修済みであること							

研究室	1号館5階 第2共同研究室	オフィスアワー	田崎：毎週火曜日 12：00～13：00 中越：毎週火曜日 12：10～13：00
-----	---------------	---------	--

科目No.	SCP07-2R		授業形態	実習	開講年次	2 年次
授業科目名	臨床検査・測定実習（OT）		担当教員 E-Mail	岸村 厚志 / 作業療法学専攻教員		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	臨床実習		必 修	3 単位	後 期 (135h) 3 週間
教員の実務経験と 授業内容の関連	臨床現場の実務経験を基に、学生が担当ケースに適切な作業療法の評価技術（検査・測定）が実践 模倣されているかを臨床教育実習訪問指導にて臨床実習指導者とともに状況を把握し確認・指導す る。また、学生が診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で、複数の症 例に対し、臨床評価模倣の経験を通じて学ぶ診療参加型実習についても説明・指導する。					
授業内容の要約	・身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から 1 分野の施設にて実習を実施す る。 ・臨床の場で対象者（児）の評価法を修得し、作業療法士としての基本的な態度を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 作業療法及び作業療法士の機能と役割を理解することができる 2. 臨床場面で、対象者（児）の評価を指導者のもとで実施し、収集した情報をもとに統合と解釈 し、問題点を抽出するまでとし、それらの過程上で理論と技術の修得と理解を深めることがで きる 3. 専門職としての認識を高めることができる					
対面授業の 進め方	・実習にふさわしい服装で臨むこと ・一般社会常識、マナー、そして社会性が求められるため医療従事者として責任感のある行動・態度 に配慮すること ・連絡・相談・報告や自己管理に十分注意を払うこと					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信にて学内代替実習を行う。課題配信（症例の評 価から治療計画と治療プログラムの立案）の提示については、各担当教員からの連絡・指示がありま す。出席確認の方法は通信開始時に行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で 担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		60 分以上
・身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から 1 分野 の施設で 3 週間の臨床実習を実施する。 ・対象者（児）の評価（情報収集、面接、観察、検査測定調査）を実施する ・収集した情報を基に問題点を抽出する（治療計画の立案は含まない）				評価知識を修め、検査測定に関する技術 を繰り返し実技練習しておくこと		
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	□定期試験 %
	基準 等					■その他 100 % ① CBT10% ② 実習前実技試験 10% ③ 実習前試験（面談）10% ④ 実習中間評価 20% ⑤ 総括的評価実習評定表 20% ⑥ 症例報告会 20% ⑦ その他 10%
教科書	作業療法学専攻 臨床実習の手引き 第 5 版、臨床実習の手引き 2 年次版（別冊子） 第 5 版					
参考図書		必要に応じて紹介する				
履修要件等	実習要件 2) を満たしていること					
研究室	各実習担当教員研究室			オフィスアワー	各実習担当教員 オフィスアワー参照	

科目No.	FCM05-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	耳鼻咽喉科学		担当教員 E-Mail	【耳鼻】 山下 大介 【咽喉】 森 一功		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学		必 修	1 単位	後 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	病院にて耳鼻咽喉科の診療を行っている教員が、言語聴覚士として必要な知識の講義を行う。					
授業内容の要約	【耳鼻】 言語聴覚士として、耳鼻科医とチーム医療を行う上で基礎となる専門科目である。 【咽喉】 口腔咽頭の解剖生理、および嚥下（誤嚥）について、その診断と治療を解説する。					
学修目標 到達目標	【耳鼻】 1.) 耳科学の解剖・生理・疾患全般について知識を習得する。 2.) 鼻科学の解剖・生理・疾患全般について知識を習得する。 【咽喉】 1.) 口腔咽頭の解剖生理、嚥下のメカニズムを説明できる 2.) その個々の疾患の病態、検査、診断、治療を述べることができる					
対面授業の 進め方	【耳鼻】 パワーポイントを用いた講義をおこなう。 【咽喉】 パワーポイントによるスライド授業をおこなう。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teams を使用した授業の LIVE 配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 耳科学 総論：解剖・生理			左記授業後、内容について復習すること。			
2. 耳科学 各論 (1) 外耳・中耳疾患						
3. 耳科学 各論 (2) 内耳疾患						
4. 補聴器・人工内耳・遺伝性難聴						
5. 耳鼻科領域の在宅医療・嚥下障害						
6. 鼻科学 総論：解剖・生理						
7. 鼻科学 各論 鼻副鼻腔疾患						
8. 口腔咽頭科学 総論 解剖・生理			講義の配付資料を今一度、読み直すこと。			
9. 口腔咽頭科学 各論 (1) 咽頭・良性疾患			(同上)			
10. 口腔咽頭科学 各論 (2) 口腔・良性疾患			(同上)			
11. 口腔咽頭科学 各論 (3) 咽頭・悪性疾患			(同上)			
12. 口腔咽頭科学 各論 (4) 口腔・悪性疾患			(同上)			
13. 口腔咽頭科学 各論 (5) 唾液腺疾患			(同上)			
14. 口腔咽頭科学 各論 (6) 嚥下			(同上)			
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100%	□その他 %	
	基準等			【耳鼻】 授業の内容全般についての理解度を評価する 【咽喉】 授業の内容についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	特に指定しない					
参考図書	鳥山稔、田内光	言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学 第 2 版			医学書院	2007

履修要件等			
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。

科目No.	FCM06-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	臨床歯科学		担当教員 E-Mail	高阪 貴之		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学		必 修	1 単位	後 期 (16h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	歯学部附属病院での臨床経験のある教員が、その経験を生かして、歯・歯周組織の構造と機能、歯科疾患と治療法、および口腔ケアの方法について講義する。					
授業内容の要約	歯および口腔の機能を正常に保持することは、全身の健康維持にかかせない。本講義では、歯および歯周組織の構造、機能、口腔ケアについてのみならず、口腔と全身との関連性について学習する。					
学修目標 到達目標	1. 歯および歯周組織について説明することができる 2. 歯および歯周組織と全身との関連性を説明することができる 3. 適切な口腔ケアの実施ができる					
対面授業の 進め方	まず、歯・歯周組織の解剖学的特性および機能を学んでもらう。 それを踏まえた上で、歯・歯周組織の疾患、その管理の仕方や治療法を理解してもらう。 口腔ケアに関しては、具体的手法についても言及する。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teams を使用した授業の LIVE 配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 歯科医学の歴史と重要性 (教科書 pp2～6)			教科書を読んで予習・復習すること			
2. 歯・歯周組織の発生 (教科書 pp32～33)			教科書を読んで予習・復習すること			
3. 歯・歯周組織の構造 (教科書 pp13～18)			教科書を読んで予習・復習すること			
4. 歯・歯周組織の機能 (教科書 pp13～18)			教科書を読んで予習・復習すること			
5. 歯・歯周組織の疾患 (教科書 pp36～62)			教科書を読んで予習・復習すること			
6. 歯・歯周組織の治療 (教科書 pp36～62)			教科書を読んで予習・復習すること			
7. 口腔ケアに関する予防 (教科書 pp239～247)			教科書を読んで予習・復習すること			
8. 口腔ケアに関する疾患の治療 (教科書 pp239～247)			教科書を読んで予習・復習すること			
定 期 試 験 (期 末 レ ポ ー ト)						
9. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100%	□その他 %	
	基準等			定期試験のみで成績を評価します。		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	夏目 長門	「言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科医学・口腔外科」		医学書院		2012
参考図書	特に指定しない					
履修要件等						
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FCM07-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次			
授業科目名	口腔外科学		担当教員 E-Mail	小谷 泰子 ・ 伏田 朱里					
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間			
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学		必 修	1 単位	後 期 (16h)			
教員の実務経験と授業内容の関連	歯学部附属病院での臨床経験のある教員が、その経験を生かして、咀嚼・嚥下を中心とする口腔機能の正常と異常について解説し、加齢や口腔中咽頭癌、脳血管障害、口唇口蓋裂などによって生じる機能障害とその評価法について講義する。								
授業内容の要約	本講義では、咀嚼・嚥下を中心とする口腔機能の正常と異常について解説し、加齢や口腔中咽頭癌、脳血管障害、口唇口蓋裂などによって生じる機能障害とその評価法、言語聴覚士の参画が期待される摂食・嚥下リハビリテーションの現状と将来的な展望について示す。特にその中で、歯科・口腔外科領域と言語聴覚士の連携について詳説する。								
学修目標 到達目標	1. 正常な咀嚼・嚥下運動のメカニズムと健康における意義について理解する 2. 口腔中咽頭癌における嚥下障害の病態・治療法について理解する 3. 摂食・嚥下リハビリテーションにおける歯科医師と言語聴覚士との連携について理解する								
対面授業の 進め方	講義形式を中心とし、症例を教材にした討論を加える。 受講者は積極的に討論に参加し、詳細なノートを作成すること。								
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teams を使用した授業の LIVE 配信を行う。								
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上			
伏田 朱里 担当分									
1. 咀嚼機能のメカニズムと脳・全身への影響			左記授業後、復習する。						
2. 咀嚼・嚥下における舌のはたらき									
3. 嚥下障害① 口腔癌による咀嚼・嚥下障害									
4. 嚥下障害② 言語聴覚士と歯科医師の連携									
小谷 泰子 担当分									
5. 口蓋裂と鼻咽腔閉鎖不全			左記授業後、復習する。						
6. 嚥下障害③ 在宅症例での取り組み、チームアプローチについて									
7. 嚥下障害④ 嚥下内視鏡とは									
8. 口腔機能の障害（ドライマウス・睡眠時無呼吸など）									
定 期 試 験 （ 期 末 レ ポ ー ト ）									
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	15%	■定期試験	80%	■その他	5%
	基準等			提出物で評価する。		定期試験にて、授業の理解度を評価する。		授業への参加度で評価する。	
教科書	著者	タイトル				出版社		発行年	
	道健一	「言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学 第 2 版 器質性構音障害」				医歯薬出版		2016	
	溝尻源太 熊倉勇美	「口腔・中咽頭がんのリハビリテーション 構音障害、摂食・嚥下障害」				医歯薬出版		2000	
参考図書	前田芳信 阪井丘芳	「摂食・嚥下機能改善と装置の作り方 超入門」				クインテッセンス 出版		2019	
履修要件等									
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室			オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。				

科目No.	FPS02-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	生涯発達心理学		担当教員 E-Mail	伊藤 一美		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	心理学		必 修	2 単位	前 期 (46h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	小児を対象とする保健センター・発達支援施設・医療機関にて勤務経験のある教員が生涯を通じた発達について講義する。					
授業内容の要約	乳幼児期から老年期まで周りの世界とかかわりながら人がいかに育つか、一生涯の発達を講義する。					
学修目標 到達目標	1. 乳幼児期から老年期まで、認知・言語・社会性・パーソナリティの生涯発達過程を理解する。 2. 生涯発達心理学の知識を、言語聴覚療法の臨床場面での援助に活用する視点や方法を知る。					
対面授業の 進め方	今年度は大学の都合で、対面授業は実施しない。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業では Teams を使用し、対面授業同様、①ワーク、②講義を基本とし、アクティブラーニングの手法を取り入れた講義を行う。各講義終了時に振り返りの時間を設定し、課題の提出を求める。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 乳児期① 世界を知りはじめる 1 章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
2. 乳児期② 人との関係のはじまり 2 章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
3. 幼児期① 今、ここの世界からイメージとことばの世界へ 3 章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
4. 幼児期② 自己の育ちと他者の関係 4 章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
5. 児童期① 思考の深まり 5 章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
6. 児童期② 集団の中で育まれる社会性 6 章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
7. 青年期① 自分らしさへの気づき 7 章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
8. 青年期② 他者を通して自分を見る 8 章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
9. 成人期 関係の中でのとまどいと成熟 9 章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
10. 老年期 人生の振り返り 10 章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
11. 乳幼児期の発達課題(グループワーク) 1・2 章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
12. 幼児期の発達課題(グループワーク) 3・4 章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
13. 児童期の発達課題(グループワーク) 5・6 章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
14. 青年期の発達課題(グループワーク) 7・8 章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
15. 成人期の発達課題(グループワーク) 9 章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
16. 老年期の発達課題(グループワーク) 10 章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
17. 文化と発達① 11 章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
18. 文化と発達② 11 章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
19. 教育と発達① 12 章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
20. 教育と発達② 12 章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
21. さまざまな発達理論 教科書全章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
22. 生涯発達の視点 教科書全章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
定 期 試 験 (期 末 レ ポ ー ト)						
23. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)			講義内容の復習			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト 10%	□レポート 0%	■定期試験 90%	□その他 0%	
	基準等	各講義終了時の課題を評価に含む。		教科書と配布資料から出題する。		

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	藤村宣之(編著)	いちばんはじめて読む心理学の本 3 発達心理学 第2版	ミネルヴァ書房	2019
参考図書				
履修要件等	「心理学」が履修済みであることが望ましい。			
研究室		オフィスアワー	質問等はメールにて受け付ける。	

科目No.	FSL02-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	言語学		担当教員 E-Mail	児島 その		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	音声言語聴覚医学		必 修	2 単位	前 期 (60h)
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	言語聴覚療法の実践に必要な「言語」について、基礎知識を概説し、国家試験対策を行う。また、臨床につながる言語病理について、言語の機能と関連づけて概説する。					
学修目標 到達目標	1. 言語学の基礎知識を習得し、国家試験の頻出問題を解くことができる。 2. 言語の機能的側面と言語病理を関連づけて考えることができる。					
対面授業の 進め方	身近にある言語事象を例示し、臨床との関連性に着目しながら講義を行う。随時、言語資料の収集やまとめ、ディスカッション、発表などの演習形式を取り入れながら、学生が主体的に学べるよう工夫する。章末では関連する国家試験問題について取り上げ、問題の形式や内容に早期から慣れておけるようにする。					
遠隔授業の 進め方	対面授業を原則とするが、必要に応じ teams を用いて授業の LIVE 配信による遠隔授業を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			60 分以上
1. 言語学とは(言語学の対象と研究の諸分野)			復習：授業中に行った過去問の振り返り			
2. 共時論と通辞論(言語の分類と言語変種 他)			復習：授業中に行った過去問の振り返り			
3. 言語の運用的側面(語用と発話行為理論 比喩表現 他)			復習：プリント課題			
4. 言語構成の枠組み(連辞と範列)			復習：授業中に行った過去問の振り返り			
5. 言語体系(記号としての言語と習得仮説)			復習：授業中に行った過去問の振り返り			
6. 言語の構造と機能①(言語中枢と処理システム メタ言語)			復習：プリント課題			
7. 言語の構造と機能②(聴覚情報処理システム)			復習：授業中に行った過去問の振り返り			
8. 言語の音声学的側面①(音声産生のしくみと発声発語器官)			復習：授業中に行った過去問の振り返り			
9. 言語の音声学的側面③(音の最小単位と弁別素性)			復習：プリント課題			
10. 言語の意味的側面(意味の最小単位とミニマルペア)			復習：授業中に行った過去問の振り返り			
11. 言語の特性(恣意性と有契性 線条性 二重分節性 生産性)			復習：授業中に行った過去問の振り返り			
12. 音素と形態素、語彙素(異音と異形態)			復習：プリント課題			
13. 語形成①自由形態素と拘束形態素			復習：授業中に行った過去問の振り返り			
14. 語形成②複合と屈折・派生			復習：授業中に行った過去問の振り返り			
15. 文字言語と読み(文字の成り立ち、語種、熟字訓 他)			復習：プリント課題			
16. 中間テスト			復習：中間テストの振り返り			
17. 文の構造①(話者の叙述態度)			復習：授業中に行った過去問の振り返り			
18. 文の構造②(主要部と文の種類)			復習：プリント課題			
19. 文の構造③(語と語の関係 語と文の関係)			復習：授業中に行った過去問の振り返り			
20. 文の構造④(格と品詞 自動詞と他動詞)			復習：授業中に行った過去問の振り返り			
21. 文の構造⑤(文法規則)			復習：プリント課題			
22. 敬語表現			復習：プリント課題			
23. 言語病理に関連する言語理論			復習：プリント課題			
24. 脳機能と言語との関連性①大脳皮質と言語機能			復習：プリント課題			
25. 脳機能と言語との関連性②辺縁系、深部核と記憶、学習			復習：プリント課題			
26. 脳機能と言語との関連性③各種の脳神経モデル			復習：プリント課題			

27. 総復習①1~14 回までの講義内容総覧				復習：過去問とプリントの総復習			
28. 総復習②16~26 回までの講義内容総覧				復習：過去問とプリントの総復習			
定期試験(記述式問題およびマーク式問題)							
29. フィードバック(定期試験解説)①							
30. フィードバック(定期試験解説)②							
成績評価方法	項目	■課題＋中間試験(40%)	□レポート	%	■定期試験(60%)	■その他	%
	基準等	①プリント課題提出 ②中間試験(60%を合格最低点とする)			①記述式問題 ②マーク式問題 (合計60 %を合格最低点とする)		
教科書		著者	タイトル			出版社	発行年
			なし				
参考図書		高橋留美ほか	やさしい言語学			研究社	2021
		今泉敏 ほか	言語聴覚士のための基礎知識「音声学・言語学」第2版			医学書院	2021
履修要件等		なし（音声学の単位を取得しておくことが望ましい。）					
研究室		1 号館 1 階 非常勤講師控室			オフィスアワー	授業終了後、質問等あればどうぞ。	

科目No.	FSL04-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	言語発達学		担当教員 E-Mail	高橋 泰子		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	音声言語聴覚医学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	担当教員は大阪府下の保育所、幼稚園、小・中学校の巡回相談ならびに専門家派遣事業に携わっている。定型発達を示す子どもの日常の活動を紹介しながら、学習を進めていく。					
授業内容の要約	子どもの「言語発達障害学」学ぶ前に、定型発達を学ぶことで障害による問題が理解できる。また、全般的な発達を学ぶ「生涯発達心理学」に次いで、言語の表出・理解をより詳しく学ぶことで、言語聴覚士として理解が深まる。					
学修目標 到達目標	1. 日本語の特徴が説明できる 2. 言語発達を音韻論・意味論・統語論・語用論の側面から分析・評価できる 3. さまざまな言語獲得理論が説明できる 4. 音声言語および書字言語の発達段階が説明できる					
対面授業の 進め方	「〇歳になると〇〇ができる」といった機械的な記憶をするのではなく、発達の連続的プロセスを言語的側面から講義していく。講義は、配布するプリントと教科書を用いるので、指定された予習と復習をしておくこと。 専門分野の言語発達障害を理解するための基礎となるため、丁寧に学習を重ねることを勧める。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を要する場合は、Office365 Teams を用いて講義を行う。「〇歳になると〇〇ができる」といった機械的な記憶をするのではなく、発達の連続的プロセスを言語的側面から講義していく。 次回の講義までに、教科書に出てくるわからない語彙は調べるなどの予習をして講義に臨みたい。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 導入—言語発達研究の特徴			2~5 ページの復習、32~39 ページの予習			
2. 何を (what) 獲得するのか—音韻論的側面			本講義の復習、32~39 ページの予習			
3. 何を (what) 獲得するのか—音韻論的側面			本講義の復習、36~39 ページの予習			
4. 何を (what) 獲得するのか—意味論的側面			本講義の復習、40~41 ページの予習			
5. 何を (what) 獲得するのか—意味論的側面			本講義の復習、42~45 ページの予習			
6. 何を (what) 獲得するのか—統語論的側面			本講義の復習、46~49 ページの予習			
7. 何を (what) 獲得するのか—語用論的側面			50~57 ページの予習・復習			
8. 何を (what) 獲得するのか—語用論的側面			50~57 ページの復習			
9. どのように (how) 獲得するのか—理論の変遷			6~9 ページの予習・復習			
10. どのように (how) 獲得するのか—理論の変遷			6~9 ページの復習			
11. 読字の発達			58~61 ページの予習・復習			
12. 書字の発達			58~61 ページの復習			
13. 読字・書字を支える諸機能の発達			本講義の復習			
14. 脳の機能と言語の関係			本講義の復習、過去の国家試験問題を解く			
定 期 試 験 (期 末 レ ポ ー ト)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 90 %
	基準等					■その他 10%
						授業内容についての理解度を評価する。
						授業中に予習・復習の状況を口頭にて質疑応答し理解度を評価する。
教科書	著者		タイトル		出版社	発行年
	岩立志津夫・小椋たみ子編		「よくわかる言語発達」		ミネルヴァ書房	2017

参考図書	小林春美・佐々木正人編	「新・子どもたちの言語獲得」	大修館書店	2008
履修要件等	「生涯発達心理学」「言語学」が履修済みであることが望ましい。			
研究室	1号館5階 第17研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10～13:00	

科目No.	FSL05-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	聴覚心理学		担当教員 E-Mail	馬屋原 邦博		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	音声言語聴覚医学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	聴覚検査や聴覚障害者の聞こえを理解するために必要な聴覚心理学の基本的知識について学習し、音や音声の聞こえについて体験を通して理解を深める。					
学修目標 到達目標	1. 音の大きさ・高さ・音色など音の心理的性質が理解できる 2. 音や音声について、聴覚障害者の聞こえかたの特徴が理解できる					
対面授業の 進め方	講義および実際の音のデモンストレーションなどを行いながら学習を進める。					
遠隔授業の 進め方	office365 teams を利用して、講義および実際の音のデモンストレーションなどを行いながら学習を進める。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 音の物理的特性① (教科書 p.28～33)			復習：授業の範囲をまとめる			
2. 音の物理的特性② (教科書 p.28～33)			復習：授業の範囲をまとめる			
3. 音の大きさ① (教科書 p.34～37)			復習：授業の範囲をまとめる			
4. 音の大きさ② (教科書 p.34～37)			復習：授業の範囲をまとめる			
5. 騒音計の使い方			復習：授業の範囲をまとめる			
6. 音の高さ① (教科書 p.37～38)			復習：授業の範囲をまとめる			
7. 音の高さ② (教科書 p.37～38)			復習：授業の範囲をまとめる			
8. 音色とスペクトル (教科書 p.40～41)			復習：授業の範囲をまとめる			
9. マスキングと臨界帯域 (教科書 p.38～39)			復習：授業の範囲をまとめる			
10. 短音の知覚			復習：授業の範囲をまとめる			
11. 時間分解能と周波数選択性 (教科書 p.54～57)			復習：授業の範囲をまとめる			
12. 両耳聴と音源定位 (教科書 p.40～41)			復習：授業の範囲をまとめる			
13. 音声の知覚 (教科書 p.42～44)			復習：授業の範囲をまとめる			
14. 環境と聴覚			復習：授業の範囲をまとめる			
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100% □その他 %
	基準等					筆記試験により授業内容全般についての理解を評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	中村ら (編)	「聴覚障害学 第3版」		医学書院		2021
参考図書	B.C.J.ムーア	「聴覚心理学概論」		誠信書房		1994
	吉田 友敬	「言語聴覚士の音響学入門 2訂版」		海文堂出版		2020
	青木 直史	「ゼロからはじめる音響学」		講談社		2014
	今泉 敏	言語聴覚士のための音響学」		医歯薬出版		2007
履修要件等						
研究室	1 号館 5 階 第 19 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12：10～13：00		

科目No.	FSL06-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	音声言語聴覚医学 I		担当教員 E-Mail	森 一功		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	音声言語聴覚医学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	耳鼻咽喉科医師としての40年におよぶ臨床経験に基づき、音声言語医学について講義する。					
授業内容の要約	言語聴覚士として臨床で担当することになる、音声言語について講義をおこなう。 これらに関与している器官の解剖と生理について説明し、その検査法、病態、治療法について解説する。 講義にあたっては、視覚材料や音声材料を多用する。					
学修目標 到達目標	1. QOL に直結する発声、構音に関与する器官の解剖・生理を説明できる 2. 発声、構音を障害する疾病、その治療法を述べることができる					
対面授業の 進め方	パワーポイントによるスライド授業。実際の臨床での咽喉頭内視鏡ビデオや手術ビデオを見る。臨床で遭遇することはマレと思われるような症例（小生が過去2回しか診たことがない、とか。しかし、国家試験に出題されるのだ!!）のビデオも多々あるので、見ないと、もったいない。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teams を使用した授業のLIVE 配信を行う。					
授業計画					授業時間外に必要な学修	30 分以上
1. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 総論					講義の配付資料を今一度、読み直すこと。	
2. 頭頸部外科学 各論 頭頸部癌の一般論、放射線治療、再建外科					(同上)	
3. 喉頭科学 総論 (1) 喉頭の解剖、生理, ヒト摘出喉頭の観察実習					(同上)	
4. 喉頭科学 総論 (2) 発声のメカニズムの詳細					(同上)	
5. 喉頭科学 総論 (3) 声の検査					(同上)	
6. 喉頭科学 各論 (1) 喉頭の良性疾患 (1) 炎症、良性腫瘍					(同上)	
7. 喉頭科学 各論 (2) 喉頭の良性疾患 (2) 声帯麻痺、異物、外傷、先天異常					(同上)	
8. 喉頭科学 各論 (3) 喉頭の悪性疾患					(同上)	
9. 喉頭科学 各論 (4) まれな発声障害、音声治療、性同一性障害の音声					(同上)	
10. 言語医学 総論 構音に関する臨床解剖、構音のメカニズム					(同上)	
11. 言語医学 各論 器質性構音障害をきたす疾患					(同上)	
12. 総括①					(同上)	
13. 総括②					(同上)	
14. 総括③					(同上)	
定期試験						
15. 総括④					(同上)	
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	□定期試験 100%	□その他 %	
	基準等			授業の内容についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特に指定しない					
参考図書	岩田 ほか	「臨床神経学・高次脳機能障害学」		医学書院		2006
履修要件等						
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FSL07-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	音声言語聴覚医学Ⅱ		担当教員 E-Mail	大谷 真喜子 他		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	音声言語聴覚医学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	聴器、平衡覚器官の構造、生理を理解し、聴覚障害を伴う疾患について理解を深める。					
学修目標 到達目標	1. 言語聴覚士として必要な解剖、生理、疾患について幅広い知識を正確に習得する 2. 正しい解剖学的知識より疾患を論理立てて理解する 3. 医療現場における言語聴覚士の役割を理解する					
対面授業の 進め方	講義					
遠隔授業の 進め方	teams を使用した授業の LIVE 配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 外耳、中耳、顔面神経、内耳の解剖			左記授業後、復習をする			
2. 聴覚生理						
3. 外耳、中耳、顔面神経、内耳の疾患						
4. 画像検査						
5. 前庭生理						
6. 聴力検査						
7. めまいの検査						
8. 難聴						
9. 幼児難聴						
10. 補聴器						
11. 人工内耳						
12. 総括						
13. 総括						
14. 総括						
定 期 試 験 (期 末 レ ポ ー ト)						
15. 定期試験フィードバック (定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100%		□その他 %
	基準等			授業の内容全般についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	鳥山稔、田内光	言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学		医学書院	2007	
参考図書	特に指定しない					
履修要件等						
研究室			オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	SHB01-2R		授業形態	演習	開講年次	2 年次
授業科目名	失語・高次脳機能障害学 I		担当教員 E-Mail	上田 有紀人・芦塚あおい		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	高次脳機能障害学		必 修	2 単位	後 期 (60h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	豊富な臨床経験から、失語・高次脳機能障害について、基本的理解と検査方法などの基本的能力を学習する。また実際の患者様の失語や高次脳機能障害例をビデオで呈示し、臨床実習へも結びつく授業展開にする。					
授業内容の要約	高次脳機能障害を理解し、評価・診断・リハビリテーションについて学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 高次脳機能障害患者に対する言語聴覚士としての基本的役割を理解することができる 2. 高次脳機能障害の各障害について定義・症状・病巣・発現機序を理解することができる 3. 高次脳機能障害の各障害に対する検査・評価・診断ができる					
対面授業の 進め方	講義、小テスト、演習。予習・復習は必ず行うこと。授業態度は評価対象とする。					
遠隔授業の 進め方	Teams、ストリーム、課題配信等					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 高次脳機能障害とは			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
2. 記憶障害の定義・症状			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
3. 記憶障害の病巣・発現機序			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
4. 記憶障害の評価・診断 1			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
5. 記憶障害の評価・診断 2			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
6. 記憶障害のリハビリテーション			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
7. 認知症の定義・症状			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
8. 認知症の病巣・発現機序			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
9. 認知症の評価・診断			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
10. 外傷性脳損傷による高次脳機能障害			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
11. 前頭葉機能障害（遂行機能障害・全般性注意障害）			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
12. 遂行機能障害・全般性注意障害の病巣・発現機序			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
13. 遂行機能障害・全般性注意障害の評価・診断			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			

14. 中間試験				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
15. 失認の定義・症状				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
16. 失認の病巣・発現機序				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
17. 失認の評価・診断				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
18. 半側空間無視の定義・症状				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
19. 半側空間無視の病巣・発現機序				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
20. 半側空間無視の評価・診断・リハビリテーション				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
21. 失行の定義・症状・病巣・発現機序				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
22. 失行の評価・診断				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
23. 言語障害について				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
24. 失語症の定義・失語の研究史				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
25. 失語症でみられる各症状・類縁症状について				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
26. 失語症候群について				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
27. 各失語症の症状・病巣について				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
28. 原発性進行性失語について				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
29. 失語以外のコミュニケーション障害について				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること	
定期試験（期末レポート）					
30. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	□レポート %	■定期試験 70%	■その他 20%
	基準等	授業内で行う課題・小テスト		内容全般についての理解度を評価する。	授業態度
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	藤田郁代監修	「高次脳機能障害学 第3版」		医学書院	2021
	藤田郁代監修	「失語症学 第3版」		医学書院	2021
参考図書	石合純夫	「高次脳機能障害学 第3版」		医歯薬出版	2022
履修要件等	予習・復習は必須。授業内に紹介する参考文献は積極的に購入および習得することが望ましい				
研究室	芦塚：1号館4階 第6研究室 上田：1号館5階 第16研究室			オフィスアワー	芦塚：毎週火曜日 12：10～13：00 上田：毎週木曜日 12：10～13：00

科目No.	SLD01-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	言語発達障害学 I		担当教員 E-Mail	大塚 佳代子、その他		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	言語発達障害		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	肢体不自由児に対する臨床経験のある教員が治療に関しての基本的視点について講義する。					
授業内容の要約	小児の言語発達障害の中でも主に先天的な疾患による肢体不自由に起因するものについて講義する。その中でも特に脳性麻痺児及び重複障害を中心にとりあげる。運動障害、感覚障害、コミュニケーション障害など多様な臨床像について理解しコミュニケーション支援の基本的視点を探る。また、小児の発達における栄養の関わりについても言及する。					
学修目標 到達目標	1. 脳性麻痺及び重複障害の運動障害や麻痺のメカニズムについて理解する。 2. 脳性麻痺及び重複障害の臨床像を理解し、そのコミュニケーション支援の概要を知る。 3. 小児失語症と後天性高次脳機能障害についての概要を知る。 4. 栄養についての概要に触れ、発達段階における小児と栄養の関わりについて概説する。					
対面授業の 進め方	脳性麻痺、及び重複障害の臨床像、小児失語症と後天性高次脳機能障害を具体的に理解できるように臨床場面の映像の提示し、ディスカッションを実施する。実技演習等もできるだけ活用したい。					
遠隔授業の 進め方	各講義の内容に沿った解説資料と課題を毎回各受講者に送信する。各自がその課題に取り組んだ結果を期日までに担当教員に送信する。その送信内容で理解度を評価し、また各講義への出席とする。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 脳性麻痺・重複障害（定義）				【大塚】	講義内容を復習しノートにまとめる	
2. 脳性麻痺・重複障害の子どもたちの特徴				【大塚】	講義内容を復習しノートにまとめる	
3. 脳性麻痺・重複障害の評価				【大塚】	講義内容を復習しノートにまとめる	
4. 脳性麻痺・重複障害の支援				【大塚】	講義内容を復習しノートにまとめる	
5. 脳性麻痺・重複障害の課題と展望				【大塚】	講義内容を復習しノートにまとめる	
6. 脳性麻痺・重複障害の嚥下障害について ①				【大塚】	講義内容を復習しノートにまとめる	
7. 脳性麻痺・重複障害の嚥下障害について ②				【大塚】	講義内容を復習しノートにまとめる	
8. 脳性麻痺・重複障害のコミュニケーション障害について①				【大塚】	講義内容を復習しノートにまとめる	
9. 脳性麻痺・重複障害のコミュニケーション障害について②				【大塚】	講義内容を復習しノートにまとめる	
10.脳性麻痺・重複障害の AAC について				【大塚】	講義内容を復習しノートにまとめる	
11 小児失語と成人失語				【上田】	講義内容を復習しノートにまとめる	
12. 小児と成人の後天性高次脳機能障害				【上田】	講義内容を復習しノートにまとめる	
13. 栄養について				【河野】	講義内容を復習しノートにまとめる	
14. 小児と栄養				【河野】	講義内容を復習しノートにまとめる	
定 期 試 験 （ 期 末 レ ポ ー ト ）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）				【塚本】	講義内容の復習	
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100 %
	基準等					講義中に配布した資料の内容から出題し理解度を評価する。
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	藤田郁代	言語発達障害学 第3版			医学書院	2021
参考図書						

履修要件等	言語聴覚障害概論Ⅰ・Ⅱが履修済みであることが望ましい。		
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。

科目No.	SLD02-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	言語発達障害学Ⅱ		担当教員 E-Mail	高橋 泰子		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	言語発達障害		必 修	2 単位	後 期 (60h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	担当教員は、保育所、幼稚園、小・中・特別支援学校において巡回相談ならびに専門家派遣事業に携わっている。そこで出会う発達に障害のある子どもたちの評価や指導について説明を行う。					
授業内容の要約	定型発達を知る「生涯発達心理学」や「言語発達学」を学んだ後、本科目を修得することで障害による問題を理解できる。また、評価を行った後、具体的な指導や支援について「言語発達障害治療学Ⅱ」を学ぶことが望ましい。					
学修目標 到達目標	1. 言語発達障害の原因を理解する 2. 言語発達障害の心理・教育的検査が正しく実施できる 3. 言語発達障害の心理・教育的検査の結果、診断と評価ができる 4. 言語発達障害児の症状と、観察のポイントを理解する					
対面授業の 進め方	前半は知的能力障害、自閉スペクトラム症とその周辺領域の発達障害について正しく理解できるよう座学中心の講義を行う。後半は検査用具を用いて評価の演習を行う。					
遠隔授業の 進め方	前半、遠隔授業になった場合は、Office365 Teams を用いて知的能力障害、自閉スペクトラム症等の発達障害について正しく理解できるよう講義を行う。後半は演習を要するため、原則対面授業を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 障害の定義、社会的な障害（歴史的変遷）						
2. 知的障害の原因 遺伝子病・配偶子病			「小児科学」と関連させて復習			
3. 知的障害の原因 遺伝子病・配偶子病			「小児科学」と関連させて復習			
4. 知的障害の原因 胎芽期・胎児期の障害			講義の復習			
5. 知的障害の原因 胎児期・周産期の障害			講義の復習			
6. 知能とは何か			「学習・認知心理学」と関連させて復習			
7. 知能を生み出し・支える条件			「学習・認知心理学」と関連させて復習			
8. 知的障害児の早期発見のための検査法、知的障害児の言語特徴			講義の復習			
9. 自閉症の歴史的変遷、定義、症状			講義の復習			
10. 自閉症の歴史的変遷、定義、症状			講義の復習			
11. 自閉症の歴史的変遷、定義、症状			講義の復習			
12. 自閉症の歴史的変遷、定義、症状			過去の国家試験問題を解いてみる			
13. 学習障害の歴史的変遷、定義、症状			講義の復習			
14. 学習障害の歴史的変遷、定義、症状			講義の復習			
15. 学習障害の歴史的変遷、定義、症状			講義の復習			
16. 学習障害の歴史的変遷、定義、症状			過去の国家試験問題を解いてみる			
17. 発達障害の定義、症状			講義の復習			
18. 発達障害の定義、症状			講義の復習			
19. 発達障害の定義、症状			講義の復習			
20. 発達障害の定義、症状			過去の国家試験問題を解いてみる			
21. 知能について、心理・教育的検査の概要（導入）			講義の復習			
22. 心理・教育的診断のためのスクリーニングテストの解説と演習			検査手順を覚える			
23. 心理・教育的診断のためのスクリーニングテストの解説と演習			検査の練習			
24. 心理・教育的診断と評価の方法 WISC－Vの実施手順			検査の練習			

25. 心理・教育的診断と評価の方法 WISC－Vの実施手順				検査の練習		
26. 心理・教育的診断と評価の方法 WISC－Vの実施手順				検査の練習		
27. 心理・教育的診断と評価の方法 WISC－Vの結果の解釈				事例から検査結果を分析・考察する		
28. 心理・教育的診断と評価の方法 WISC－Vの結果の解釈				事例から検査結果を分析・考察する		
29. 心理・教育的診断と評価の方法 WISC－Vの結果の解釈				事例から検査結果を分析・考察する		
定期試験（期末レポート）						
30. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 90 %	■その他 10 %	
	基準等			授業内容の理解度を評価する。	演習中の参加状況进行评估する。	
教科書		著者	タイトル		出版社	発行年
		藤田郁代監修 玉井ふみ・深浦順一編集	「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学」第3版		医学書院	2021
参考図書		松本治雄・後上鉄夫編著	「言語障害 事例による用語解説」		ナカニシヤ出版	2000
		小野次朗他編	「よくわかる発達障害 第2版」		ミネルヴァ書房	2010
履修要件等		「生涯発達心理学」「言語発達学」が履修済みであることが望ましい。				
研究室		1号館5階 第17研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:10～13:00	

科目No.	SHD02-2R		授業形態	演習	開講年次	2 年次
授業科目名	聴覚障害の コミュニケーション学		担当教員 E-Mail	馬屋原 邦博		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	聴覚障害		必 修	1 単位	前 期 (16h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	障害者福祉施設で言語聴覚士として勤務した経験から、聴覚障害児者とのコミュニケーション方法について授業を行う。					
授業内容の要約	聴覚障害者（児）のコミュニケーション方法について、補聴器及び人工内耳装用による音声言語手段や読話・筆談などの視覚的手段、および手話言語についての理解を深める。					
学修目標 到達目標	1. 聴覚障害者（児）のコミュニケーション方法のそれぞれの特徴が理解できる 2. コミュニケーション方法の体験を通し、聴覚障害者（児）に対する基本的な対応ができる					
対面授業の 進め方	講義とコミュニケーション方法についての実技学習を行う。					
遠隔授業の 進め方	office365 teams を利用して、講義とコミュニケーション方法についての実技学習を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 聴覚障害者（児）のコミュニケーション方法			復習：授業の内容をまとめること			
2. 手話によるコミュニケーション 1（指文字）			復習：実技の内容を復習すること			
3. 手話によるコミュニケーション 2（あいさつ・自己紹介）			復習：実技の内容を復習すること			
4. 手話によるコミュニケーション 3（医療に関する手話）			復習：実技の内容を復習すること			
5. 補聴器・人工内耳などの聴覚補償とコミュニケーション			復習：実技の内容を復習すること			
6. 読話によるコミュニケーション			復習：実技の内容を復習すること			
7. 筆談によるコミュニケーションと情報保障			復習：実技の内容を復習すること			
定 期 試 験						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100 %		□その他 %
	基準等			手話読取試験および筆記試験により授業内容全般についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
		授業時にプリントを配布				
参考図書	中村ほか（編）	「聴覚障害学 第3 版」		医学書院		2021
	一番ヶ瀬康子(編)	「聴覚・言語障害者とコミュニケーション新訂版」		中央法規出版		2010
履修要件等						
研究室	1 号館 5 階 第 19 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12：10～13：00		

科目No.	SHD03-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	小児聴覚障害診断学		担当教員 E-Mail	廣瀬 宜礼		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	聴覚障害		必 修	1 単位	後 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	聴覚障害児へ（リ）ハビリテーションと係わりについて学ぶ。聴覚言語学習の指導法、各種コミュニケーション方法を用いた言語指導、養育指導などについて講義や演習を交えながら理解を深める。					
学修目標 到達目標	1. 小児聴覚障害の評価や診断に基づく（リ）ハビリテーションについて理解できる 2. 聴覚障害児の（リ）ハビリテーション計画を立案・実施（演習）できる 3. 指導教材や器具等を作成できる					
対面授業の 進め方	パワーポイントによる講義で教科書と配付資料を併用する。聴覚と小児の発達と耳鼻科領域の知識を復習しておく。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業になった場合は、teams を使用した授業を LIVE 配信にて、対面授業と同様の内容・形式で行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30 分以上	
1. 聴覚障害の概要 (教科書 P2～14・プリント)				復習を 30 分		
2. 聴覚の発生・構造 (教科書 P46～57・プリント)				復習を 30 分		
3. 聴覚の構造と機能 伝音系・感音系疾患 1 (教科書 P58～61・プリント)				復習を 30 分		
4. 聴覚の構造と機能 伝音系・感音系疾患 2 (教科書 P61～71・プリント)				復習を 30 分		
5. 聴覚の構造と機能 伝音系・感音系疾患 3 (教科書 P61～71・P351～353 プリント)				復習を 30 分		
6. 遺伝性難聴 (教科書 P63～65・プリント)				復習を 30 分		
7. 乳幼児の身体と精神と聴覚の発達 1 (教科書 P4～7・プリント)				復習を 30 分		
8. 乳幼児の身体と精神と聴覚の発達 2 (教科書 P116～117・プリント)				復習を 30 分		
9. 乳幼児の身体と精神と聴覚の発達 3 (教科書 P116～117・プリント)				復習を 30 分		
10. 乳幼児の身体と精神と聴覚の発達 4 まとめ				復習を 30 分		
11. 小児聴力の評価と診断 (ABR・OAE・新生児聴覚スクリーニング) (教科書 P114～127・プリント)				復習を 30 分		
12. 小児聴力の評価と診断 (幼児聴力検査・健診) (教科書 P114～127・プリント)				復習を 30 分		
13. 小児人工聴覚器 (教科書 P162～197・プリント)				復習を 30 分		
14. 特異な聴覚障害 (APD・Lid・ANSD) (教科書 P347～350・プリント)				復習を 30 分		
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック (まとめと国家試験のポイントを見据える)						
成績評価方法	項目	■小テスト 40%	■課題・レポート %	■定期試験 60%	□その他 %	
	基準等	授業内の小テストを実施し、授業の内容についての理解度を評価する	与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価する	定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する		
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	藤田郁代監修	「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」第 3 版			医学書院	2021

参考図書	宇佐美真一	「きこえと遺伝子」第2版		金原出版	2016
	喜多村健 編著	言語聴覚士のための 聴覚障害学		医歯薬出版	2002
	立木 孝	聴覚検査の実際 改訂4版		南山堂	2017
履修要件等					
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。	

科目No.	SHD04-2R		授業形態	講義	開講年次	2 年次
授業科目名	成人聴覚障害診断学		担当教員 E-Mail	馬屋原 邦博		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	聴覚障害		必 修	1 単位	後 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	障害者福祉施設で言語聴覚士として勤務した経験から、成人聴覚障害者の評価方法について授業を行う。					
授業内容の要約	成人聴覚障害者の障害状況を知り、障害軽減・解消のための対策を考え、社会参加を促すための方法を考え、学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 成人の聴覚障害の種類と原因が理解できる 2. 成人の聴覚障害の評価の方法が理解できる 3. 成人聴覚障害者の心理とコミュニケーション方法が理解できる					
対面授業の 進め方	教科書にそって、講義を中心に進める。検査、評価方法について実技を適宜行う。					
遠隔授業の 進め方	office365 teams を利用して、教科書にそって、講義を中心に進める。検査、評価方法についての実技は動画の視聴を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 聴覚の機能と聴覚障害（障害が生じた時期と現在のライフステージ） （教科書 p.2～12）				復習：授業の範囲をまとめる		
2. 成人聴覚障害の種類と原因①（教科書 pp.58～66）				復習：授業の範囲をまとめる		
3. 成人聴覚障害の種類と原因②（教科書 pp.58～66）				復習：授業の範囲をまとめる		
4. 聴覚障害者のリハビリテーション（教科書 pp.14～21、206～209）				復習：授業の範囲をまとめる		
5. 情報収集と評価（教科書 pp.210～213）				復習：授業の範囲をまとめる		
6. 聴覚検査（教科書 pp.74～108）				復習：授業の範囲をまとめる		
7. 聴覚の評価（教科書 pp.210～213）				復習：授業の範囲をまとめる		
8. 質問紙等によるコミュニケーション評価（教科書 pp.213、218）				復習：授業の範囲をまとめる		
9. 成人聴覚障害者の心理社会面の評価（教科書 pp.213～214）				復習：授業の範囲をまとめる		
10. コミュニケーション方法の評価①（教科書 pp.215～218）				復習：授業の範囲をまとめる		
11. コミュニケーション方法の評価②（教科書 pp.215～218）				復習：授業の範囲をまとめる		
12. コミュニケーション方法の評価③（教科書 pp.215～218）				復習：授業の範囲をまとめる		
13. 先天性聴覚障害者と日本語運用力の評価（教科書 pp.217）				復習：授業の範囲をまとめる		
14. ニーズの確定と目標設定（教科書 pp.218～221）				復習：授業の範囲をまとめる		
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100 % □その他 %
	基準等					筆記試験により授業内容全般についての理解度を評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	中村ら（編）	「聴覚障害学 第3版」		医学書院		2021
参考図書	喜多村健ほか	「言語聴覚士のための聴覚障害学」		医歯薬出版		2002
	山田弘幸（編）	「改訂聴覚障害Ⅱ - 臨床編」		建帛社		2008
履修要件等	「聴力検査法」を履修していることが望ましい。					
研究室	1 号館 5 階 第 19 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12：10～13：00		

科目No.	SCP02-2R		授業形態	演習	開講年次	2 年次
授業科目名	臨床ゼミⅡ（ST）		担当教員 E-Mail	馬屋原 邦博・芦塚 あおい 言語聴覚学専攻教員		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	臨床実習		必 修	1 単位	前 期（30h）
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	実習時に必要な簡単な検査の実技や、介助方法などを学習する。					
学修目標 到達目標	1. 課題を自分で調べ、まとめることができる 2. 自分が調べたこと、まとめたことを分かりやすく伝えることができる 3. 実習時に必要な検査や介助等を正しく行うことができる					
対面授業の 進め方	提示された項目について、調べてまとめ、発表を行う。 実技練習も含む。					
遠隔授業の 進め方	課題を配信し、office365 teams を用いて発表を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. オリエンテーション				復習：授業の趣旨を理解すること		
2. 脈拍について調べる ①				復習：調べたことをパワーポイントにまとめる		
3. スポーツ活動（体育祭）を通じた学生間連携・チームワーク						
4. 脈拍についての発表と実技 ②				復習：今日の内容についてまとめる		
5. 呼吸・最長発声持続時間について調べる ①				復習：調べたことをパワーポイントにまとめる		
6. 呼吸・最長発声持続時間についての発表と実技 ②				復習：今日の内容についてまとめる		
7. 車いすの扱い・車いす使用者の介助について調べる ①				復習：調べたことをパワーポイントにまとめる		
8. 車いすの扱い・車いす使用者の介助についての発表と実技 ②				復習：今日の内容についてまとめる		
9. 血圧について調べる ①				復習：調べたことをパワーポイントにまとめる		
10. 血圧についての発表と実技 ②				復習：今日の内容についてまとめる		
11. 特別支援教育について調べる ①				復習：今日の内容についてまとめる		
12. 特別支援教育について調べる ②				復習：調べたことをパワーポイントにまとめる		
13. フリートークの話題について調べる ①				復習：今日の内容についてまとめる		
14. フリートークの話題についての発表 ② 支援学校見学準備				復習：支援学校見学の諸注意をまとめる		
15. 総括及びフィードバック（全講義のふりかえり）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	■レポート 70%	□定期試験 %	■その他 10%	
	基準等	調べたことの発表内容等について評価する。	実技を行ったことについて毎回レポートを課す。		授業中の参加度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
		特になし				
参考図書		特になし				
履修要件等						
研究室	馬屋原：1号館5階 第19研究室 芦塚：1号館4階 第6研究室		オフィスアワー	馬屋原：毎週水曜日 12：10～13：00 芦塚：毎週火曜日 12：10～13：00		

科目No.	SCP04-2R		授業形態	演習	開講年次	2 年次			
授業科目名	臨床実習指導Ⅱ（S T）		担当教員 E-Mail	馬屋原 邦博・芦塚 あおい 言語聴覚学専攻教員					
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間			
	言語聴覚学	臨床実習		必 修	1 単位	後 期（30h）			
教員の実務経験と 授業内容の関連	病院・福祉施設等で言語聴覚士として勤務した経験から、臨床基礎実習に向けて必要な基礎的知識・観察技術に関する授業を行う。								
授業内容の要約	臨床基礎実習に向け、これまでに履修した言語聴覚障害、摂食嚥下障害についての基礎的知識等をベースに専門職としての視点で観察記録を作成する								
学修目標 到達目標	1. 対象児・者の全体像、症状および訓練の観察・記録方法を修得する 2. 専門用語を用いて観察記録が書ける 3. 言語聴覚障害・摂食嚥下障害の特徴を理解し、鑑別できる								
対面授業の 進め方	言語聴覚学専攻教員が各自の専門分野を分担して学習を進める。 臨床基礎実習を念頭におき、積極的に学習すること。								
遠隔授業の 進め方									
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上			
1. 観察記録の書き方（総論）			復習：今日の内容をまとめる						
2. 観察記録の書き方（失語症・高次脳機能障害 ①）			復習：今日の内容をまとめる						
3. 観察記録の書き方（失語症・高次脳機能障害 ②）			復習：今日の内容をまとめる						
4. 観察記録の書き方（失語症・高次脳機能障害 ③）			復習：今日の内容をまとめる						
5. 観察記録の書き方（構音障害・音声障害①）			復習：今日の内容をまとめる						
6. 観察記録の書き方（構音障害・音声障害②）			復習：今日の内容をまとめる						
7. 観察記録の書き方（嚥下障害）			復習：今日の内容をまとめる						
8. 観察記録の書き方（小児）			復習：今日の内容をまとめる						
9. 解剖学実習見学事前学習＊			復習：今日の内容をまとめる						
10. 解剖学実習見学＊			復習：今日の内容をまとめる						
11. 臨床基礎実習準備①			復習：今日の内容をまとめる						
12. 臨床基礎実習準備②			復習：今日の内容をまとめる						
13. 臨床見学 ①＊（特別支援学校見学）（9 月中）			復習：今日の内容をレポートにまとめる						
14. 臨床見学 ②＊（特別支援学校見学）（9 月中）			復習：今日の内容をレポートにまとめる						
15. 臨床見学 ③＊（クリニック見学）			復習：今日の内容をレポートにまとめる						
＊見学日時等は実習先と調整のうえ決定する。									
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	90%	□定期試験	%	■その他	10%
	基準等	臨床見学についてのレポートを課す。			授業への参加度を評価する。				
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年		
	※「大阪河崎リハビリテーション大学 言語聴覚学専攻：実習の手引き」								
参考図書	藤田郁代ほか	「標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論 第2版」			医学書院		2019		
	大森孝一ほか	「言語聴覚士テキスト 第3版」			医歯薬出版		2018		
履修要件等	「臨床ゼミⅡ」が履修済であること								

研究室	馬屋原：1号館5階 第19研究室 芦塚：1号館4階 第6研究室	オフィスアワー	馬屋原：毎週水曜日 12：10～13：00 芦塚：毎週火曜日 12：10～13：00
-----	------------------------------------	---------	---

科目No.	SCP07-2R		授業形態	実習	開講年次	2 年次			
授業科目名	臨床基礎実習（S T）		担当教員 E-Mail	馬屋原 邦博・芦塚 あおい 言語聴覚学専攻教員					
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間			
	言語聴覚学	臨床実習		必 修	1 単位	後 期（40h） 1 週間			
教員の実務経験と 授業内容の関連									
授業内容の要約									
医療・介護・福祉・教育機関において、言語聴覚・摂食嚥下障害のある方の実態と言語聴覚士の業務内容を見学し、対象児・者に対する言語聴覚士の基本的態度、ニーズの把握とその解決に必要な支援の方法、関連職種の職務内容等の概略を学ぶ。									
学修目標 到達目標									
1. リハビリテーション従事者としての職責を自覚し指導者、対象児・者に対する基本的態度を身につける 2. 医療・介護・福祉・教育機関の概要とそこでの言語聴覚士の職務内容を理解する 3. 言語聴覚障害・摂食嚥下障害のうち主要なものについて、その特徴を理解し鑑別できる 4. 対象児・者の全体像、症状および訓練を観察し、症状や反応などが記録できる 5. 関連職種の職務内容の概要を知り、職種間連携について理解する									
対面授業の 進め方									
実習日誌は実習中毎日作成・提出し指導言語聴覚士の校閲・指導を受ける。実習終了時は一括して大学に提出する。 実習終了時は実習報告レポート等を作成し、実習指導者と大学に提出する。 大学において実習報告会で発表する。									
遠隔授業の 進め方									
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上			
【臨床基礎実習】 ・医療・介護・福祉・教育機関において、見学・観察・記録・考察を行い、実習指導者の指導・助言を受ける。 【臨床基礎実習報告会】 ・実習内容の記録、目標に対する結果、考察、今後の課題等をレポートにまとめ、報告会で発表する。 ・相互の実習体験を共有し、臨床評価実習の基盤とする。				実習前：臨床実習に必要な準備 実習中：観察した症例の記録、不明な点を調べる 実習後：実習報告会の準備等					
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	50%	□定期試験	%	■その他	50%
	基準等			提出物（必要書類・日誌・レポート・実習報告書等）				実習前指導・実習中・実習報告会における出席・学習の状況、実習指導者による評価等を総合する。	
教科書		著者		タイトル		出版社		発行年	
		※「大阪河崎リハビリテーション大学 言語聴覚学専攻：実習の手引き」							
参考図書		藤田郁代ほか		「標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論 第2版」		医学書院		2019	
		大森孝一ほか		「言語聴覚士テキスト 第3版」		医歯薬出版		2018	
履修要件等		実習要件を満たしていること。「臨床ゼミⅡ」「臨床実習指導Ⅱ」が取得できていること。							
研究室		馬屋原：1 号館 5 階 第 19 研究室 芦塚：1 号館 4 階 第 6 研究室		オフィスアワー		馬屋原：毎週水曜日 12：10～13：00 芦塚：毎週火曜日 12：10～13：00			